

取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

LAND CRUISER 70



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様などの情報

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使い いただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	24
シートベルト	26
SRS エアバッグ	30
お子さまの安全のために	36
子供専用シート	37
チャイルドシートの 取り付け	43
排気ガスに対する注意	45
1-2. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー システム	46

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	48
計器類	51

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	56
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
ドア（フロントドア・ リヤドア）	59
バックドア	62
テールゲート	67
3-3. シートの調整	
フロントシート	70
リヤシート	71
ヘッドレスト	73
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	75
インナーミラー	77
ドアミラー	78
補助確認装置	80
3-5. ガラスの開閉	
パワーウインドウ	81
リヤクォーターガラス	83
スライド式リヤガラス	85

4 運転

4-1. 運転にあたって	
運転にあたって.....	88
荷物を積むときの注意.....	97
4-2. 運転のしかた	
エンジン（イグニッション）	
スイッチ.....	99
マニュアル	
トランスミッション.....	102
方向指示レバー.....	104
パーキングブレーキ.....	105
4-3. ランプのつけ方・	
ワイパーの使い方	
ランプスイッチ.....	106
ワイパー&ウォッシャー	
（フロント）.....	109
ワイパー&ウォッシャー	
（リヤ）.....	111
4-4. 給油のしかた	
給油口の開け方.....	112
4-5. 運転支援装置について	
運転を補助する装置.....	116
4WD システム.....	118
デフロック.....	124
ウインチ.....	126
アクセサリコネクタ.....	141
パワーアンテナ.....	143
4-6. 運転のアドバイス	
寒冷時の運転.....	145

5 室内装備・機能

5-1. エアコン・	
デフォグガーの使い方	
エアコン.....	150
リヤヒーター.....	154
5-2. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧.....	155
・フロントルームランプ／	
リヤルームランプ.....	156
5-3. 収納装備の使い方	
収納装備一覧.....	157
・グローブボックス.....	158
・コンソールボックス.....	159
・ドアポケット.....	160
・オープントレイ.....	160
荷室内装備.....	161
5-4. その他の室内装備の使い方	
その他の室内装備.....	162
・サンバイザー.....	162
・灰皿.....	162
・シガレットライター.....	163
・時計.....	164

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	170
内装の手入れ.....	172
タイヤについて.....	174

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	178
エアコンフィルターの 清掃.....	180
ウォッシュ液の補給.....	183
ワイヤレスリモコンの 電池交換.....	185
ヒューズの点検・交換.....	187
電球（バルブ）の交換.....	194

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは.....	212
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	213
発炎筒.....	214
車両を緊急停止するには.....	216

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....	217
フューエルポンプ シャットオフシステム.....	223
警告灯がついたときは.....	224
パンクしたときは.....	226
エンジンが かからないときは.....	242
バッテリーが あがったときは.....	243
オーバーヒート したときは.....	246
スタックしたときは.....	249

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	252
--------------------------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	260
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	263
アルファベット順さくいん	264
五十音順さくいん	265

1

2

3

4

5

6

7

8

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適合しない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ 車速

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- ・エアバッグ作動に関する情報
- ・エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

● EDR データの情報開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- ・お車の使用者の同意がある場合
- ・裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・トヨタが訴訟で使用する場合
- ・統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

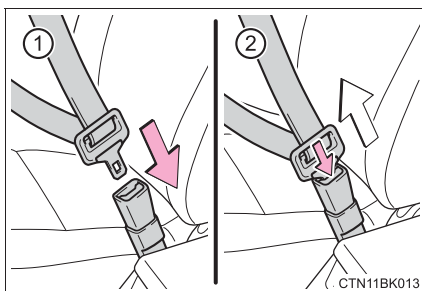
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

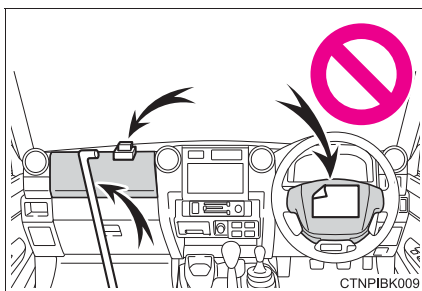
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。

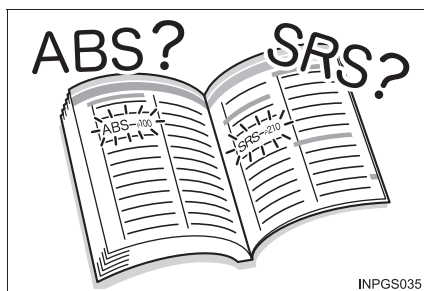


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

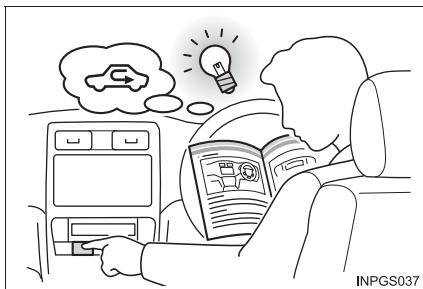
■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん265
- ・ アルファベット順
さくいん264



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次 12



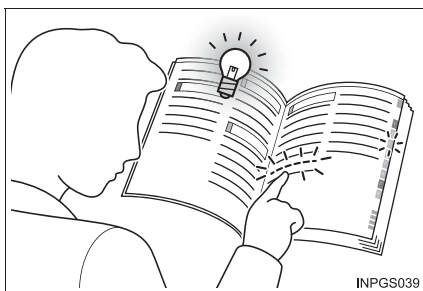
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)260
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)263



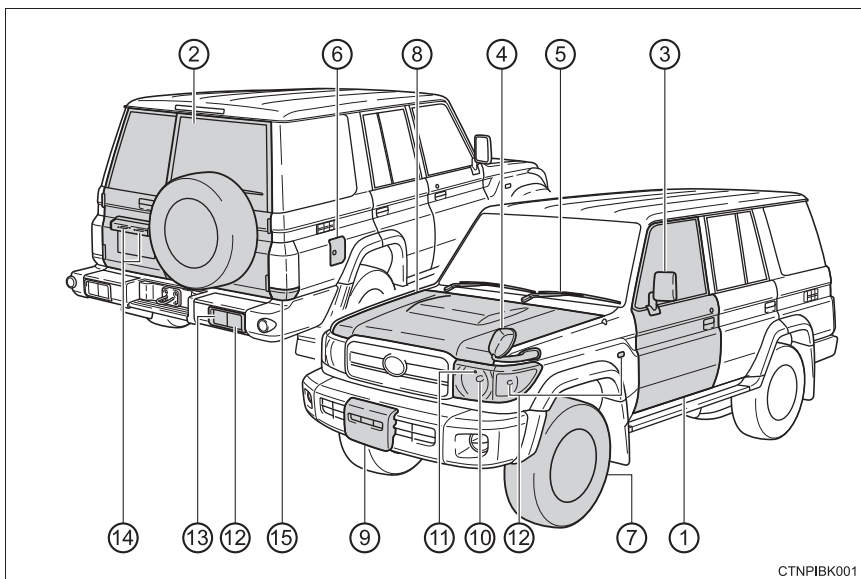
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観 (バン)



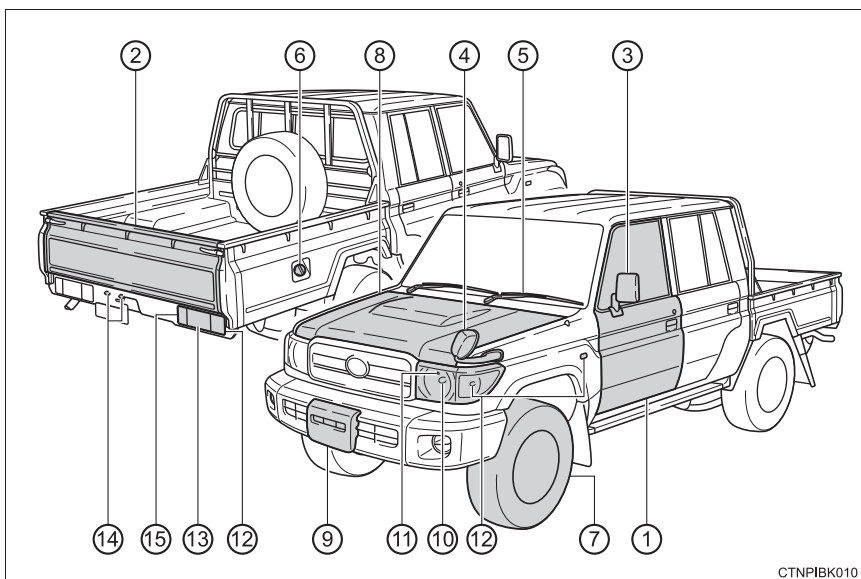
- | | | |
|----------|-------|--------|
| ① ドア | | P. 59 |
| 施錠／解錠 | | P. 59 |
| ドアガラスの開閉 | | P. 81 |
| 警告灯 | | P. 225 |
| ② バックドア | | P. 62 |
| 施錠／解錠 | | P. 62 |
| 車外から開ける | | P. 63 |
| 警告灯 | | P. 225 |
| ③ ドアミラー | | P. 78 |
| 鏡面の角度調整 | | P. 78 |
| ④ 補助確認装置 | | P. 80 |

- ⑤ **ワイパー**.....P. 109
 冬季の注意.....P. 145
- ⑥ **給油口**.....P. 112
 給油方法.....P. 112
 燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 252
- ⑦ **タイヤ**.....P. 174
 サイズ・空気圧.....P. 256
 冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 145
 点検・ローテーション.....P. 174
 パンク時の対処.....P. 226
- ⑧ **ボンネット**.....P. 178
 開け方.....P. 178
 エンジンオイル.....P. 252
 オーバーヒート時の対処.....P. 246
- ⑨ **ウインチ★**.....P. 126

走行に関わる外装のランプバルブ (交換要領：P. 194, ワット数：P. 256)

- ⑩ **ヘッドランプ**.....P. 106
- ⑪ **車幅灯**.....P. 106
- ⑫ **方向指示灯**.....P. 104
- ⑬ **制動灯／尾灯**
- ⑭ **番号灯**.....P. 106
- ⑮ **後退灯**
 シフトポジションを R にする.....P. 102

■ 外観 (トラック)



CTNPIBK010

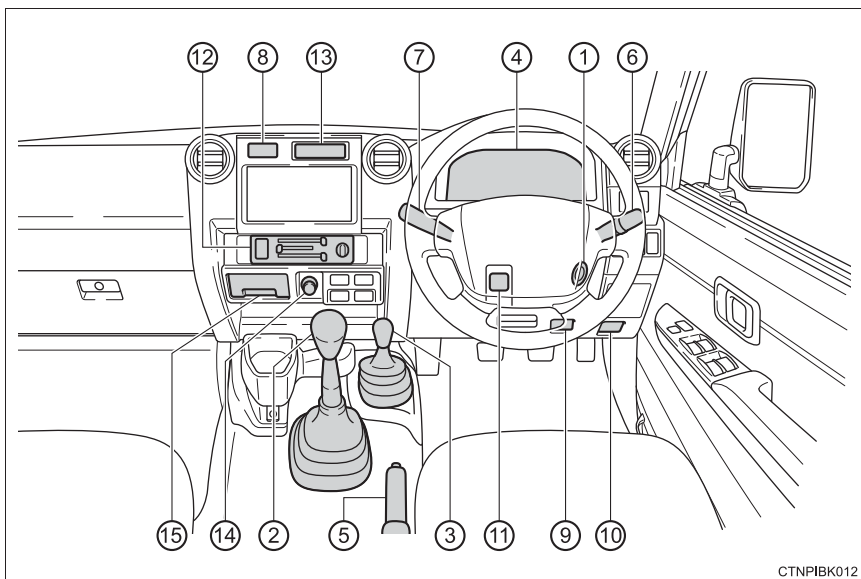
- | | |
|----------------|--------|
| ① ドア | P. 59 |
| 施錠／解錠 | P. 59 |
| ドアガラスの開閉 | P. 81 |
| 警告灯 | P. 225 |
| ② テールゲート | P. 67 |
| ③ ドアミラー | P. 78 |
| 鏡面の角度調整 | P. 78 |
| ④ 補助確認装置 | P. 80 |

- ⑤ **ワイパー**.....P. 109
 冬季の注意.....P. 145
- ⑥ **給油口**.....P. 112
 給油方法.....P. 112
 燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 252
- ⑦ **タイヤ**.....P. 174
 サイズ・空気圧.....P. 256
 冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 145
 点検・ローテーション.....P. 174
 パンク時の対処.....P. 226
- ⑧ **ボンネット**.....P. 178
 開け方.....P. 178
 エンジンオイル.....P. 252
 オーバーヒート時の対処.....P. 246
- ⑨ **ウインチ★**.....P. 126

走行に関わる外装のランプバルブ (交換要領：P. 194, ワット数：P. 256)

- ⑩ **ヘッドランプ**.....P. 106
- ⑪ **車幅灯**.....P. 106
- ⑫ **方向指示灯**.....P. 104
- ⑬ **制動灯／尾灯**
- ⑭ **番号灯**.....P. 106
- ⑮ **後退灯**
 シフトポジションを R にする.....P. 102

■ インストルメントパネル

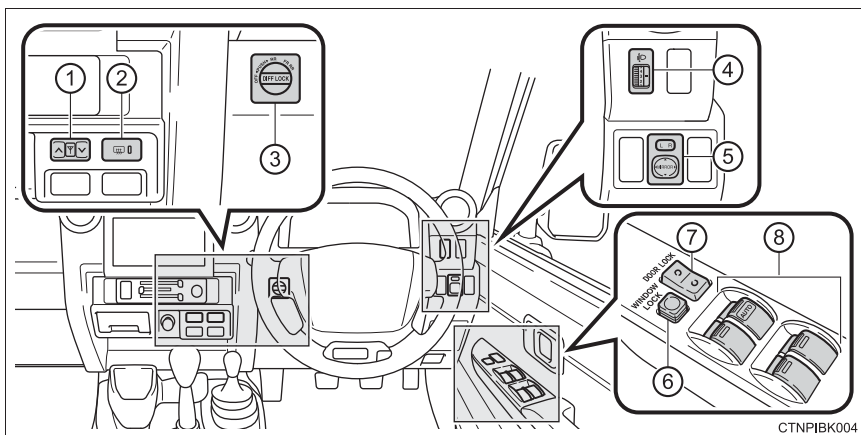


CTNPIBK012

- | | |
|------------------------|--------|
| ① エンジンスイッチ | P. 99 |
| エンジンの始動 | P. 99 |
| エンジンの緊急停止 | P. 216 |
| エンジンが始動できないときの対処 | P. 242 |
| ② シフトレバー | P. 102 |
| けん引時の注意 | P. 218 |
| ③ トランスファーレバー | P. 118 |
| ④ メーター | P. 51 |
| 見方・明るさの調整 | P. 51 |
| 警告灯／表示灯 | P. 48 |
| 警告灯点灯時の対処 | P. 224 |

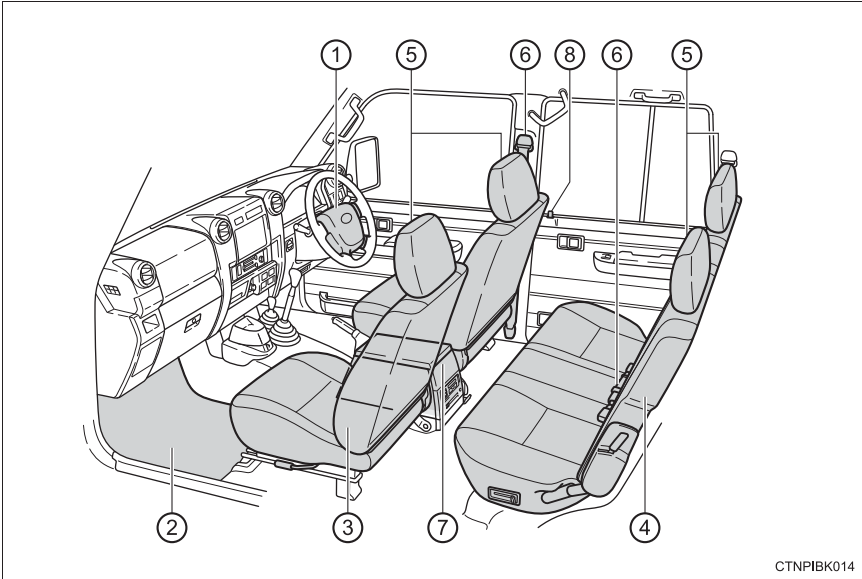
⑤	パーキングブレーキ	P. 105
	かける・解除する	P. 105
	冬季の注意	P. 146
	警告ブザー	P. 224
⑥	方向指示レバー	P. 104
	ランプスイッチ	P. 106
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯	P. 106
⑦	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 109, 111
	使い方	P. 109, 111
	ウォッシャー液の補充	P. 183
⑧	非常点滅灯スイッチ	P. 213
⑨	給油口オープナー★	P. 112
⑩	ボンネット解除レバー	P. 178
⑪	ハンドル位置調整レバー	P. 75
⑫	エアコン	P. 150
⑬	時計	P. 164
⑭	シガーライター	P. 163
⑮	灰皿	P. 162

■スイッチ類



- ① アンテナスイッチP. 143
- ② リヤウインドウデフォグガスイッチ★P. 151
- ③ デフロックスイッチ★P. 124
- ④ 手動光軸調整ダイヤルP. 107
- ⑤ ドアミラースイッチP. 78
- ⑥ ウインドウロックスイッチP. 81
- ⑦ ドアロックスイッチP. 60
- ⑧ パワーウインドウスイッチP. 81

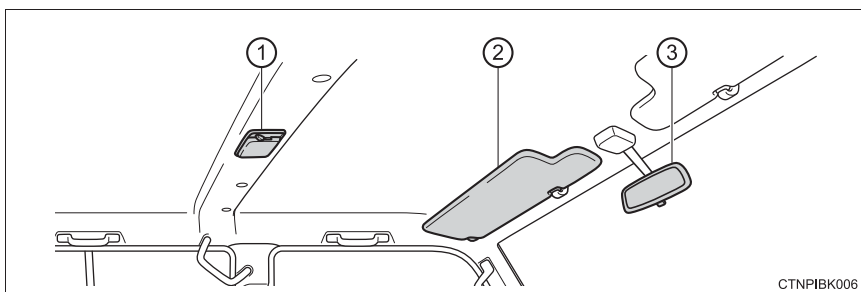
■ 室内



CTNPIBK014

- | | | |
|-------------|-------|--------|
| ① SRS エアバッグ | | P. 30 |
| ② フロアマット | | P. 22 |
| ③ フロントシート | | P. 70 |
| ④ リヤシート | | P. 71 |
| ⑤ ヘッドレスト | | P. 73 |
| ⑥ シートベルト | | P. 26 |
| ⑦ コンソールボックス | | P. 159 |
| ⑧ ロックボタン | | P. 60 |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- ① フロントルームランプ／リヤルームランプ★P. 156
- ② サンバイザーP. 162
- ③ インナーミラー.....P. 77

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使い いただくために

運転する前に.....	22
安全なドライブのために	24
シートベルト.....	26
SRS エアバッグ.....	30
お子さまの安全のために	36
子供専用シート.....	37
チャイルドシートの 取り付け.....	43
排気ガスに対する注意	45

1-2. 盗難防止装置

エンジンイモビライザー システム.....	46
--------------------------	----

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

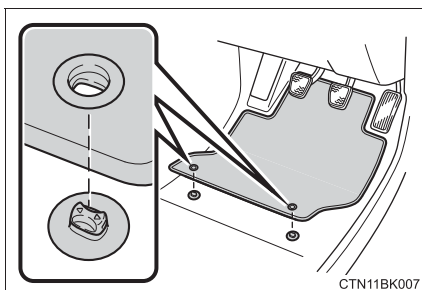
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

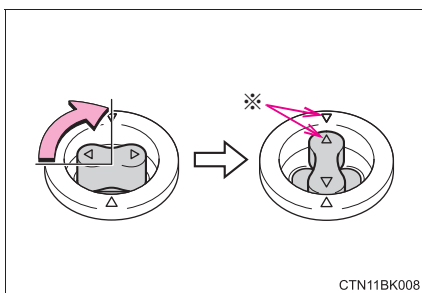
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

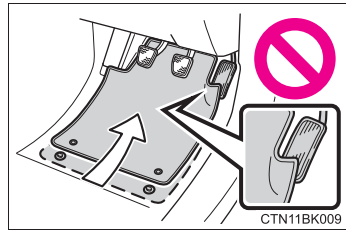
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になるほか、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが N の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

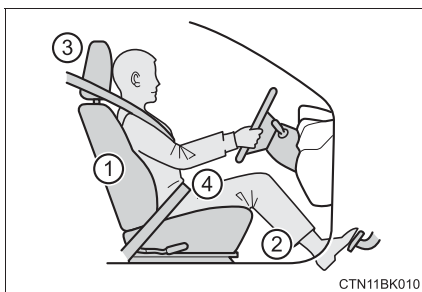


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
(→ P. 70)
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
(→ P. 70)
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする
(→ P. 73)
- ④ シートベルトを正しく着用する
(→ P. 26)



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
(→ P. 26)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 37)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→ P. 77, 78)

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

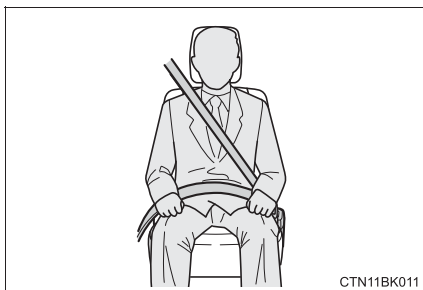
シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

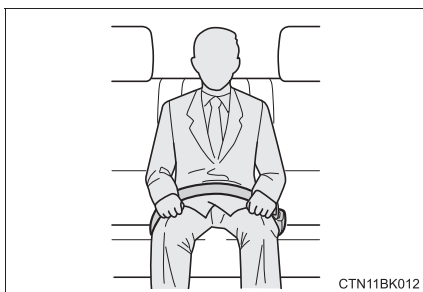
◆ 3点式シートベルト

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



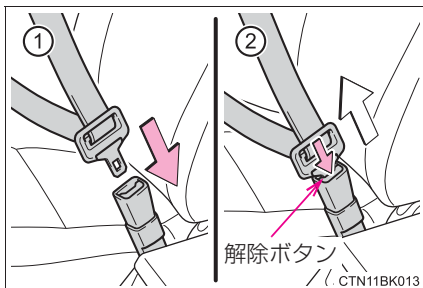
◆ 2点式シートベルト

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させ、ベルトの長さを調節する
- 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方

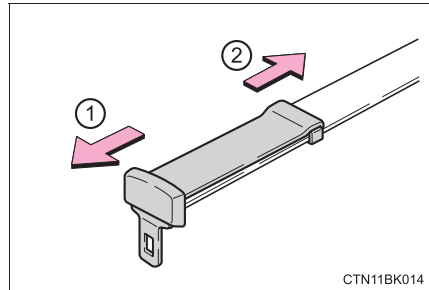
- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



シートベルトの長さ調節 (2点式シートベルト)

- ① 伸ばす
- ② 縮める

着用時は、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着するようにベルトの長さを調整してください。



知識

■ シートベルトロックの解除方法 (3点式シートベルト)

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→ P. 37)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 26)

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

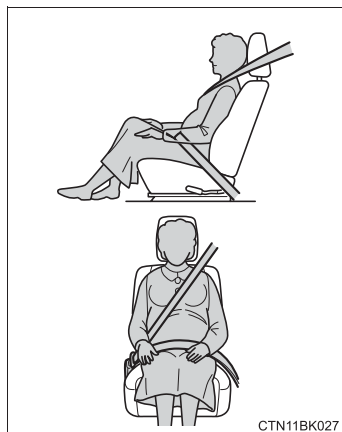
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 26)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

 **警告****■ お子さまを乗せるときは**

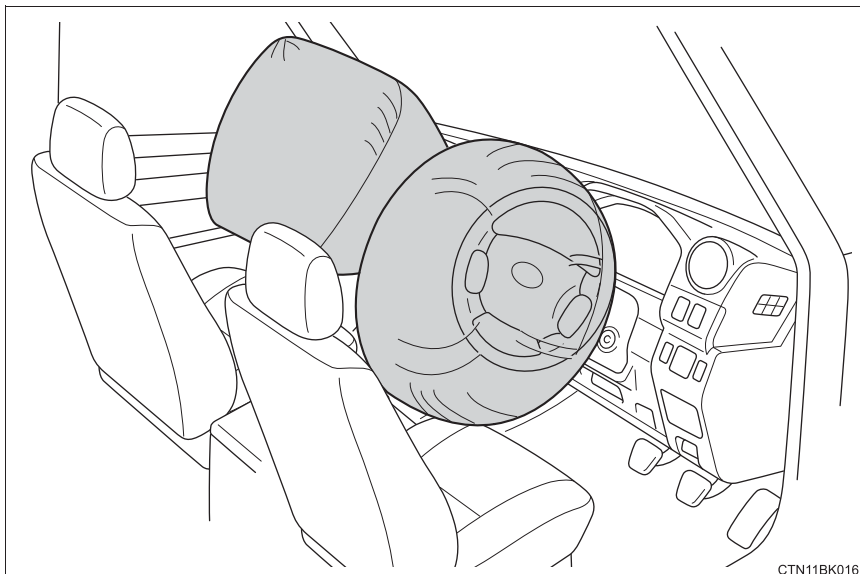
お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



CTN11BK016

◆ フロント SRS エアバッグ

運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

警告

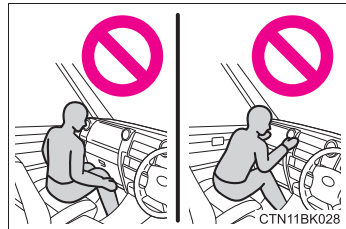
■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

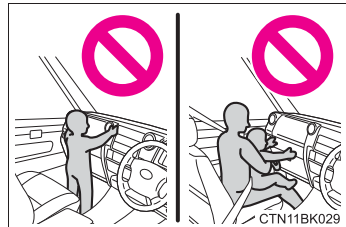
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→ P. 43)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

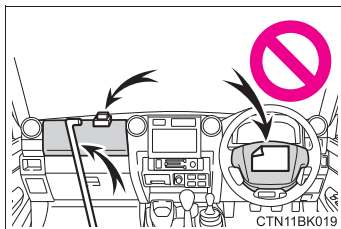


- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



警告**■ SRS エアバッグについて**

- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたかなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるとときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパーの修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが展開すると**

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）が数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき

フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

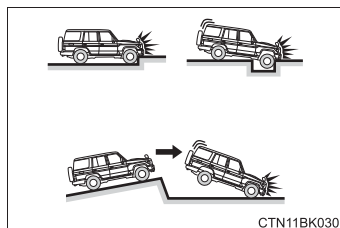
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

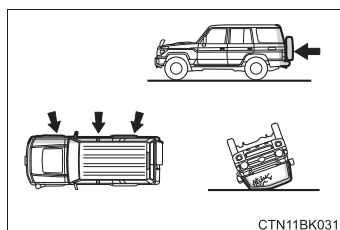
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

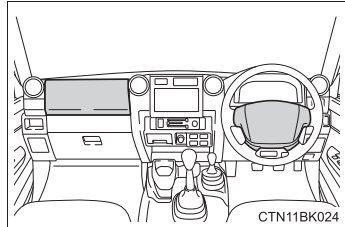
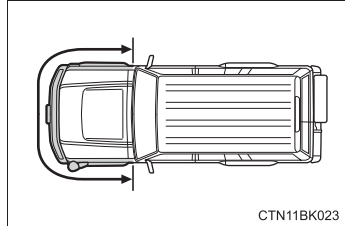
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 37)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 61)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 81) をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドア・テールゲートやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 43)

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車には ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されていません。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

- グループ0 : 10kg まで
- グループ0⁺ : 13kg まで
- グループI : 9 ~ 18kg
- グループII : 15 ~ 25kg
- グループIII : 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

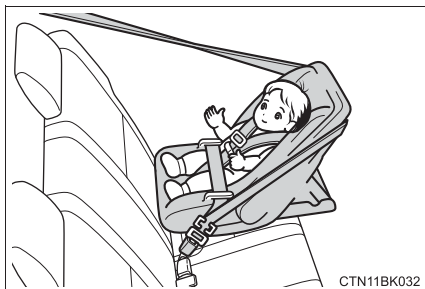
■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

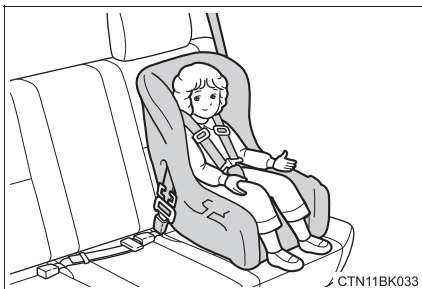
▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0⁺に相当



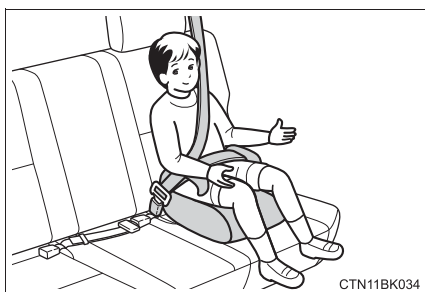
▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0⁺、Iに相当



▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ II、IIIに相当



シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け） （バン）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kgまで）	×	L1	×
0+（13kgまで）	×	L1	×
I（9～18kg）	前向き×	L1※	×
	うしろ向き×		
II（15～25kg）	×	L2※	×
III（22～36kg）	×	L2※	×

● 表に記入する文字の説明

L1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」、「トヨタ純正 NEO G-Child baby」に適しています。

L2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 ジュニアシート」に適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

※ ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け） （トラック）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U	×
0+（13kg まで）	×	U	×
I（9～18kg）	前向き×	U*	×
	うしろ向き×		
II（15～25kg）	×	U*	×
III（22～36kg）	×	U*	×

● 表に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

* ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

子供専用シートのリスト

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child baby	汎用
0+ (13kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child baby	汎用
I (9 ~ 18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child baby	汎用
II (15 ~ 25kg)	トヨタ純正ジュニアシート	汎用
III (22 ~ 36kg)	トヨタ純正ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

 知識

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分に大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→ P. 39) を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者、または販売業者におたずねください。

 警告

■ 子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、荷室内に容易に動かないように収納してください。

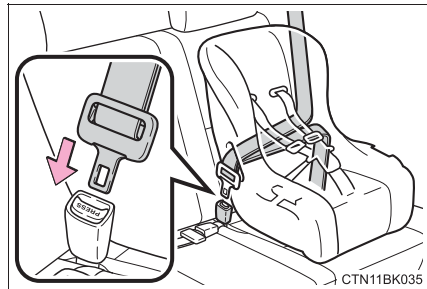
チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ外側シートに取り付けてください。取り付け方法は、商品付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトで固定する

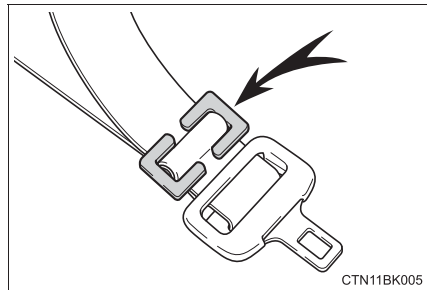
- 1 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで押し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 2 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備っていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。
（ロックングクリップ品番：
73119-22010）



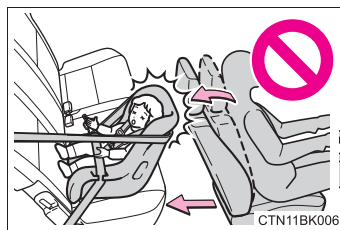
取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

警告**■チャイルドシートについて**

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一、ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジンモビライザーシステム

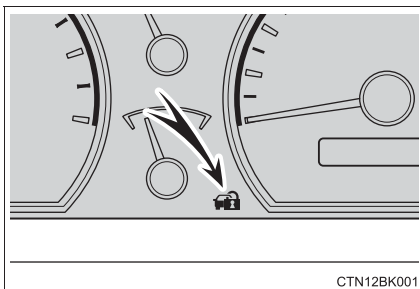
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

キーをエンジンスイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたマスターキー、またはサブキーをエンジンスイッチに挿し込むとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ エンジンモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

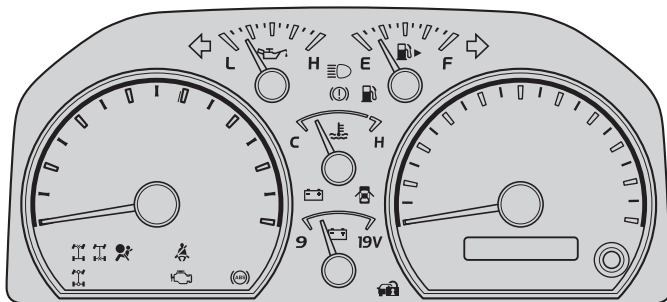
メーターの見方

2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯.....	48
計器類.....	51

警告灯 / 表示灯

メーターの警告灯・表示灯でお車の状況をお知らせします。



CTN20BK005

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 224)



充電警告灯
(→ P. 224)



SRS エアバッグ警告灯
(→ P. 224)



エンジン警告灯
(→ P. 224)



ABS 警告灯 (→ P. 224)



ブレーキ警告灯
(→ P. 224)



シートベルト非着用警告灯
(→ P. 225)



半ドア警告灯
(→ P. 225)



燃料残量警告灯
(→ P. 225)

※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 104)



4WD 作動表示灯
(→ P. 118)



ヘッドランプ
上向き表示灯 (→ P. 106)



※¹ フロントデフロック作動表示灯★ (→ P. 124)



イモビライザーシステム表示灯 (→ P. 46)



※¹ リヤデフロック作動表示灯★ (→ P. 124)

※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

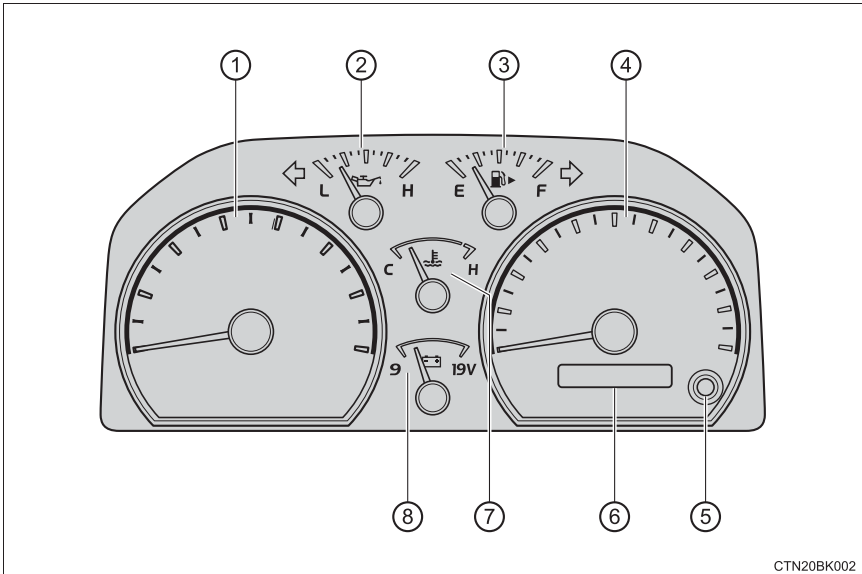
警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類



CTN20BK002

- ① タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。
- ② 油圧計
エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力を示します。
オイル量の点検はオイルレベルゲージにより行ってください。
- ③ 燃料計
燃料残量を示します。
- ④ スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ⑤ 表示切りかえ・メーター照度調整ノブ
→ P. 52
- ⑥ オドメーター・トリップメーター
 - オドメーター
走行した総距離を表示します。
 - トリップメーター
リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑦ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

⑧ 電圧計

バッテリーの充電状態を示します。

表示の切りかえ

ノブを押すごとに次のように切りかわります。

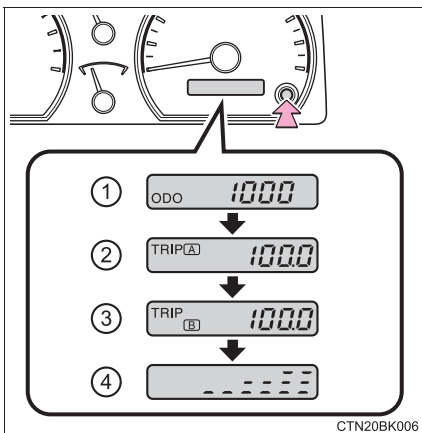
① オドメーター

② トリップメーター A ※¹③ トリップメーター B ※¹④ メーター照度調整表示 ※²

車幅灯点灯時のみ表示されます。

※¹ 押し続けると 0 にもどります。

※² 押し続けると照度を 4 段階に調整できます。



 知識

- **メーター・ディスプレイの作動条件**
エンジンスイッチが“ON” のとき

 **注意**

■ **エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 各シフト位置での速度限界（→ P. 102）をこえないように走行ください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 246）

各部の操作**3**

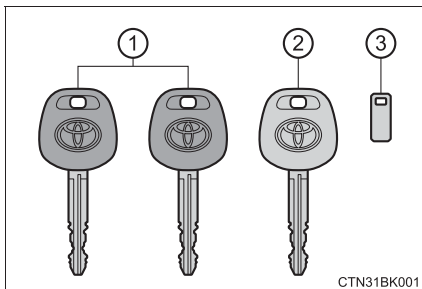
3-1. キー	
キー	56
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
ドア（フロントドア・ リヤドア）	59
バックドア	62
テールゲート	67
3-3. シートの調整	
フロントシート	70
リヤシート	71
ヘッドレスト	73
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	75
インナーミラー	77
ドアミラー	78
補助確認装置	80
3-5. ガラスの開閉	
パワーウィンドウ	81
リヤクォーターガラス	83
スライド式リヤガラス	85

キー

キーについて

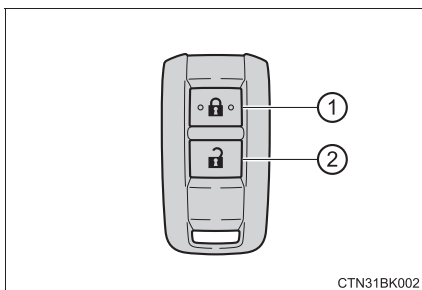
お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① マスターキー（黒色・2枚）
- ② サブキー（灰色）
- ③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

- ① ドアの施錠（→ P. 59）
- ② ドアの解錠（→ P. 59）



 知識**■ 駐車場などでキーを預けるとき**

必要に応じて、グローブボックスを施錠（→ P. 158）します。
マスターキーとサブキーを一緒に携帯しているときは、サブキーのみを渡してください。

■ キーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機にワイヤレスリモコンを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。
次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。
新しい電池に交換してください。
 - ・ ワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった

■ 電池の交換方法

→ P. 185

 **注意****■ キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- むらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ キー取り扱いの注意

キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ キーを紛失したとき

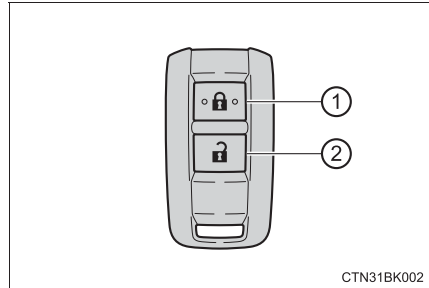
キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外からの施錠／解錠

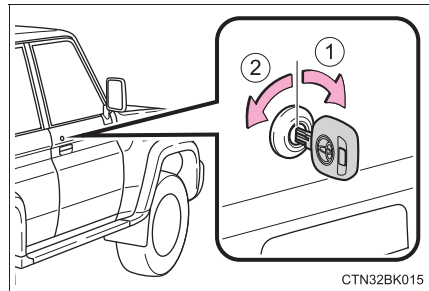
◆ ワイヤレスリモコン

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ キー

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



知識

■ 作動の合図

ワイヤレスリモコンでのドアの施錠・解錠を、非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は1回、解錠は2回）

■ 解錠操作のセキュリティ機能

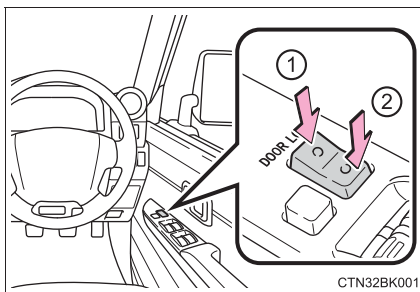
ワイヤレスリモコンでの解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

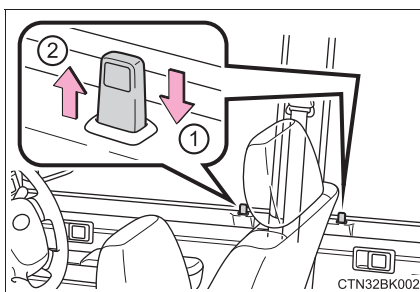
- キーを使ってドアの施錠・解錠ができます。
- 電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 185）

車内からの施錠／解錠**◆ ドアロックスイッチ**

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する

**◆ ロックボタン**

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

**キーを使わずに外側からフロント席を施錠**

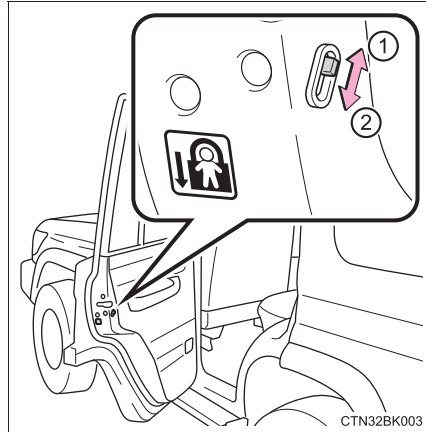
- 1 □ロックボタンを施錠側にする
- 2 □ドアハンドルを引いたままドアを閉める

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア★

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

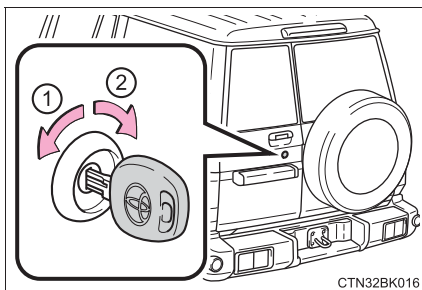
車外からの施錠・解錠

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 59

◆ キー

- ① 施錠
- ② 解錠



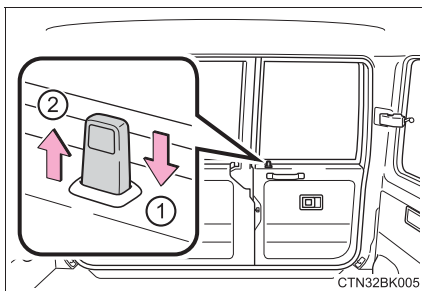
車内からの施錠・解錠

◆ ドアロックスイッチ

→ P. 60

◆ ロックボタン

- ① 施錠
- ② 解錠



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

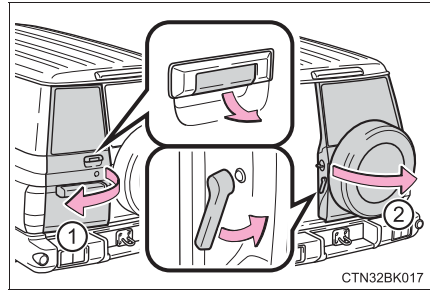
キーを使わずに外側からバックドアを施錠

- 1 ロックボタンを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままバックドアを閉める

バックドアを開けるときは

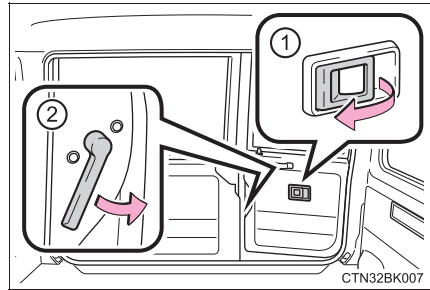
■ 外側から開くときは

- ① 助手席側ドアを開ける
レバーを手前に引いて開けます。
- ② 運転席側ドアを開ける



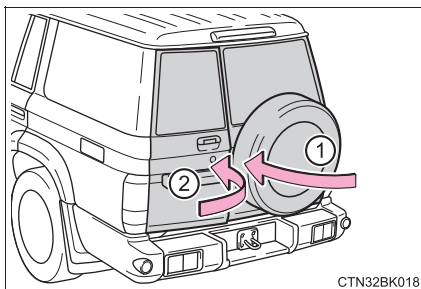
■ 内側から開くときは

- ① 助手席側ドアを開ける
レバーを引きます。
- ② 運転席側ドアを開ける
レバーを外側に倒して開けます。

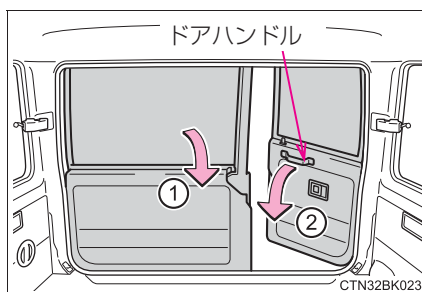


バックドアを閉めるときは**■ 外側から閉めるときは**

- ① 運転席側ドアを閉める
- ② 助手席側ドアを閉める

**■ 内側から閉めるときは**

- ① 運転席側ドアを閉める
- ② ドアハンドルを持って助手席側ドアを閉める



 **警告****■ 走行中の警告**

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

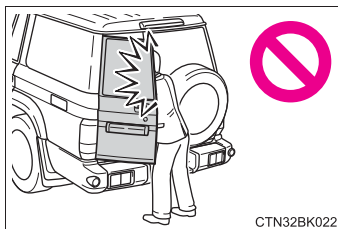
■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

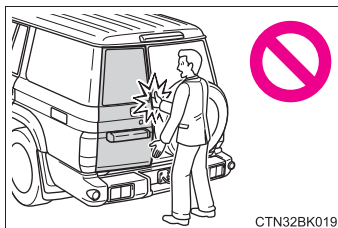
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが急に閉じて重大な障害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。内側のドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。バックドアの重量が重くなると、開閉のさまたげとなるおそれがあります。

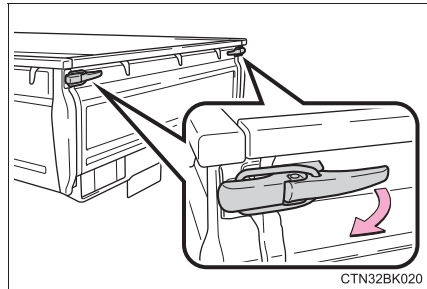
■ バックドアを開けて駐停車するときは

車両後方に停止表示板、または停止表示灯を置いてください。バックドアが開いていると、非常点滅灯などが見えなくなる場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

テールゲート★

テールゲートを開けるときは

- 1 ロックをはずす
左右のハンドルを手前に引いてロックをはずします。
- 2 テールゲートをおろす



テールゲートを閉めるときは

- 1 テールゲートを持ち上げる
- 2 フックをかけて左右のハンドルを内側に戻しロックする
テールゲートを閉めたあとは確実にロックが固定されたことを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

テールゲートを開けたまま走行しないでください。荷物が落下したり、テールゲートが動いて周囲の人やものにあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ テールゲートを開けて駐停車するときは

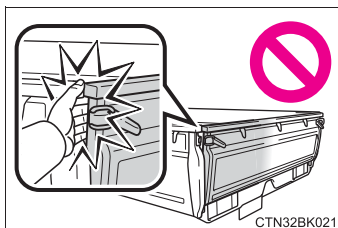
車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。テールゲートで非常点滅灯などが見えなくなる場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ テールゲートを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な障害につながるおそれがあります。

- 周囲の安全を確かめ、テールゲートで指などを挟まないよう十分注意してください。



- お子さまにはテールゲートの操作をさせないでください。手、頭、腕、首などを挟んだりして、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 傾斜地では平坦な場所よりもテールゲートの開閉がしにくくなる場合があります。また、急にテールゲートが開いたり閉じたりするおそれがあります。指などを挟まないよう十分注意してください。
- ハンドルを操作するときは、しっかり握り確実に操作してください。手を挟んでけがをしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 強風時の開閉には十分注意してください。テールゲートが風にあおられて勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- テールゲートを閉めたときは、確実に固定されたことを確認してください。

■ テールゲートのチェーンについて

テールゲートのチェーンをはずさないでください。尾灯・制動灯・方向指示灯・非常点滅灯および後部反射器が見えなくなる場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■ テールゲートやチェーンの損傷を防ぐために**

テールゲートには積荷の荷重をかけないでください。また、テールゲートを閉めるときはチェーンがかみ込まないように注意してください。

フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整



⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

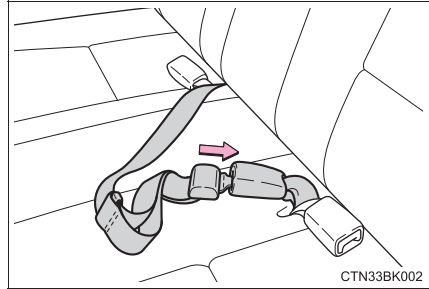
リヤシート

リヤシートの折りたたみ

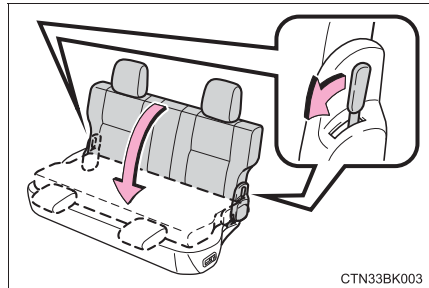
■ 折りたたみ

- 1 フロントシートをいちばん前までスライドさせる
- 2 リヤシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる
- 3 2点式シートベルトのバックルにプレートを挿し込む

リヤシート折りたたみ時にベルトが落ちるのを防ぎます。

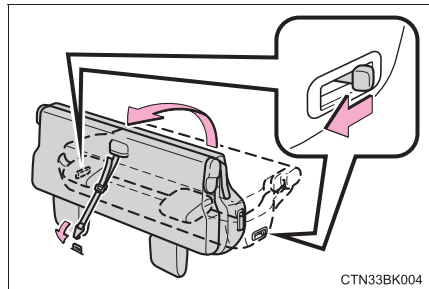


- 4 左右いずれかのレバーを引いて、背もたれを前に倒す

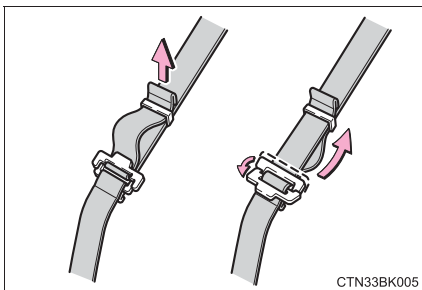


- 5 左右いずれかのロック解除レバーを引いて、リヤシート全体を前方に起こし、固定用のストラップを床面のフックにかける

床面のフックはコンソールボックス後側の足元にあります。



- 6 ストラップの長さを調節して
リヤシートを固定する



- 7 フロントシートの位置をもとにもどす

■ もとにもどすときは

格納したときと逆の手順で操作を行います

警告

■ リヤシートの格納について

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

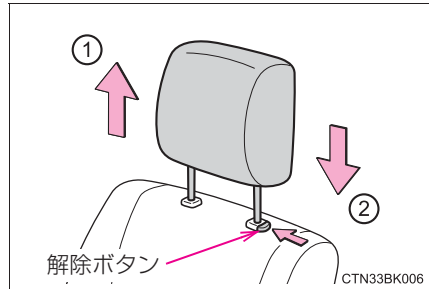
- 走行中はシートの格納操作をしない
- 平坦な場所でシフトレバーをNに入れて、パーキングブレーキを確実にかける
- リヤシートを格納した状態で、荷室に人を乗せて走行しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- シートをもとにもどしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する

ヘッドレスト

調整のしかた

- ① 上がる
- ② 下がる

下げるときは、解除ボタンを押しなが
ら操作します。

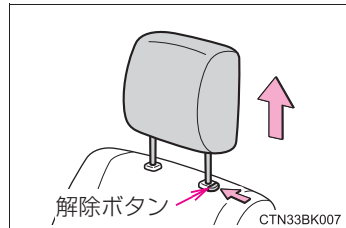


知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押しながら取りはずします。

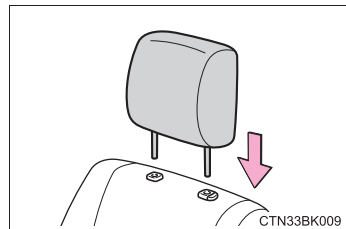
トラックのリヤシート:先にリヤシートの背もたれを前に倒してから、ヘッドレストを取りはずします。



■ヘッドレストを取り付けるときは

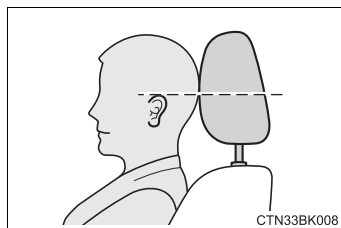
挿入穴にヘッドレストを挿入し、ヘッドレストがロックする位置まで押し込みます。

トラックのリヤシート:先にリヤシートの背もたれを前に倒してから、ヘッドレストを取り付けます。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



▲ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

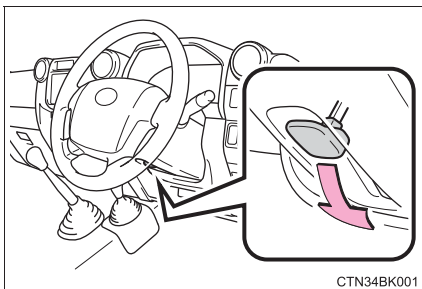
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

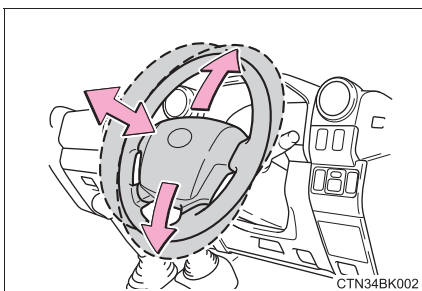
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



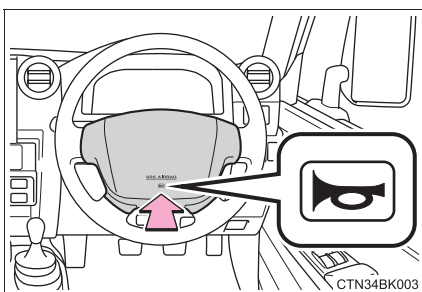
- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



 **警告****■ 走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

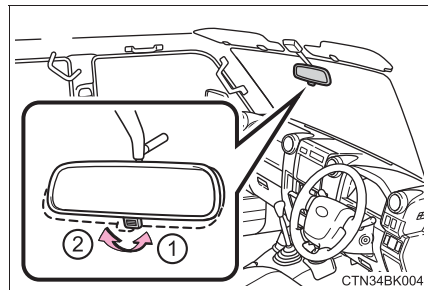
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

防眩機能

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



⚠ 警告

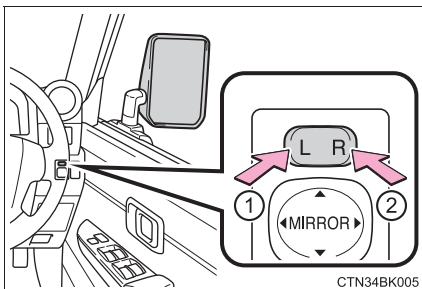
運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

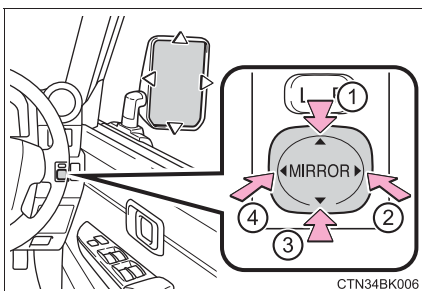
1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- ① 左
- ② 右



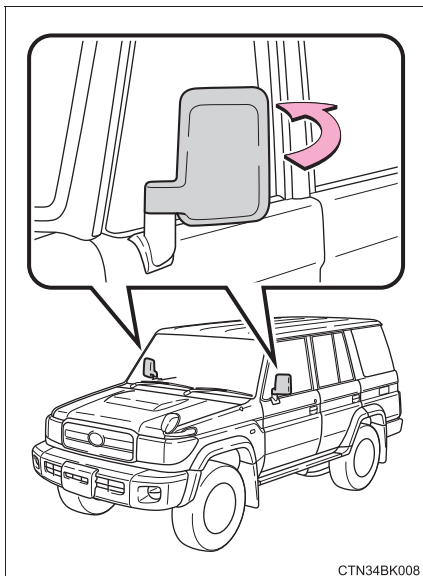
2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納するときは

手で押して格納します

**知識****■ 作動条件**

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

警告**■ 走行しているときは**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているときは

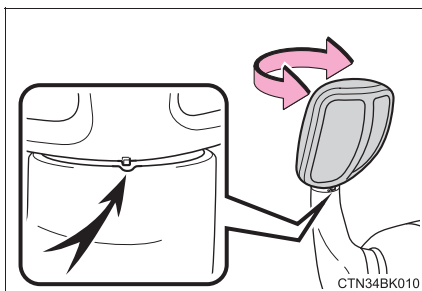
手をふれないでください。

手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

補助確認装置

発進時またはごく低速時に、車両前面と助手席側車両側面を確認するとき役に立ちます。

ミラーが動いてしまったときは、突起とマークの位置を合わせて、ミラーの位置をもどします。



⚠ 注意

■ 補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

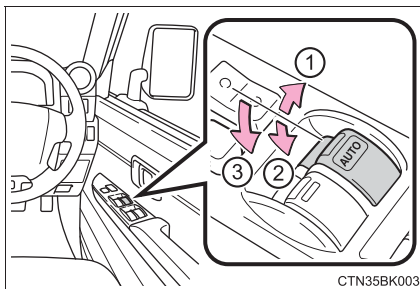
パワーウィンドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

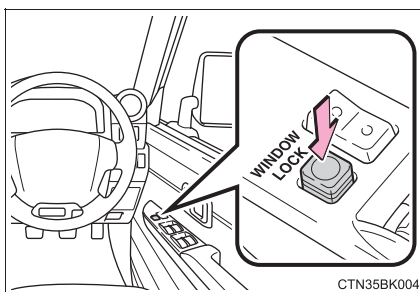
- ① 閉める
- ② 開ける
- ③ 自動全開（運転席のみ）※
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

 警告

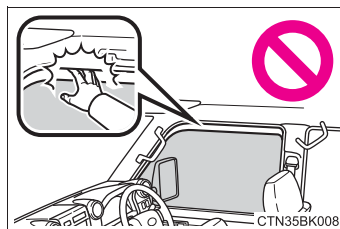
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するときは

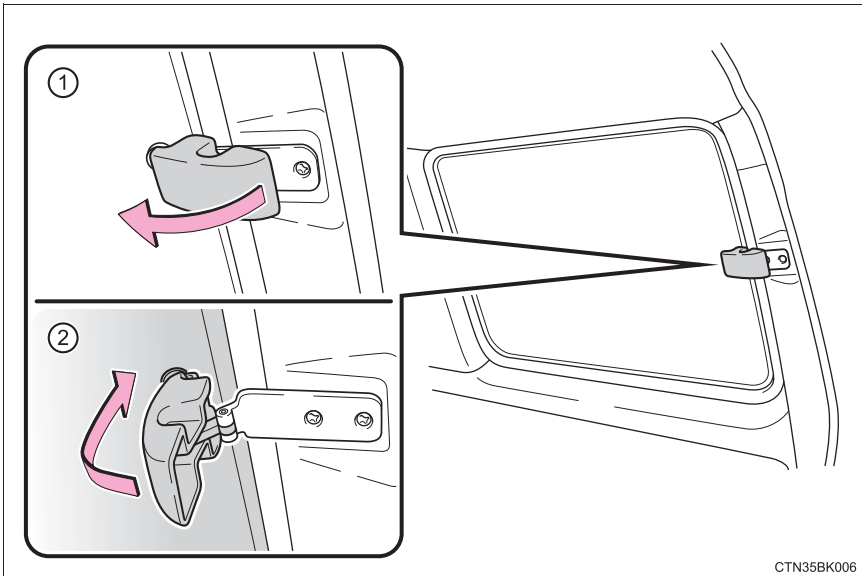
- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 81)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。



- 車から離れるときはエンジンスイッチを“LOCK” にし、キーを携帯してお子さまも一緒に連れて行ってください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リヤクォーターガラス★



- ① レバーを引いてロックをはずす
- ② レバーを外側に押しガラスを開ける
操作後は、ガラスが確実に固定されたことを確認してください。

知識

■ 開閉時のレバー操作について

レバーを操作する際に指を挟まないよう注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

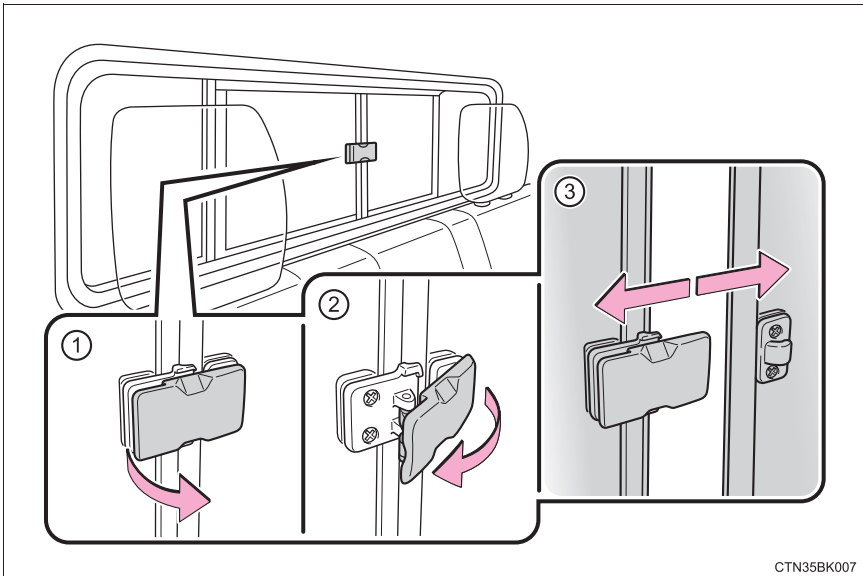
 **警告****■ リヤクォーターガラスを開閉するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤクォーターガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、リヤクォーターガラスの操作をさせないでください。リヤクォーターガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

スライド式リヤガラス★



- ① レバーの左側を引く
- ② ロックをはずす
- ③ ガラスをスライドさせて開ける

操作後は、ガラスが確実に固定されたことを確認してください。

知識

■開閉時のレバー操作について

レバーを操作する際に指を挟まないよう注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ スライド式リヤガラスを開閉するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- スライド式リヤガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、スライド式リヤガラスの操作をさせないでください。スライド式リヤガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

運転

4

4-1. 運転にあたって	
運転にあたって.....	88
荷物を積むときの注意.....	97
4-2. 運転のしかた	
エンジン（イグニッション）	
スイッチ.....	99
マニュアル	
トランスミッション.....	102
方向指示レバー.....	104
パーキングブレーキ.....	105
4-3. ランプのつけ方・	
ワイパーの使い方	
ランプスイッチ.....	106
ワイパー&ウォッシャー	
（フロント）.....	109
ワイパー&ウォッシャー	
（リヤ）.....	111
4-4. 給油のしかた	
給油口の開け方.....	112
4-5. 運転支援装置について	
運転を補助する装置.....	116
4WD システム.....	118
デフロック.....	124
ウインチ.....	126
アクセサリコネクタ.....	141
パワーアンテナ.....	143
4-6. 運転のアドバイス	
寒冷時の運転.....	145

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 99

発進する

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを1速にする
(→ P. 102)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 105)
- 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 クラッチペダルを踏み込んだまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーをNにします。(→ P. 102)

駐車する

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 シフトレバーをNにする (→ P. 102)
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてシフトレバーを1速またはRにし、
輪止め^{*}を使用してください。
^{*} 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。
- 3 パーキングブレーキをかける (→ P. 105)
- 4 エンジンスイッチを“LOCK”にしてエンジンを停止する
- 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを1速にする
- 2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったるので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパー部に取り付けることはできません。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転するとき

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあります。危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 216を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 102)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを 1 速に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

● 空ぶかしをしないでください。

シフトレバーがN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

● 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

● 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたりしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまう。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。
- クラッチの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない
 - ・ 1 速以外での発進は避ける
 - ・ 坂道発進時など、必要以上に半クラッチのままでは走行しない
- 車がまだ動いているときに R に入れないでください。
クラッチ・トランスミッション・ギヤに損傷を受けるおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けしないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は、P. 226 を参照してください。

 **注意****■冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。*

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んだエンジンの破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

* 必要な注意事項を守って渡河を行う場合を除く
渡河を行う際の注意事項については、P. 122 を参照してください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- 荷物はできるだけ荷台または荷室に積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

 **警告****■ 荷物を積むときは（室内）**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、クラッチペダル・ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかつたり、荷物が視界をさえぎつたり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物は荷室に積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インstrumentパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シートの背もたれより高いものを荷室に積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- 荷室に人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 荷物を積むときは（室外、荷台）

キャブと荷台の間にものを置いたり、荷台とフレームの間に板などを差し込まないでください。また、ロープやほろなどの先端がたれ下がらないように注意してください。

エンジンや排気管の熱により火災につながるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎない（過積載しない）でください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

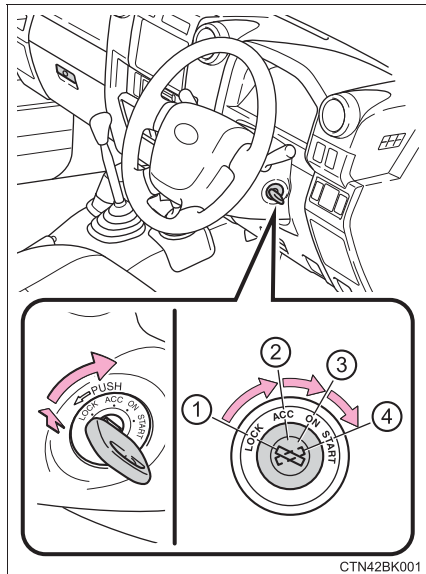
エンジン（イグニッション）スイッチ

エンジンのかけ方

- ① 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- ② パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- ③ シフトレバーがNの位置にあることを確認する
- ④ クラッチペダルとブレーキペダルをしっかりと踏む
- ⑤ エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

エンジンスイッチの位置の切りかえ

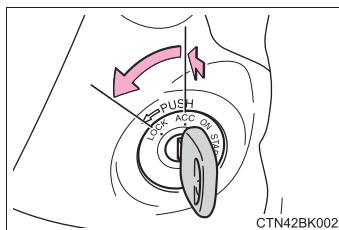
- ① “LOCK” (OFF)
 - ・ ステアリングロックがかかります。
 - ・ キーを抜き挿しすることができます。
- ② “ACC”
 - シガレットライターなどの電装品が使用できます。
- ③ “ON”
 - すべての電装品が使用できます。
- ④ “START”
 - エンジンが始動できます。



知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

- 1 シフトレバーがNの位置にあることを確認する
- 2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす

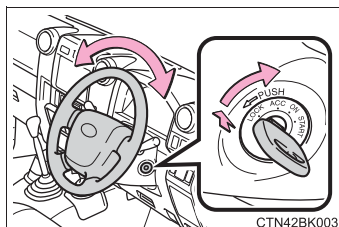


■クラッチスタートシステム

クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンスイッチを“START”の位置にまわしても、安全のためエンジンが始動しません。

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。



■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。

緊急時、走行中にエンジンを停止したい場合には“ACC”にしてください。ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

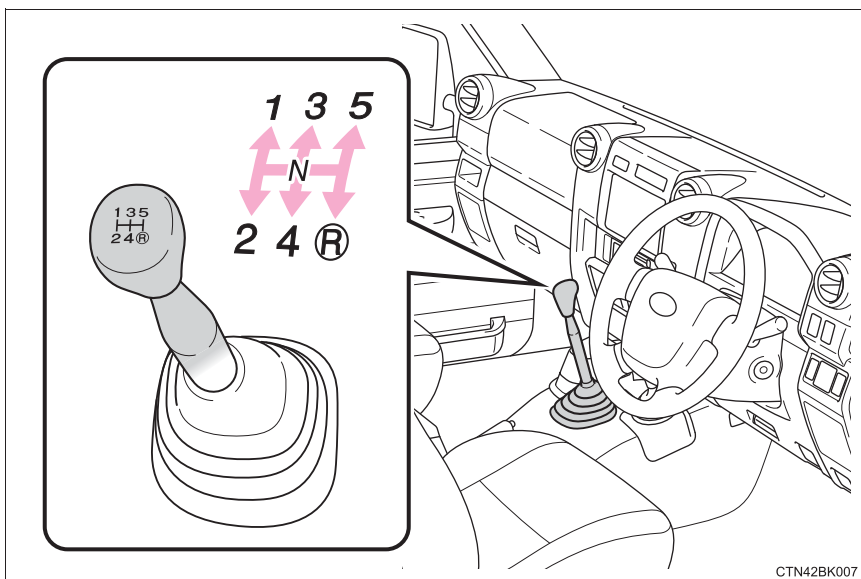
エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

マニュアルトランスミッション

シフトレバーの動かし方



CTN42BK007

クラッチペダルをしっかりと踏みシフトレバーをゆっくり操作します。

誤操作を防ぐため、5速からRへは直接入れることができません。

いったんNに入れてからRに入れます。

知識

■各シフトの速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が次に記載してある数値をこえないようにしてください。

シフト位置	最高速度 (km/h)	
	H2、H4 レンジ	L4 レンジ
1	41	17
2	76	30
3	125	50

 **警告****■ すべりやすい路面では**

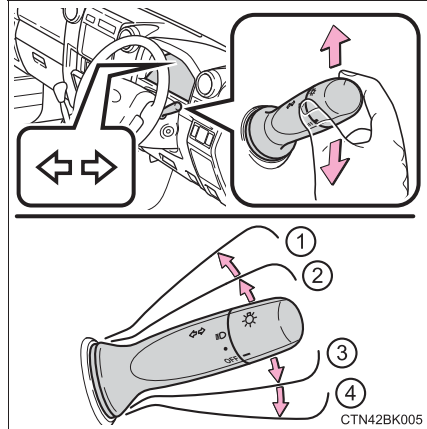
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジブレーキの急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

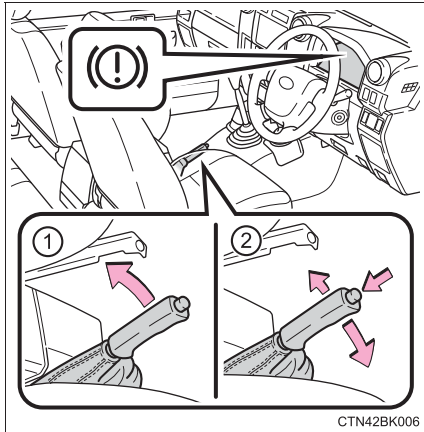
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

- ① パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く
- ② パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす



知識

- パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 224
- 冬季のパーキングブレーキの使用について
→ P. 146

注意

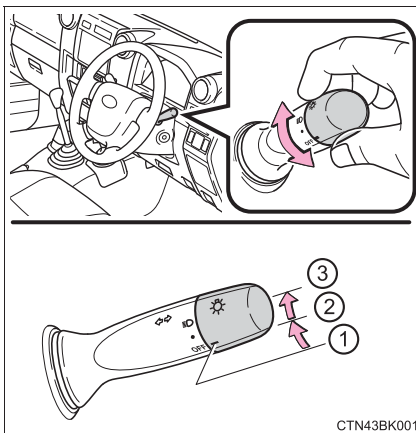
■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

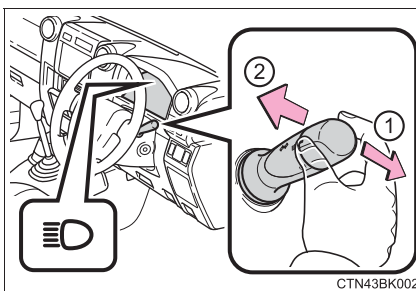
操作のしかた

- ① OFF 消灯
- ② ● 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明を点灯
- ③ ≡D 上記ランプとヘッドランプを点灯



ハイビームにする

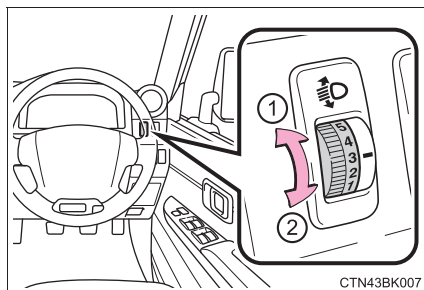
- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



CTN43BK007

■ 目盛り設定の目安

▶ バン

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者	荷室満載時	3

▶ トラック

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者	荷台満載時	3

 知識

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

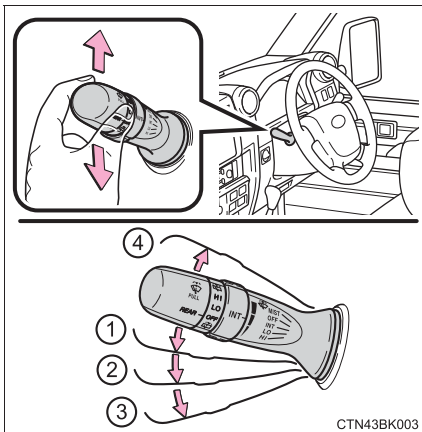
エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

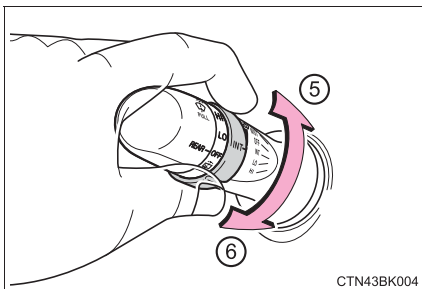
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

- ① 間欠作動（INT）
- ② 低速作動（LO）
- ③ 高速作動（HI）
- ④ 一時作動（MIST）

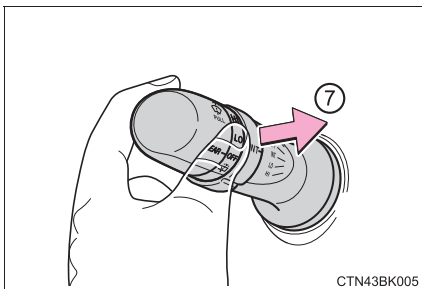


間欠作動が選択されているときは、次のようにつまみをまわして間欠時間を調整できます。

- ⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



- ⑦ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

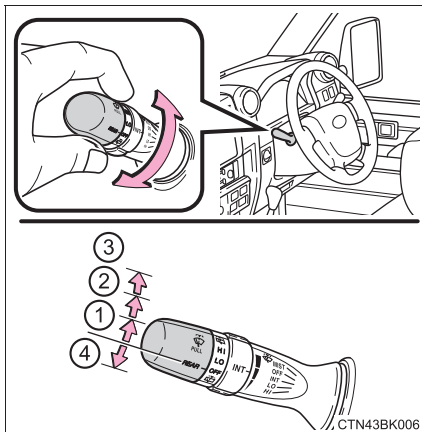
ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）★

操作のしかた

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

- ① 間欠作動（LO）
- ② 通常作動（HI）
- ③ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
- ④ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠ 注意

■ リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを“LOCK”にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■ エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

 **警告****■ 給油するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

● キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめるときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

● 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

● 喫煙しないでください。

● 給油口にノズルを確実に挿入してください。

● 継ぎ足し給油をしないでください。

● 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 **注意****■ 給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

● エンジンの始動性が悪くなる

● エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

● エンジン出力が低下する

● 排気制御システムが正常に機能しない

● 燃料系部品が損傷する

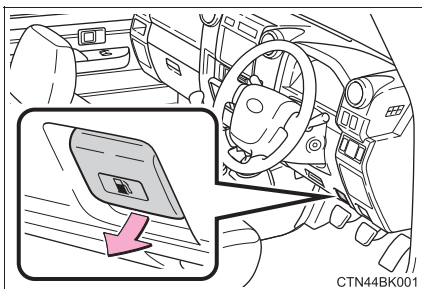
● 塗装が損傷する

給油口の開け方

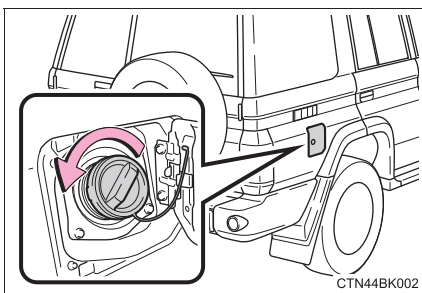
▶ バン

- 1 オープナーを引いて、給油扉を開ける

キーで車外から給油扉を開けることも可能です。



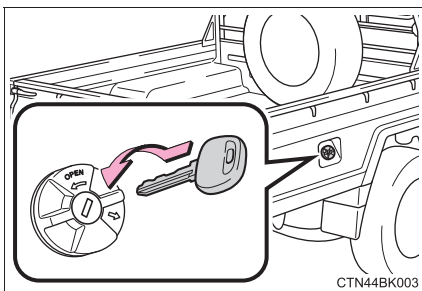
- 2 キャップをゆっくりまわして開ける



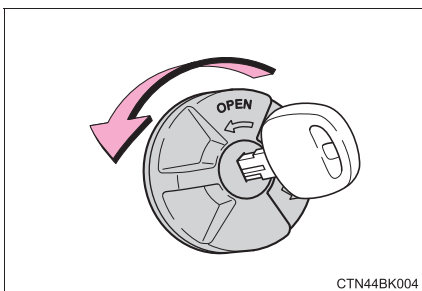
▶トラック

- 1 解錠する

キーを差し込んで左にまわします。



- 2 キャップをゆっくりまわして開ける

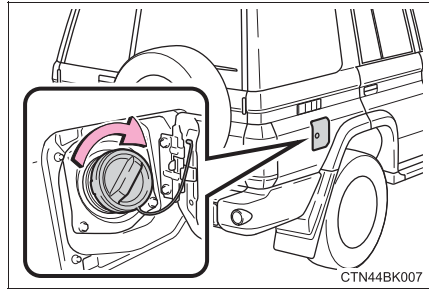


給油口の閉め方

▶ バン

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

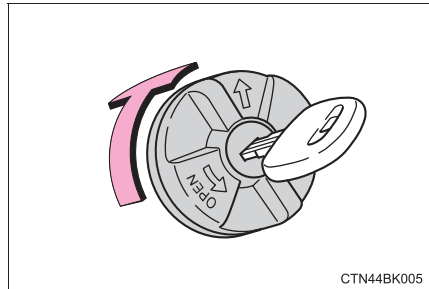
手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



▶トラック

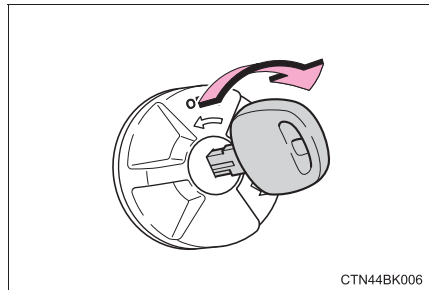
1 キャップを閉める

矢印が上になるようにキャップをはめて、ゆっくりまわして閉めます。



2 施錠する

キーを右にまわします。



⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずには運転には十分に注意してください。

◆ ABS (アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

□ 知識

■ ABS の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

▲ 警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

 **警告****■ タイヤを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 256）

異なったタイヤを装着すると、ABS が正常に作動しません。

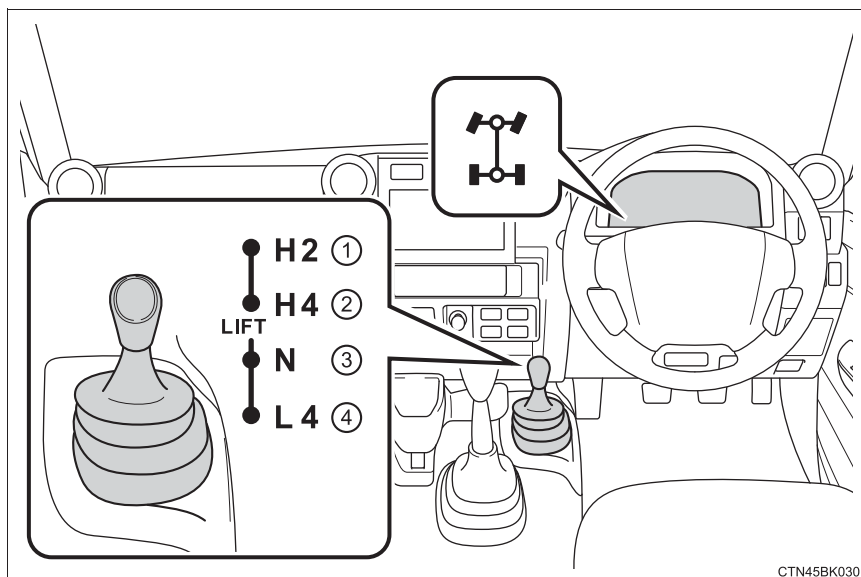
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

4WD システム

トランスファーレバーを操作して駆動系の作動状態を切りかえます。



H4・N・L4 モードに切りかえるとメーターに 4WD 作動表示灯が点灯します。

① H2 (ハイレンジ 2WD)

市街地や高速道路などの乾燥した舗装路面を一般走行する場合に使用します。

通常はこの位置で使用します。

② H4 (ハイレンジ 4WD)

悪路・氷雪路・砂地など、すべりやすい路面を走行する場合に使用します。

③ N (ニュートラル)

動力の伝わらない状態。

この位置では走行できません。

④ L4 (ローレンジ 4WD)

悪路・砂地・ぬかるみ・深雪路などでとくに大きな駆動力を必要とするときや急な降坂路を走行するときに使用します。

デュアルモードオートマチックロックングハブ

前輪と前輪駆動系の接続・切り離しをする装置です。

① “AUTO”

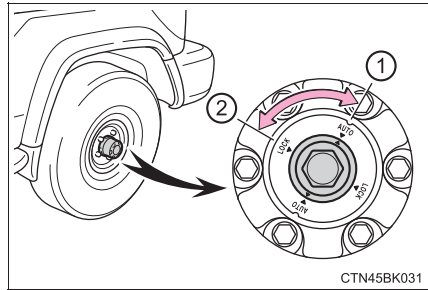
2WD および 4WD の位置（ハブをロック状態とフリー状態に切りかえる位置）

通常は“AUTO”の位置にしておくことをおすすめします。

② “LOCK”

4WD の位置（ハブをロック状態に保持）

“LOCK”の位置でも 2WD での走行は可能です。

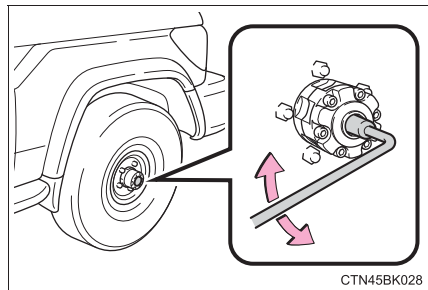


■ ハブの切りかえかた

“LOCK” ⇔ “AUTO” の切りかえは、図のようにホイールナットレンチを使って行います。

ホイールナットレンチは工具袋に搭載されています。（→ P. 227）

必ず左右とも同じ位置にあわせてください。



トランスファーレバーの操作

■ H2 から H4

- ▶ ハブが“LOCK”位置のとき
トランスファーレバーを H2 から H4 へ操作する
走行中でも操作可能です。

- ▶ ハブが“AUTO”位置のとき

- ① 車両を完全に停車させる
- ② トランスファーレバーを H2 から H4 へ操作する

■ H4 から H2

トランスファーレバーを H4 から H2 へ操作する
走行中でも操作可能です。

なお、ハブが“LOCK”の位置のままでも走行は可能です。

■ H4 から L4

- ① 車両を停車もしくは車速を 8km/h 以下へ減速する
- ② クラッチペダルを踏みながらトランスファーレバーを持ち上げて H4 から L4 へ操作する

■ L4 から H4

クラッチペダルを踏みながらトランスファーレバーを L4 から H4 へ操作する

知識

■ “LOCK”位置での 2WD 走行について

2WD 走行時、ハブは“LOCK”位置でも走行は可能ですが、走行時の駆動系からの騒音や摩擦抵抗を低減するため、2WD 走行が多いときは“AUTO”の位置にすることをおすすめします。

■ “AUTO”位置でのハブの切りかえについて

ハブをフリー状態に切りかえるときは、周囲の安全を確認して次のいずれかの操作を行ってください。

- H4 でおおよそ 1m 後退させたあと、停車して H2 で前進させる
- H4 で前進させたあと、停車して H2 でおおよそ 1m ほど後退させる

■ H4 から H2 への切りかえについて

H4 から H2 への切りかえ操作をしても 4WD 作動表示灯が消灯しないときは、少し加減速または後退を行うと消灯します。周囲の安全を確認して行ってください。

■ 駆動系からの音について

次の場合は駆動系から音が聞こえる場合があります。異常や車両に損傷を与えるものではありませんがなるべく避けてください。

- H4 および L4 で走行時、後輪が空転したとき
- 2WD から 4WD に完全に切り替わっていないとき
- 急加速したとき
- 極端な低温（-15℃以下）でエンジンを暖気せず 2WD で高速走行したとき

■ 前輪駆動系の潤滑について

長期間 4WD 走行を行わないときは、前輪駆動部品のオイルを循環させるため、月に 1 回程度は次のいずれかを約 15km ほど行ってください。

- ハブ位置を“LOCK”にして 2WD で走行
- ハブ位置を“AUTO”にして 4WD で走行

■ 4WD の取り扱い

- 4WD 車といっても万能車ではありません。アクセル・ハンドル・ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重におこない、常に安全運転を心がけてください。
- スタック（立ち往生）したら、タイヤの下に石や木などをあてがい脱出するか、前進・後退を繰り返し慣性を利用して脱出します。また、ぬかるみがひどいときはタイヤチェーンを利用するのも効果的です。
- 急坂路を登るときは、登る前にあらかじめ路面の状態を確かめ凹凸の少ないところを選びます。登りはじめと終わりはなだらかな斜面を選びます。
- 急坂路を降りるときは、降りる前にあらかじめ路面の状態を確かめ、斜度にあった変速ギヤを選びます。降りる途中での変速やクラッチ操作は避けてください。

■ 渡河について

- 渡河はできるだけ避けてください。4WD車といえども水中走行に対しては万全ではありません。やむを得ず渡河する場合は次の事項を厳守してください。
 - ・ 水中走行する前にあらかじめ河川の深さ・地形などを確かめてください
 - ・ すべてのドア・ドアガラス・リヤクォーターガラス・スライド式リヤガラスなどが閉まっていることを確認してください。
 - ・ 単独での走行は避けてください。
 - ・ 河川進入時は最徐行（5km/h以下）してください
 - ・ 河川に対し、直角または下流方向へ横断してください。
 - ・ 渡河途中での変速やクラッチ操作は避け、一気に渡りきってください。
 - ・ 流れが急な場合は渡河走行しないでください。
- 渡河など水中走行したときは、次の項目を必ず点検し、メンテナンスを行ってください。
 - ・ ブレーキの効き具合
 - ・ 泥水の中を走行したあとは、ラジエーターに詰まった異物（泥や木の葉）を取り除く
 - ・ エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です）
 - ・ プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などのグリースアップ

 **警告****■ 走行中の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 脱輪などによりいずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。
- 車両旋回中や車輪空転中は、トランスファーレバーの操作は行わないでください。
- タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください。
- 乾燥した舗装路面および高速道路では必ず H2 で走行してください。H4 または L4 で走行すると、駆動系部品に悪影響を与え、駆動系のオイルもれや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながる可能性があります。また、タイヤの早期摩耗や燃料消費量の悪化につながる可能性があります。
- H4 または L4 での急旋回は避けてください。急旋回した場合、タイトコーナープレーキング現象（ブレーキをかけた状態と同じような現象）を起こし、運転しにくくなります。これは前・後輪の回転差のため起きる現象で、異常ではありませんが危険ですので避けてください。
- トランスファーレバーは H4 または L4 の位置に確実に操作してください。H4 または L4 の位置に入っていないと、動力が伝わらなかったり、坂道での駐車時にシフトレバーが 1 速または R に入っているにもかかわらず車両が動き出すおそれがあります。

■ ハブを切りかえるときは

ハブを切りかえるときは必ず左右とも同じ位置に切りかえてください。左右とも同じ位置に切りかえないと、故障の原因となったり、走行に悪影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■ H4 から L4 への切りかえについて**

走行中に切りかえるときは車速を 8km/h 以下にしてください。

この速度を超えてトランスファーレバーの操作をすると異音が発生したり故障の原因になることがあります。

デフロック★

デフロックはすべりやすい路面や凹凸のある路面でタイヤが空転するときのみ使用する緊急脱出用の装置です。トランスファーレバーを L4 にしても脱出できないときに合わせて使用します。

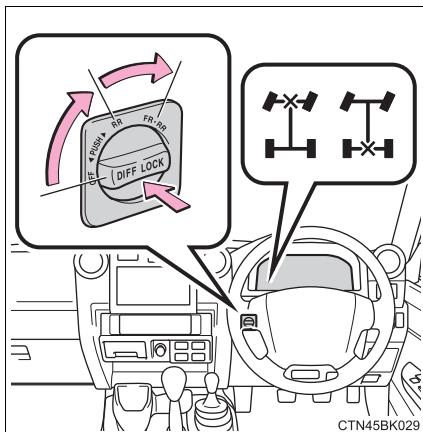
デフロックスイッチの使い方

- ① 車輪の空転を止める
- ② デフロックスイッチを押しながらまわす

スイッチをまわすとデフロック作動表示灯が数秒間点滅します。デフロックが ON 状態になると点滅から点灯にかわります。

作動表示灯が点滅したままのときは (→ P. 125)

使用するときは始めにリヤデフロック (“RR” 位置) で一度脱出を試みてください。それでも脱出できない場合はフロントデフロック (“FR・RR” 位置) を併用してください。



デフロックの状態	スイッチの状態	作動表示灯
OFF	“OFF”	—
リヤデフロック ON 状態	“RR”	
フロント / リヤデフロック ON 状態	“FR・RR”	

- ③ 脱出できたら、デフロックスイッチをただちに “OFF” の位置に戻してデフロック状態を解除する

作動表示灯および ABS 警告灯が消灯したことを確認してください。

作動表示灯が点灯したままのときは (→ P. 125)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ デフロック作動表示灯が点滅したままのときは**

デフロックスイッチを一旦“OFF”にしてクラッチを切り、デフロックスイッチを再度操作したあとクラッチをゆっくりとつなげてください。デフロックが ON 状態になり、表示灯が点灯にかかります。

■ デフロック使用中は

デフロック状態のときは ABS 警告灯が点灯します。また、ABS は作動しません。

■ デフロック状態自動解除機能

トランスファーレバーを H2 にするとデフロック状態が解除されますが、走行を続けるときはデフロックスイッチを“OFF”の位置に戻してください。

■ デフロックスイッチを“OFF”の位置に戻しても、作動表示灯が点灯したままのときは

ハンドル操作をしながら車両を少し前後に動かしてください。デフロックが解除され、表示灯が消灯します。

■ デフロック作動表示灯について

次のときはデフロック作動表示灯が点滅し、デフロックは作動しません。

- 車速が約 8km/h 以上でスイッチ操作したとき
- 2WD のとき

 **警告****■ デフロックを使用するにあたって**

次のことをお守りください。

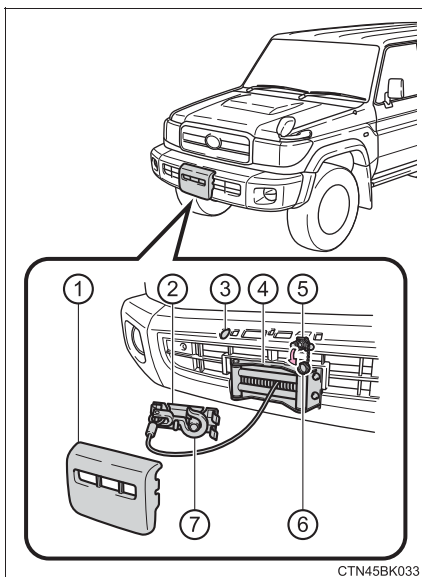
お守りいただかないと、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- 一般走行中に使用しない
 - ・ 直進性が非常に強くなるため、舗装路では非常に曲がりにくくなります。とくにフロント / リヤデフロックを使用するとハンドルが切れなくなるおそれがあります。
 - ・ 雪や氷の路面では安定した旋回ができなくなります
 - ・ 片側のタイヤのみがすべりやすい路面にある場合、減速時や加速時に車両の向きが急にかわりやすくなります。
- 空転が止まるまで使用しない。
- デフロック状態では 8km/h 以上で走行しない
- デフロックの使用後はすぐにスイッチを“OFF”にし、スイッチを“OFF”以外の位置のまま走行しない。

ウインチ★

ウインチは、スタック時の脱出、急坂路の昇り降り、荷物の移動などに使用できます。

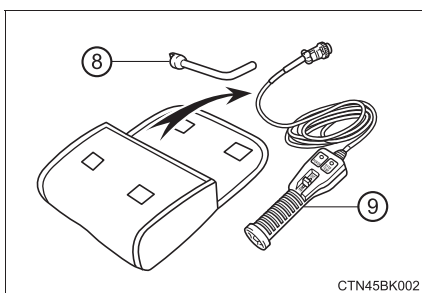
- ① ウインチカバー
- ② フックホルダー
- ③ クラッチノブ
- ④ ウインチ開口部
- ⑤ リモートコントロール用コンセント
- ⑥ キャップ
- ⑦ フック



CTN45BK033

- ⑧ ウインチクラッチレバー
- ⑨ リモートコントロール

ウインチクラッチレバーとリモートコントロールはグローブボックス内に収納してあります。



CTN45BK002

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

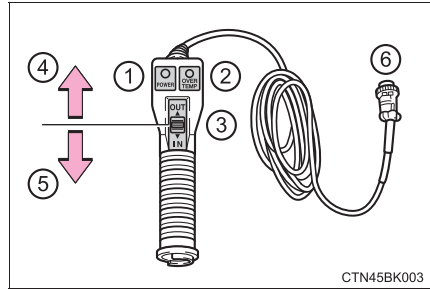
■ リモートコントロール

① “POWER” インジケータ

点灯時はウインチが使用可能であることを示します。

コードプラグをリモートコントロール用コンセントに差し込み、エンジンを始動すると“POWER”インジケータが点灯します。

ウインチ使用中に“POWER”インジケータが減光または消灯した場合は、使用を中止し、車両のバッテリーを充電してください。



② “OVER TEMP” 警告灯

点灯時はウインチモーターがオーバーヒートしていることを示します。

ウインチ使用中にウインチモーターが使用可能範囲の温度を超えると“OVER TEMP”警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

ウインチ使用中に“OVER TEMP”警告灯が点灯し、ブザーが鳴った場合は、使用を中止し、ウインチモーターを冷却してください。

③ リモートコントロールスイッチ

④ “OUT” 側（ワイヤーロープ引き出し）

⑤ “IN” 側（ワイヤーロープ巻き取り）

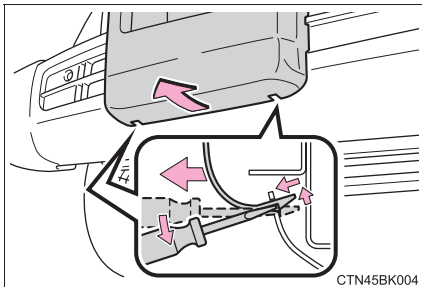
⑥ コードプラグ

ウインチカバーの取りはずし方

- 1 ウインチカバー下部にマイナスドライバーを差し込む。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

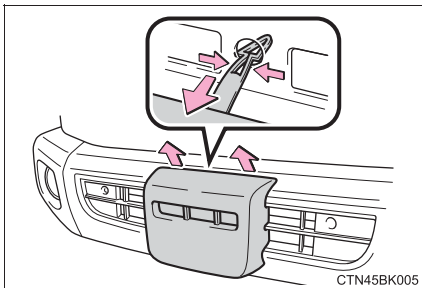
図のようにマイナスドライバー先端を押し上げてツメを解除し、ウインチカバーを手前に引き出す。



CTN45BK004

- 2 カバー上部を持ち上げて手前に引く。

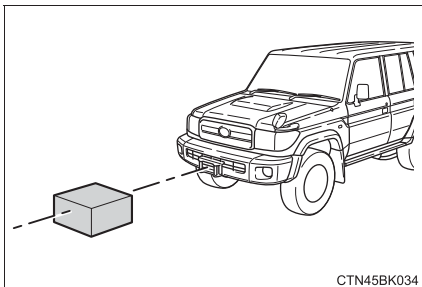
図のフック部分をつまんでツメを解除し、ウインチカバーを取りはずす。



CTN45BK005

ウインチを使用するために準備すること

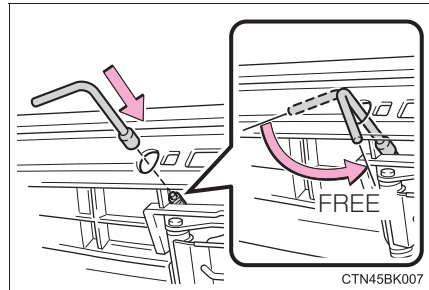
- 1 けん引物または固定先（立木など）と車両が一直線になるように停車する。



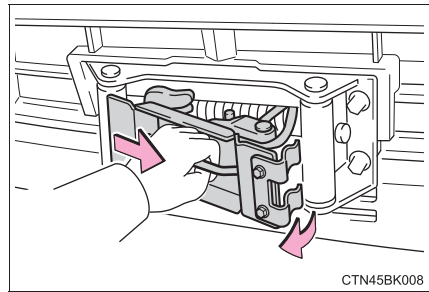
CTN45BK034

- 2 ウインチカバーを取りはずす。

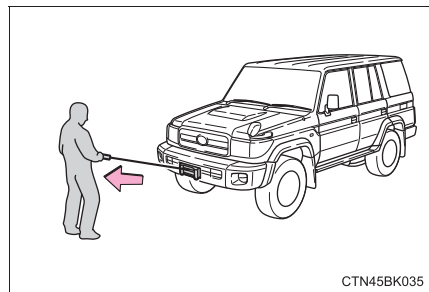
- 3 クラッチレバーをクラッチノブに取り付け、クラッチレバーを“FREE”の位置にまわす。



- 4 手でフックホルダーを取りはずし、ワイヤーロープを引き出す。
ワイヤーロープ取り扱い時はけがをしないように厚手の手袋（革手袋をおすすめします）を着用ください。



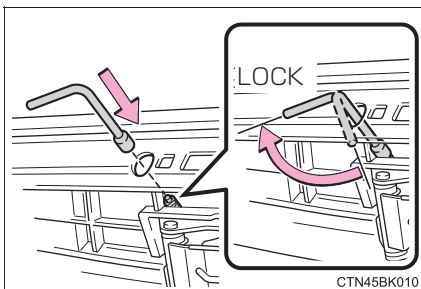
- 5 必要な長さまでワイヤーロープを引き出し、保持する。



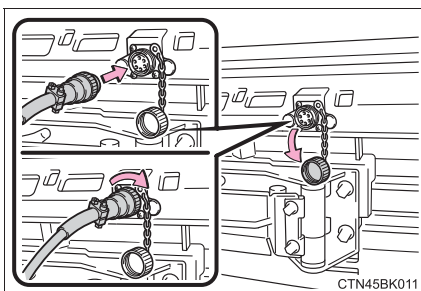
操作のしかた

■ ワイヤロープの引き出し方（動力を用いる場合）

- 1 クラッチレバーを“LOCK”の位置にまわす。



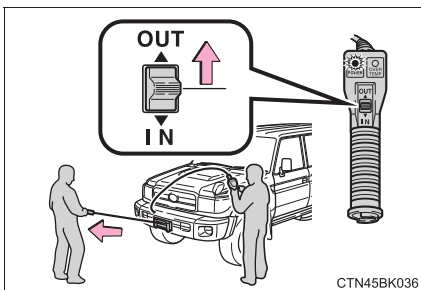
- 2 リモートコントロール用コンセントのキャップを取りはずし、コードプラグを図のように取り付ける。



- 3 シフトレバーをNに置いて、パーキングブレーキをしっかりとかける。
- 4 前輪に輪止め[※]をする。
- 5 エンジンを始動し、エンジン回転を上げる。

- 6 リモートコントロールの“POWER”インジケータが点灯していることを確認し、スイッチを“OUT”側に押しとワイヤロープを引き出せます。

ワイヤロープ取り扱い時はけがをしないように厚手の手袋（革手袋をおすすめします）を着用ください。

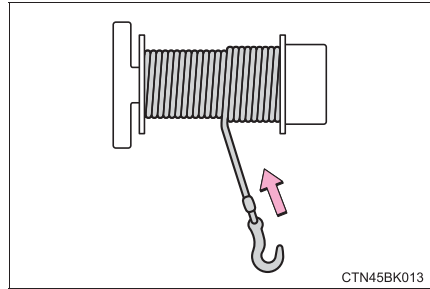


※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ ワイヤロープの巻き取り方

リモートコントロールの“POWER”インジケータが点灯していることを確認し、スイッチを“IN”側に押しワイヤロープを巻き取れます。

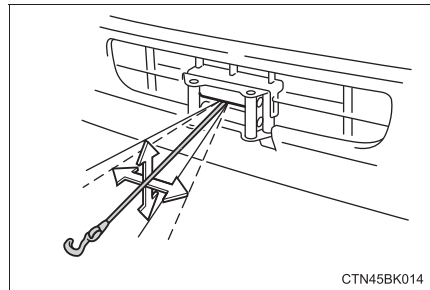
巻き取りは、ワイヤロープのくい込みを防止するため図の角度で行ってください。



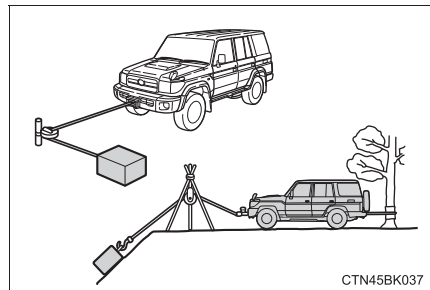
ウインチの使用例

■ ワイヤロープの角度

ウインチの操作時は車両とワイヤロープの角度が常に上下左右 15° 以内にしてください。



車両とワイヤロープの角度が 15° 以上の場合は、図のように取り付けてください。



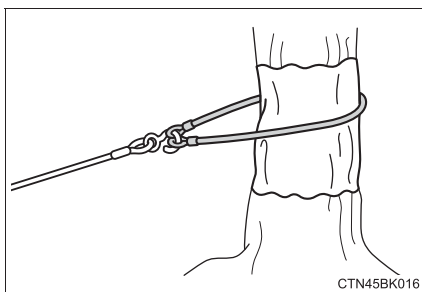
■ ワイヤロープの取り付け

けん引物または固定先（立木など）などに巻きつける必要があるときは、次の方法で行ってください。

- ① 次の条件を満たす、別のワイヤロープを用意します。
 - ・ ウインチのワイヤロープ以上の太さで十分な強度をもつもの。
 - ・ ワイヤロープを巻きつけた際の開き角度 120° 以内となるような十分な長さのもの。

- ② 用意したワイヤロープをけん引物または固定先（立木など）に巻きつけ、ウインチのワイヤフックをかけます。

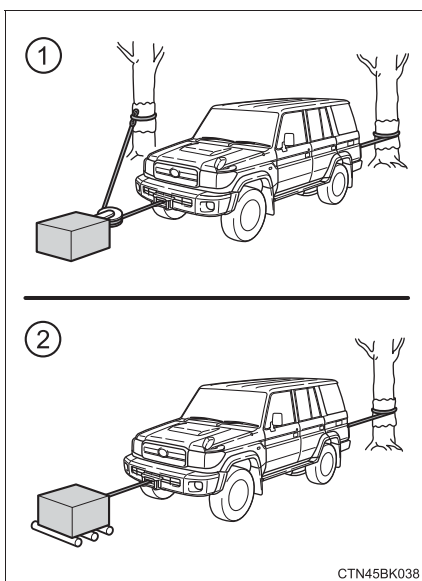
立木などを保護するためにプロテクターを使用してください。



■ 重量物の移動

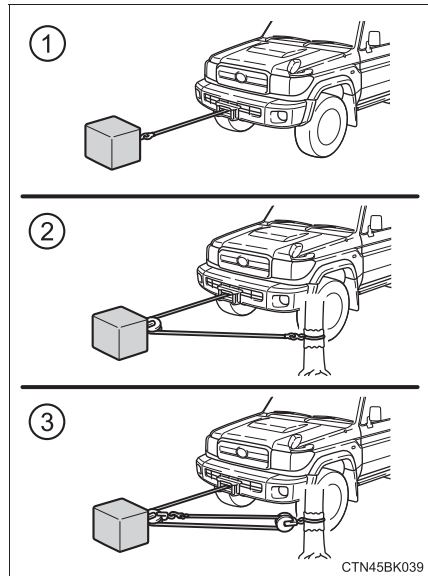
重量物を移動させる場合は、立木などに車両を固定して行います。ころ、または滑車などを利用すると容易に行えます。固定に際しては、それが荷重に十分耐えられることを確認してください。

- ① 滑車
- ② ころ



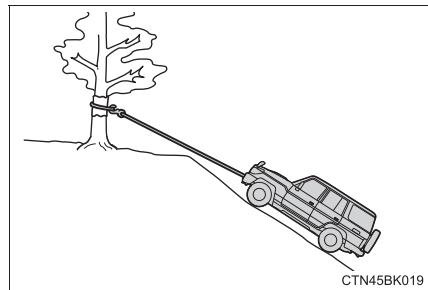
■ 巻き取りと引き出しの際の常用荷重

ワイヤーロープ	常用荷重
① 1本がけ	10kN (1000kgf)
② 2本がけ	20kN (2000kgf)
③ 3本がけ	30kN (3000kgf)



■ スタック時の脱出、急な傾斜路の登坂

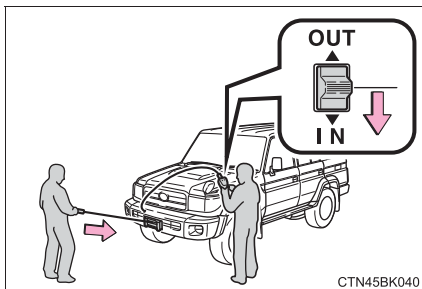
ワイヤーロープを近くの立木または車両等に巻きつけて行います。



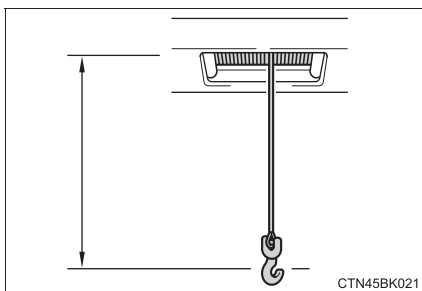
ウインチを使用した後

- 1 1人がワイヤーフックを手で保持し、ワイヤーロープに適度な張りをもたせながらドラムの端から1巻きずついねいに巻き取る。

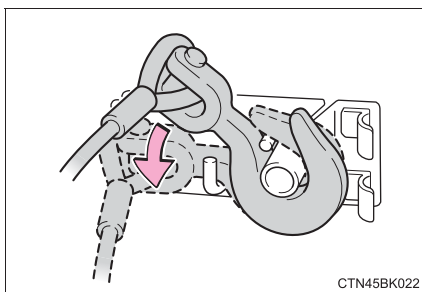
ワイヤーロープ取り扱い時はけがをしないように厚手の手袋（革手袋をおすすめします）を着用ください。



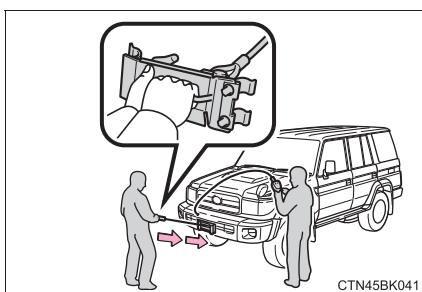
- 2 ワイヤーロープが1m程度残る位置で停止させる。



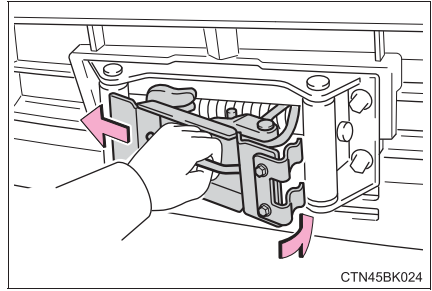
- 3 ワイヤーロープを図のようにフックホルダーに取り付ける。



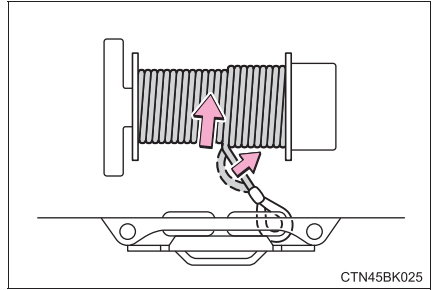
- 4 フックホルダーを手で保持し、ワイヤーロープがほぼ巻き取れるまでリモートコントロールスイッチを断続的に操作する。



- 5 フックホルダーをウインチ開口部に取り付ける。



- 6 ワイヤロープが少し張る程度に巻き取る。



- 7 コードプラグを取りはずし、キャップをリモートコントロール用コンセントに取り付ける。
- 8 ウインチクラッチレバーとリモートコントロールをツールバッグに入れ、グローブボックスに収納する。
- 9 ウインチカバーを取り付ける。

 知識**■ ウインチを使用しているとき**

初めてウインチを使用した時、モーターから煙が出ることがありますが、故障ではありません。使用を重ねると、煙は徐々に出なくなります。

■ ウインチの操作を停止したとき

スイッチを離してもドラムの回転はすぐには停止しないことに注意してください。

■ 立木などを利用してウインチを使用する場合

立木などを保護するためにプロテクターを使用してください。

 **警告**

ウインチは強力な装置です。誤った使い方をすると大変危険ですので、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ウインチ使用前後には次のことを点検してください。

- ・ ウインチ取り付けボルトのゆるみがないか
- ・ ワイヤロープの状態（素線の切れ・折れ曲がり・摩耗・型くずれ・腐食などがないか）
- ・ リモートコントロールのリード線の状態（つぶれ・亀裂などがないか）

ワイヤロープの状態が悪いと、強度が低下し、使用中にワイヤロープが切れるおそれがあります。また、リード線の状態が悪いと、ウインチが思わぬ作動をするおそれがあります。ウインチ装置に異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

● ウインチで物や人をつり上げたり、人を移動させないでください。

● ウインチの巻き取りおよび引き出しの際は、常用荷重を超えない範囲でご使用ください。常用荷重を超えて使用すると、フックがはずれたり、ワイヤロープが切れたりするおそれがあります。

● ウインチ使用中やリモートコントロールがウインチに接続されている間は、操作する人以外はウインチ本体やワイヤロープ・フックおよびリモートコントロール等の装置から十分に離れてください。万一の場合、フックがはずれたり、ワイヤロープ等が思わぬ動きをするおそれがあります。また、ウインチ開口部近くのバンパーに手や足を置かないでください。万一の場合、巻き込まれるおそれがあります。

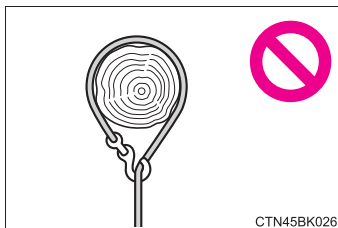
● ウインチを操作していないときでも、ワイヤロープが張っている場合はワイヤロープやフックに触れないでください。万一の場合、フックがはずれたり、ワイヤロープ等が思わぬ動きをするおそれがあります。

警告

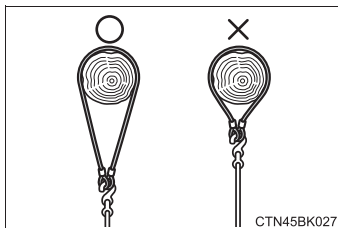
- ウインチを操作しないときやウインチ本体、ワイヤーロープに手を触れるときは、リモートコントロールをウインチから取りはずしてください。リモートコントロールを接続したままにしておくと、思わぬ作動につながるおそれがあります。
- 車両が動き出すことによる事故を防ぐため、ウインチを一人で操作する場合や車両を停車して使用する場合は、必ずパーキングブレーキを引き、輪止めをしてください。
- ウインチの巻き取りは必ずウインチ開口部に表示してあるドラムの回転方向で行ってください。もし、ワイヤーロープが反対方向に巻き取られているとブレーキが作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、リモートコントロールのスイッチが“OUT”側でワイヤーロープを巻き取ることになるため、操作を誤るおそれがあります。
- ドラム上でからまったワイヤーロープを直す場合、ワイヤーロープを直接手で持って直さずに、ワイヤーロープを引き出してから巻き直してください。どうしても直接手を使わなければ直らない場合は、必ずリモートコントロールをウインチ本体から取りはずしてから行ってください。手で直しているときにウインチが作動すると、巻き込まれるおそれがあります。
- ワイヤーロープは巻き取るにつれて巻き取り速度が速くなります。ウインチ本体に巻き込まれないように注意して操作してください。
- ワイヤーロープを最後まで巻き取る際、1m程度残る位置でフックホルダーに取り付け、フックホルダーだけ手に持って巻き取るようにしてください。フックとワイヤーロープを手で持ったまま巻き取ったり、ウインチ開口部に手を添えたりすると、巻き込まれるおそれがあります。
- ワイヤーロープ取り扱い時はけがをしないように厚手の手袋(革手袋をおすすめします)を着用ください。
- ウインチ使用中は車両に反動をつけたり、ゆすったりしないでください。フックがはずれたり、ロープに大きな荷重がかかり切れたりするおそれがあります。
- ウインチ使用中および使用後しばらくは、ウインチ本体(モーター表面)が高温になっていますので、直接手をふれないでください。やけどをするおそれがあります。
- ワイヤーロープを引き出すときは、ウインチのドラムに必ず5巻以上を残してください。すべて引き出してしまうと、ワイヤーロープがドラムからはずれてしまうおそれがあります。
- ウインチ使用中は車両とワイヤーロープの角度が上下左右15°以内になるようにしてください。15°を超えると車両が不安定になり思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

- ワイヤロープの先端をけん引物または固定先に直接巻きつけしないでください。ワイヤロープが切れるおそれがあります。



- 別のワイヤロープを巻きつけた際の開き角度が 120° 以内になるようにしてください。開き角度が 120° を超えると、ワイヤロープが切れるおそれがあります。



 **注意****■車両およびウインチの故障や損傷を防ぐために**

- ウインチ操作はウインチ本体から、フックホルダーを取りはずした状態で行ってください。
- ウインチ使用中にリモートコントロールの“OVER TEMP”警告灯が点灯し、ブザーが鳴ったときは、すぐにスイッチをOFFにしてモーターを冷却してください。そのまま使用を続けるとモーターが異常加熱し、故障の原因となります。
- ウインチ使用中は車両とワイヤーロープの角度が上下左右15°以内になるようにしてください。15°を超えると巻き取り時にワイヤーロープが片寄ってもつれることがあります。
- ウインチの常用荷重を超える操作をしないでください。
- 手動でワイヤーロープを巻き取らないでください。手動で巻き取るとワイヤーロープにたるみができ、ワイヤーロープが痛みやすくなります。
- ワイヤーロープを巻き取る時は、ワイヤーロープがドラムからはずれていないことを確認してください。はずれたまま巻き取ると故障の原因となります。
- ワイヤーロープの巻き取りができない状態(けん引物が障害物にあたって動かない場合など)のとき、リモートコントロールのスイッチを“IN”側に操作をしないでください。故障の原因となります。スイッチを“OUT”側にしてゆっくりと少しワイヤーロープをゆるめてから、スイッチをOFFにして障害物を取り除くなどけん引可能な状態にして、再度スイッチの“IN”側操作をしてください。
- フックホルダーをウインチに取り付け後の巻き取りは、ワイヤーが少し張る程度で十分です。張りすぎるとフックホルダーを破損する恐れがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

- ウインチ使用中にリモートコントロールの“POWER”インジケーターが減光または消灯した場合は、すぐにスイッチをOFFにしてバッテリーを充電してください。
- 長時間の連続使用はしないでください。

 **注意****■ リモートコントロールについて**

- 落としたり、ぶつけたり、強い衝撃を与えないでください。
- 大雨の中で操作をしたり、水に浸けたりしないでください。
- リモートコントロール用コンセントに無理な力を加えたり、水、泥、薬品類などを付着させたりしないでください。

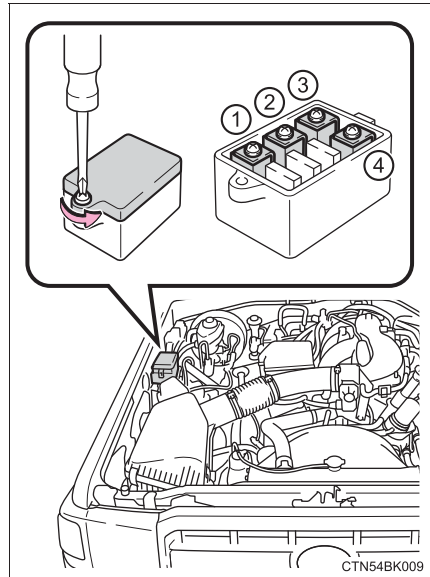
■ 使用しないときは

- クラッチノブを必ず“LOCK”の位置にしてください。
- 取りはずしたクラッチレバーとリモートコントロールは専用の袋に入れて、グローブボックス内に収納してください。
- リモートコントロールを取りはずした後は、コンセント内部に砂、ほこり、水などが入らないように、キャップを取りつけてください。
- ウインチを保護するために、常にウインチカバーを取り付けてください。

アクセサリコネクタ

アクセサリコネクタは、各種電装品の電源としてお使いください。

- ① 常時通電端子 (+)
- ② エンジンスイッチ “ON” 時通電端子 (+)
- ③ エンジンスイッチ “ACC” 時通電端子 (+)
- ④ アース端子 (-)



 **警告****■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやアクセサリコネクタを改造しないでください。
- アクセサリコネクタの消費電力合計は240W以下(DC12Vで最大電流20A以下)になるようにしてください。
- アクセサリコネクタの通電端子に水などがかかたりしないように常時フタを閉めておいてください。
- 通電端子に接続してある電線が、隣接する端子に接触しないようにしてください。
- 各種電装品を取りつける際は、通電端子の緩みなきよう締め付けてください。

 **注意****■バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンを停止した状態でアクセサリコネクタを長時間使用しないでください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

各端子(+)とアース端子(-)間の最大電流(最大消費電力)は下記の容量をこえないようにしてください。

- ・ 常時通電端子：DC12V/11A (132W)
- ・ エンジンスイッチ“ON”時通電端子：DC12V/6A (72W)
- ・ エンジンスイッチ“ACC”時通電端子：DC12V/6A (72W)

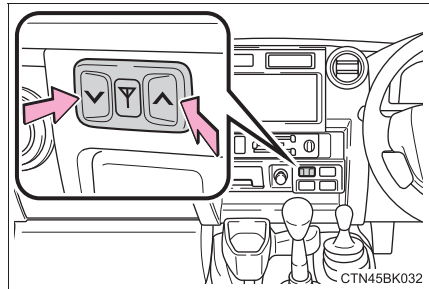
パワーアンテナ

パワーアンテナは、アンテナスイッチおよびこの車のパワーアンテナに対応している販売店装着オプションのオーディオ・ナビゲーションシステムで使用することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の各取扱書をご覧ください。

アンテナ高さの調整

スイッチを“∧”側、または“∨”側に押す



アンテナを格納するときは

次のいずれかの操作をするとアンテナが格納されます

- オーディオ・ナビゲーションシステムの電源を OFF にする
- エンジンスイッチを“LOCK”にする

⚠ 警告

■ パワーアンテナが作動しているとき

手をふれないでください。

けがや、パワーアンテナの故障などの原因になるおそれがあります。

 **注意****■ パワーアンテナの損傷を防ぐために**

次のような場合は、パワーアンテナを格納しておいてください。

- 自動洗車機を使うとき
- 車庫の天井などにアンテナが接触するとき
- カーカバーをかけるとき

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。
 - ・ タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 174）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かししたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを下り坂では R、上り坂では 1 速に入れて駐車し、輪止め[※]をしてください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については、次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ~ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 **警告****■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをししないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ タイヤチェーンの使用について**

- トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- アルミホイール装着車：タイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

■ フロントウィンドウガラスに付いた氷を除去するときは

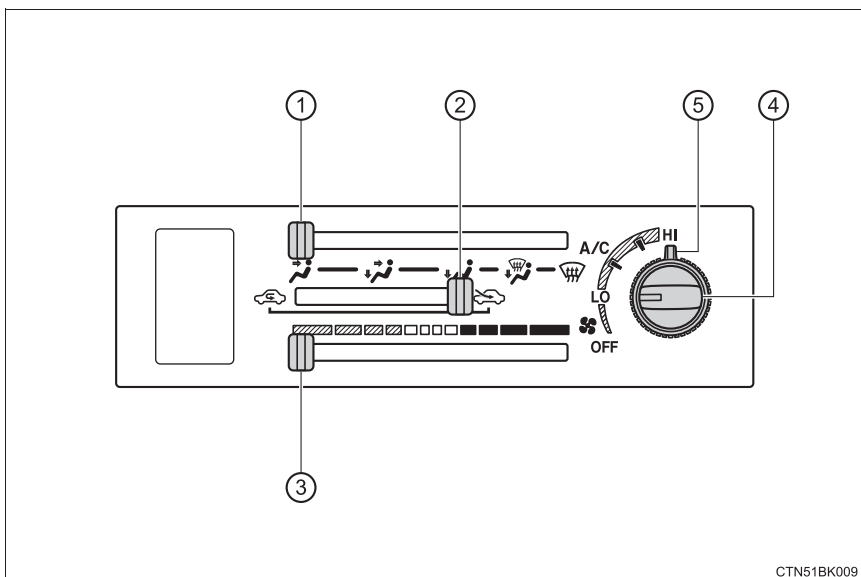
たたいて割らないでください。
ウィンドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコン・ デフォグラーの使い方	
エアコン	150
リヤヒーター	154
5-2. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧	155
・フロントルームランプ/ リヤルームランプ	156
5-3. 収納装備の使い方	
収納装備一覧	157
・グローブボックス	158
・コンソールボックス	159
・ドアポケット	160
・オープントレイ	160
荷室内装備	161
5-4. その他の室内装備の使い方	
その他の室内装備	162
・サンバイザー	162
・灰皿	162
・シガレットライター	163
・時計	164

エアコン




CTN51BK009

- ① 吹き出し口切りかえレバー
- ② 外気導入・内気循環切りかえレバー
- ③ 温度調整レバー
- ④ ファン調整スイッチ
- ⑤ エアコンスイッチ

- **エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには**
 エアコンスイッチを OFF 以外の位置にするとエアコンが作動する
 ファン調整スイッチが作動中のときエアコンを作動させることができます
- **温度をかえるには**
 温度調整レバーを右（暖）か左（冷）へ操作する
 エアコンスイッチが OFF のときは送風または暖房で使用できます。
- **風量をかえるには**
 ファン調整スイッチを右（増）か左（減）へまわす
 送風を止めるときはスイッチを OFF の位置にしてください。
- **吹き出し口を切りかえるには**
 吹き出し口切りかえレバーを操作して吹き出し口を選ぶ

その他の機能

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

外気導入・内気循環切りかえレバーを  の位置にすると外気導入、

 の位置にすると内気循環に切りかわります。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには

吹き出し口切りかえレバーを  の位置にし、外気導入・内気循環

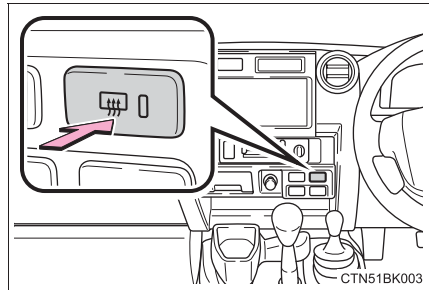
切りかえレバーを  の位置にする

エアコンスイッチを ON にすると曇りが早く取れます。

■ リヤウインドウデフォグラー★

リヤウインドウの曇りを取るときに使用ください。

リヤウインドウデフォグラーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

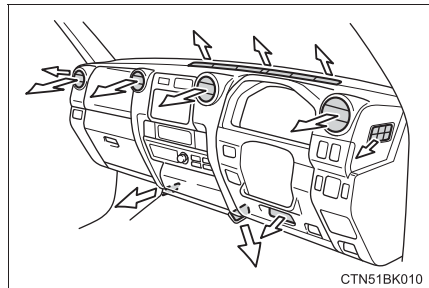


CTN51BK003

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



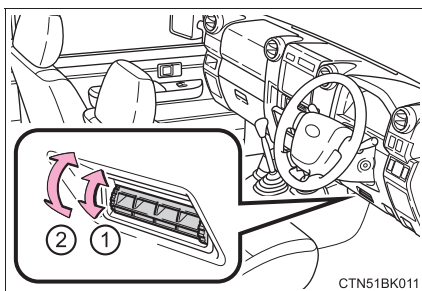
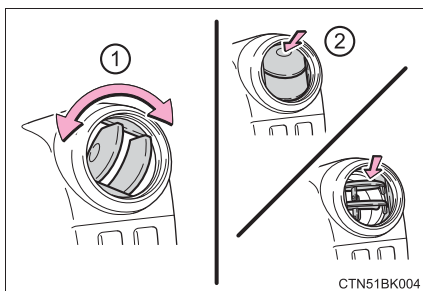
CTN51BK010

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ インストルメントパネル上部

▶ インストルメントパネル下部



- ① 風向きの調整
- ② 吹き出し口の開閉

□ 知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、エアコンスイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- エアコンスイッチを OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入／内気循環について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

エアコンスイッチを ON にしても除湿機能が働かない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 180

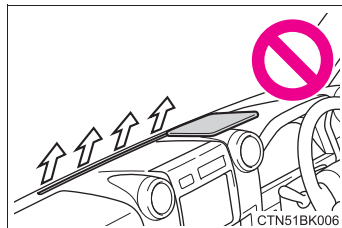
警告**■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させていると

きは、吹き出し口切りかえレバーを  の位置に合わせないでください。

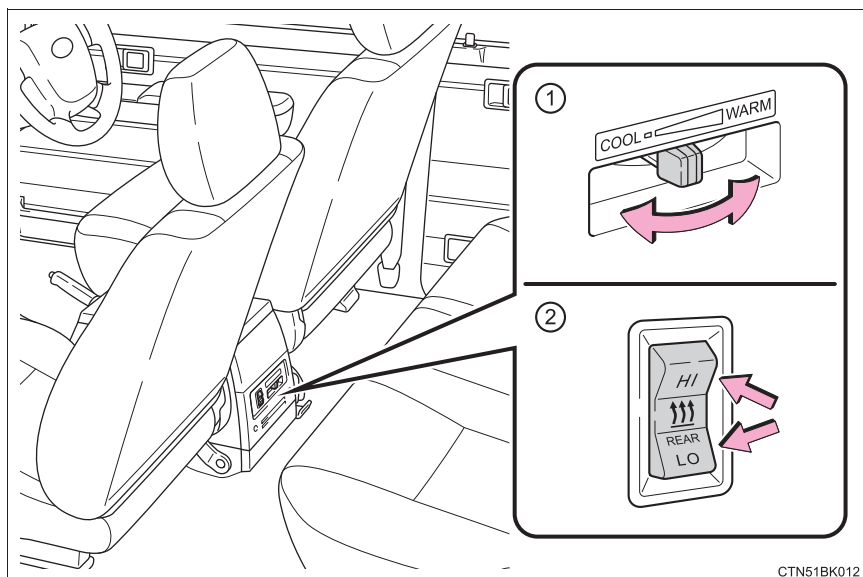
外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。

**注意****■バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

リヤヒーター



- ① 温度調整レバー
- ② リヤヒータースイッチ

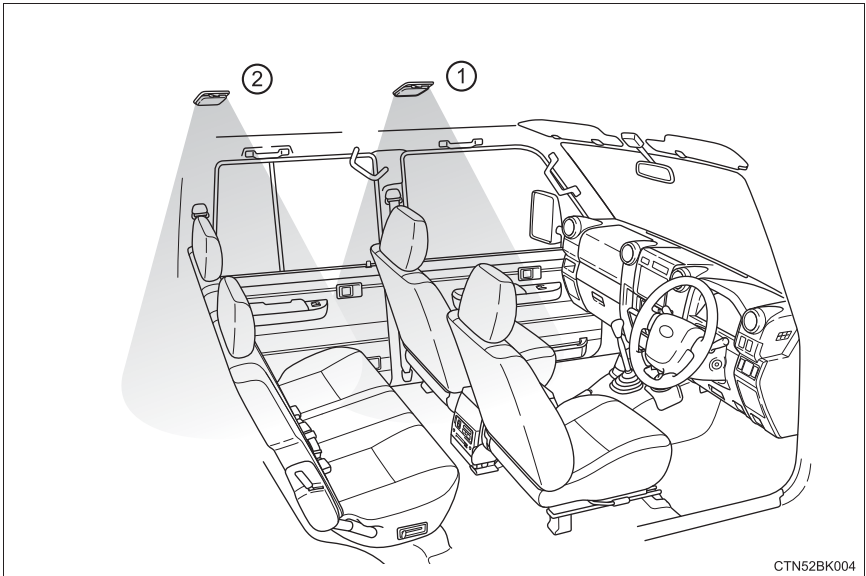
リヤヒーターを使用するときは

スイッチの“HI”（強風）または“LO”（弱風）側を押す
使用しないときはスイッチを中立の位置にしておいてください。

温度を変更するときは

温度調整レバーを“WARM”（暖）か“COOL”（冷）へ操作する
使用しないときは温度調整レバーを“COOL”の位置にしておいてください。

室内灯一覧

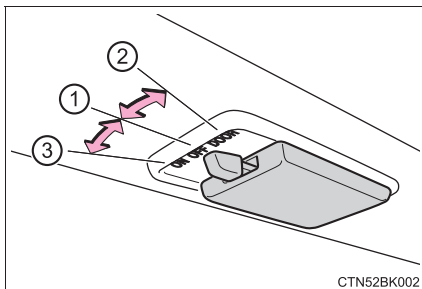


- ① フロントルームランプ (→ P. 156)
- ② リヤルームランプ★ (→ P. 156)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントルームランプ／リヤルームランプ★

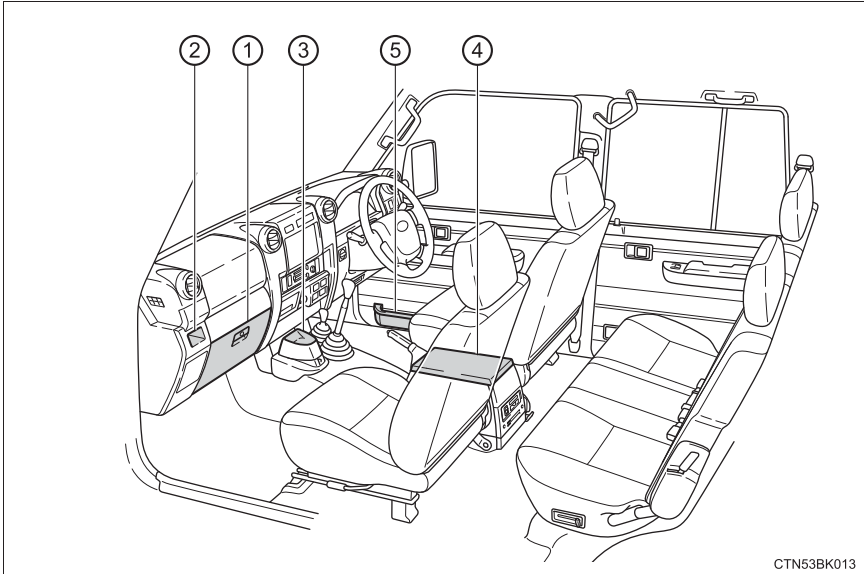
- ① ランプを消灯する
- ② ドアの開閉に連動して、ランプ点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）
- ③ ランプを点灯する

**⚠ 注意**

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



CTN53BK013

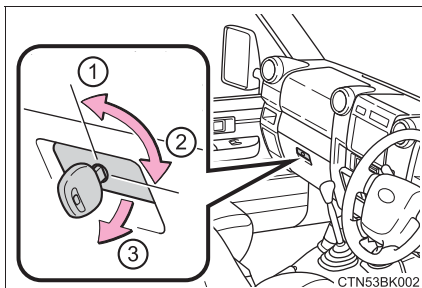
- ① グローブボックス (→ P. 158)
- ② オープントレイ (→ P. 160)
- ③ フロントコンソールボックス (→ P. 159)
- ④ センターコンソールボックス (→ P. 159)
- ⑤ ドアポケット (→ P. 160)

警告

- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

- ① キーで解錠
- ② キーで施錠
- ③ 開ける（レバーを引き上げる）

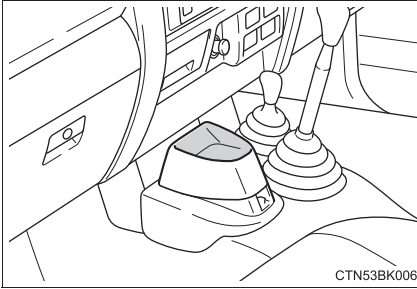


知識

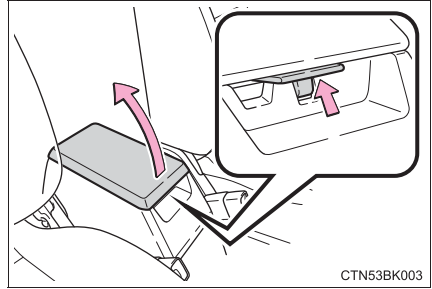
サブキー（灰色）ではグローブボックスの施錠・解錠はできません。

コンソールボックス

▶ フロント



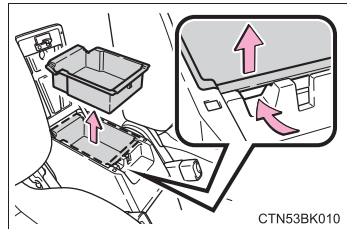
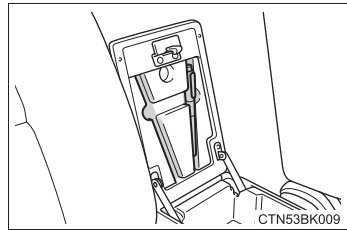
▶ センター



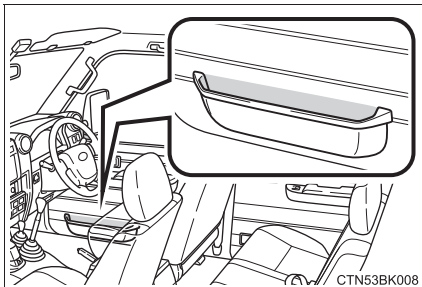
コンソールボックスを開けるには
レバーを引く

知識

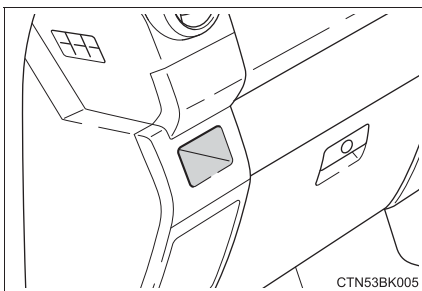
- センターコンソールボックスのフタの裏側にペンホルダーがあります。
- ボックス内の中間トレイは取りはずすことができます。



ドアポケット



オープントレイ



警告

オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。

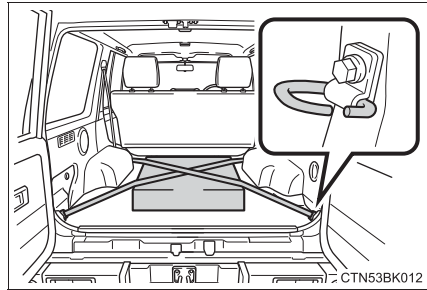
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

荷室内装備★

デッキフック

フックを起こして使用してください。

フックを使って荷物を固定することができます。



⚠ 警告

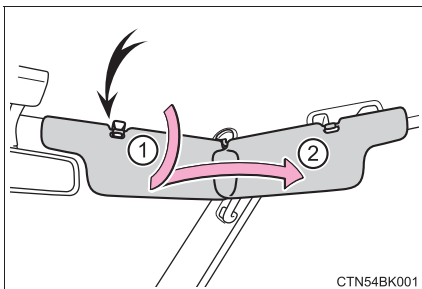
デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他の室内装備

サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

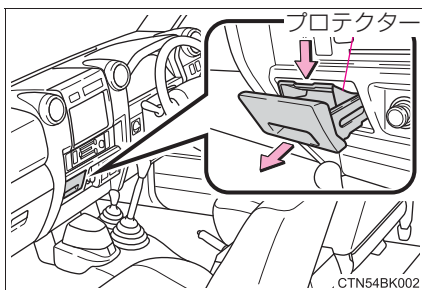


灰皿

▶ インストルメントパネル

フタを手前に引いて開ける

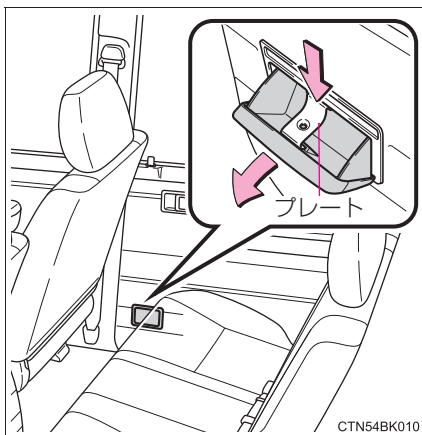
取りはずすときは、プロテクターを押さえて手前に引き出します。



▶ リヤドア下部

フタの上部を引いて開ける

取りはずすときは、プレートを押さえて手前に引き出します。



警告**■ 使用しないときは**

灰皿のフタを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いた灰皿が体にあたったり、灰が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

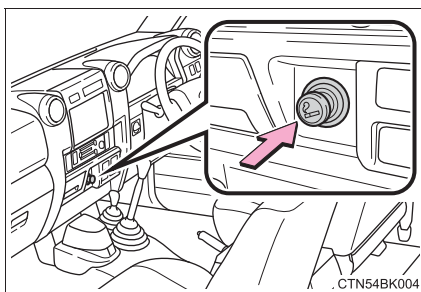
■ 出火を防ぐために

- マッチ・タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、灰皿のフタを確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くすなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター

シガレットライターを押し込む

もとの位置にもどったら使用できます。

**知識****■ 使用条件**

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

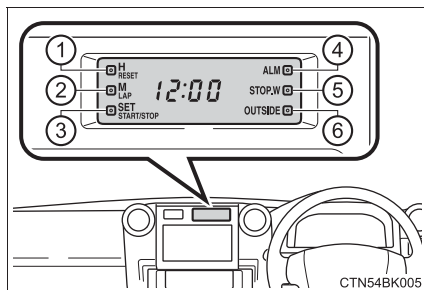
警告**■ やけどや火災を防ぐために**

- シガレットライターの金属部分にふれないでください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- トヨタ純正品以外の電気製品を電源ソケットに挿し込まないでください。ソケットが変形し、そのあとシガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出すなど、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

時計

時計には時刻表示のほかに、アラーム機能、ストップウォッチ機能および外気温表示機能があります。

- ① “時” を調整する (H)
- ② “分” を調整する (M)
- ③ “分” を 00 にする (SET)
- ④ アラーム機能 (ALM)
- ⑤ ストップウォッチ機能 (STOP.W)
- ⑥ 外気温表示機能 (OUTSIDE)



■ 時計

▶ 時を調整する

H を押す

▶ 分を調整する

M を押す

▶ 正時合わせ

SET を押す

(例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00

1:30 ~ 1:59 → 2:00

H または M を押して時刻調整中のとき、午前は A (AM)、午後は P (PM) が時刻の末尾に表示されます。

■ アラーム機能

▶ アラーム吹鳴時刻の設定

- 1 ALM を押す
- 2 時計表示の調整と同様に時刻を設定する
- 3 SET を押す
- 4 アラーム設定後は時刻の末尾に“.”（ピリオド）及び午前は A (AM)、午後には P (PM) が表示される
(例) 1:00. A
アラーム設定のとき、6 秒間操作をしないと自動的に時計表示に戻ります。

▶ アラームの吹鳴と停止

セットされた時刻に 1 分間鳴ります。停止する場合は ALM 以外のいずれかのボタンを押してください。

エンジンスイッチが“LOCK”の場合でもアラームは鳴ります。

また、アラーム停止後は解除をしない限り設定時刻に再度鳴ります。

▶ アラームの解除

- 1 ALM を押す
- 2 SET を押す
- 3 時刻の末尾から“.”（ピリオド）表示が消えていることを確認する

■ ストップウォッチ機能

▶ ストップウォッチを使う

1 STOP.W を押す

2 SET (START/STOP) を押すと計時が始まる

計時可能な時間は最大 19 分 59 秒 9 (19:59.9) です。この時間を超えると再度 0 (0:00.0) に戻り計時が継続されます。

3 再度 SET (START/STOP) を押すと計時が終了する

計時をリセットするときは H (RESET) を押してください。

▶ ラップタイム計測

1 ストップウォッチにて計時中に M (LAP) を押す

計時は継続されます。ラップタイムは何回でも表示可能です。

ラップタイム計測中は末尾の “.” (ピリオド) 表示が 1 秒周期で点滅します。

2 再度 M (LAP) を押すと継続中の計時表示に戻る

■ 外気温表示

OUTSIDE を押すと外気温が表示されます。

表示できる範囲は -30 ℃から 50 ℃です。

温度表示は 1 秒ごとに更新されます。

知識

■ 作動条件

▶ 時計、アラーム、ストップウォッチ

エンジンスイッチが “ACC” または “ON” のとき

▶ 外気温表示

エンジンスイッチが “ON” のとき

■ バッテリー端子を脱着したとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

■ 外気温表示時に “--” が表示されたとき

エンジンスイッチを “ON” にしたときに “--” が表示される場合がありますが、すぐに消えるときは故障ではありません。

表示が消えないときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	170
内装の手入れ.....	172
タイヤについて.....	174

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	178
エアコンフィルターの 清掃	180
ウォッシャー液の補給	183
ワイヤレスリモコンの 電池交換.....	185
ヒューズの点検・交換	187
電球（バルブ）の交換	194

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う
ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- ドアミラーおよびアンテナを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■ アルミホイール（アルミホイール装着車）

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーおよびオーバーフェンダーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあります。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや、やわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■ カーペットの洗淨

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

 **警告****■車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 30)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

 **注意****■清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは（バン）

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を 10,000 km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

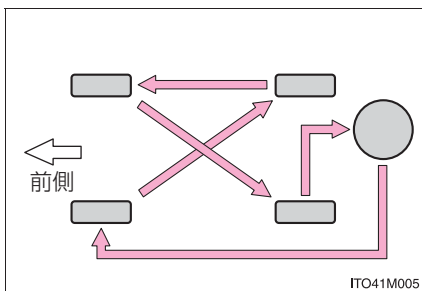
● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

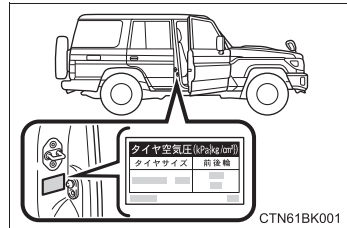
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



 知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



車種	タイヤサイズ	空気圧※ [kPa (kg/cm ²)]		
		積載状態	前輪	後輪
バン	265/70R16 112S	空車	240 (2.40)	240 (2.40)
		積車	240 (2.40)	240 (2.40)
トラック	7.50R16LT 114/112R	空車	250 (2.50)	300 (3.00)
		積車	250 (2.50)	475 (4.75)

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

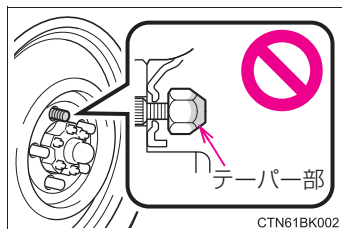
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

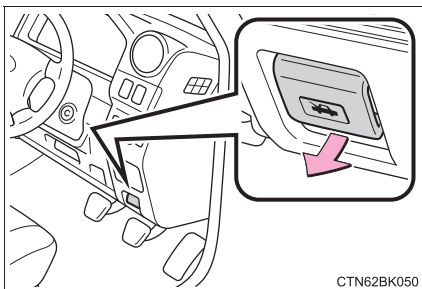
■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

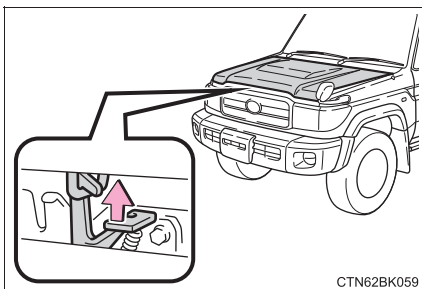
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

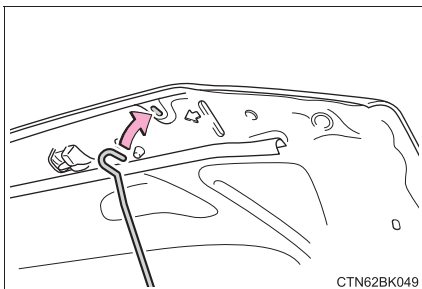
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを上へ引いてフックをはずし、ボンネットを持ち上げる



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



知識

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告**■ 走行前の確認**

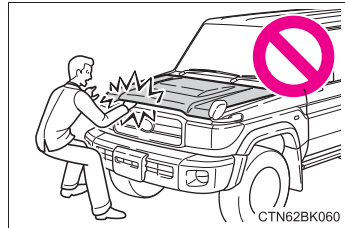
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**注意****■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

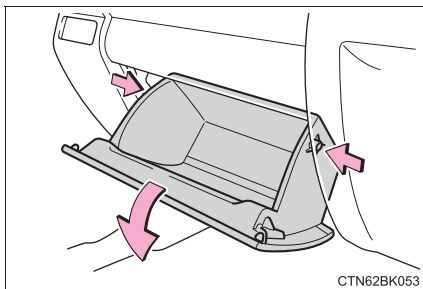
エアコンフィルターの清掃

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃してください。

清掃のしかた

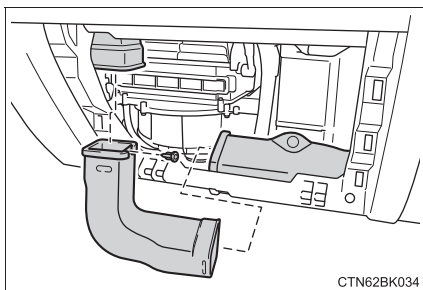
1 エンジンスイッチを“LOCK”にする

2 グローブボックスを開き、グローブボックス側面を内側に押し、上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす



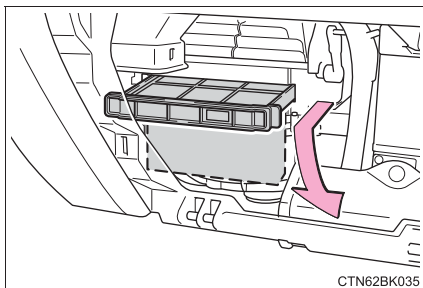
3 エアコンダクトのクリップをはずし、エアコンダクトを取りはずす

クリップの脱着方法 (→ P. 181)



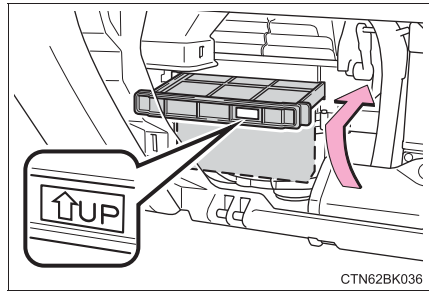
4 フィルターを取りはずして清掃する

水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。



- 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付け

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



CTN62BK036

知識

■ エアコンフィルターの清掃について

エアコンを快適にお使いいただくために、フィルターを定期的に清掃してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

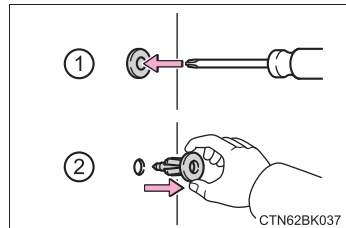
フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃してください。

■ エアコンダクトを取りはずすときは

エアコンダクトのクリップをはずしてからエアコンダクトを取りはずします。

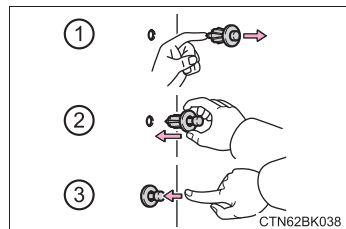
● クリップの取りはずし方

- ① クリップの中心部分をドライバーなどの先のとがったもので押す
- ② クリップを引き抜く



● クリップの取り付け方

- ① クリップの中心部分を押し、クリップ頭部が出るようにする
- ② クリップを差し込む
- ③ クリップの中心を押す



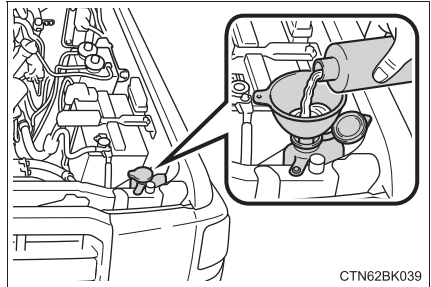
 **注意****■ エアコンを使用するときの注意**

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは水洗いするか、エアブローを使って清掃してください。ブラシなどでこすると、フィルターが損傷するおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

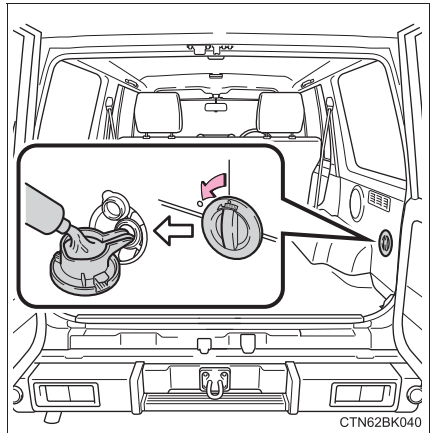
▶ フロント側ウォッシャー

液量を確認し、不足しているときは、キャップを開けてウォッシャー液を補充する。



▶ リヤ側ウォッシャー★

給水口を開けて液量を確認し、不足しているときは、キャップを開けて給水口を図のように使用し、ウォッシャー液を補充する。



⚠ 警告

■ フロント側ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

ワイレスリモコンの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

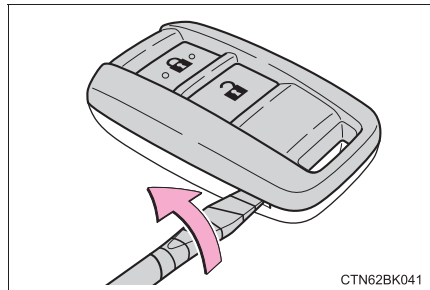
用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバーなど
- リチウム電池 CR2032

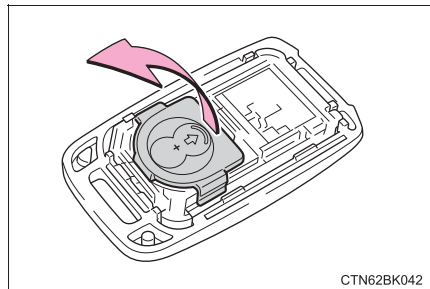
電池交換のしかた

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

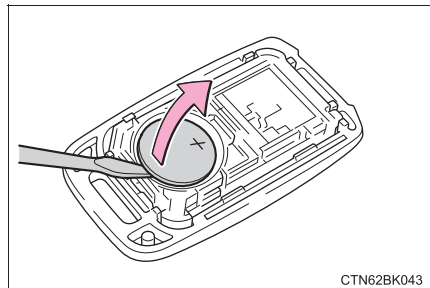


2 電池カバーをはずす



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+ 極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

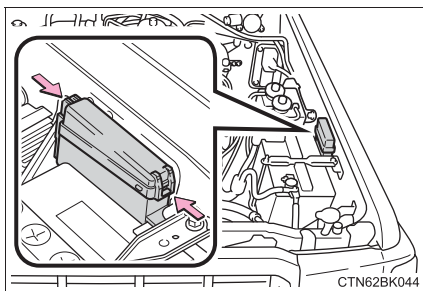
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを“LOCK”にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（バッテリー後方）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

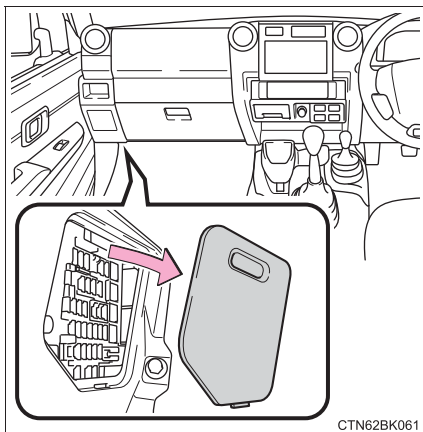


▶ エンジンルーム（アクセサリコネクタ）

→ P. 141

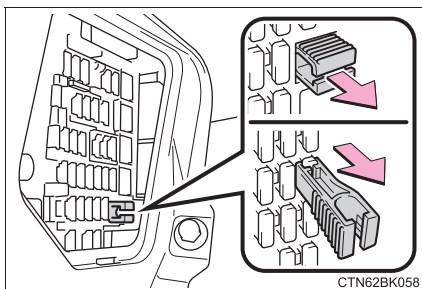
▶ 助手席足元

カバーを取りはずす



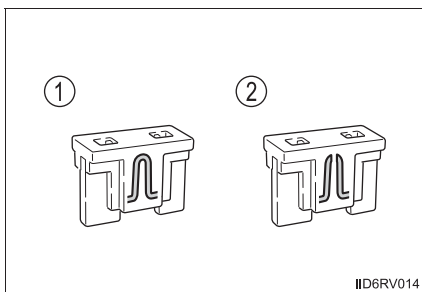
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

**4** ヒューズが切れていないか点検する

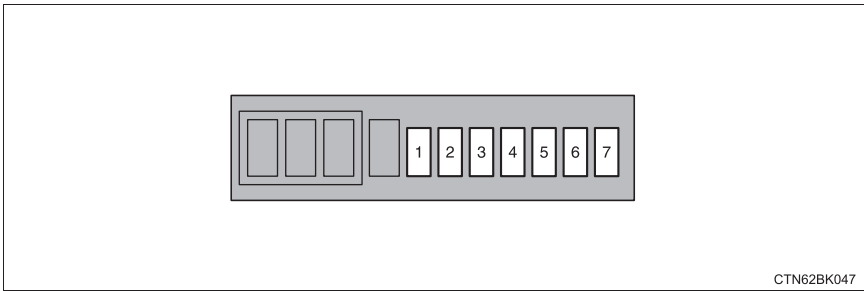
- ① 正常
- ② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



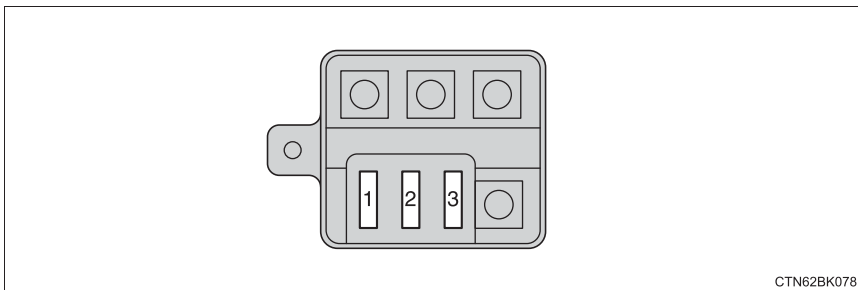
ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（バッテリー後方）



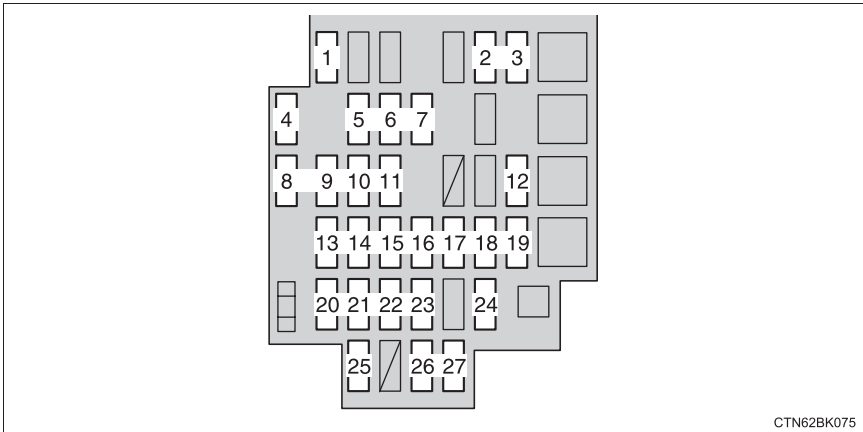
	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	HORN	10 A	ホーン
2	EFI	25 A	EFI システム
3	A/F	10 A	EFI システム
4	TURN&HAZ	15 A	方向指示灯、非常点滅灯、メーターインジケーター
5	ABS SOL	30 A	ABS
6	ETCS	10 A	EFI システム
7	ALT-S	7.5 A	充電系

■ エンジンルーム（アクセサリコネクタ）



No.	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	20 A	常時通電端子
2	10 A	エンジンスイッチ “ON” 時通電端子
3	10 A	エンジンスイッチ “ACC” 時通電端子

■ 助手席足元



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	A/C	10 A	エアコン
2	GAUGE	15 A	後退灯、エアコン、リヤウィンドウデフォグガー、EFI システム、時計、オーディオ
3	ECU IG	15 A	充電系、EFI システム、パワーアンテナ、デフロック、ワイヤレスリモートコントロール、ABS
4	SPARE	10 A	予備ヒューズ
5	RADIO	15 A	オーディオ
6	ECU-B	10 A	パワーアンテナ、時計、リヤヒーター
7	DOME NO.1	10 A	ルームランプ、メーター
8	SPARE	20 A	予備ヒューズ
9	METER	10 A	メーター
10	IGN	10 A	EFI システム、SRS エアバッグシステム
11	INJ	10 A	EFI システム
12	WIP	20 A	ワイパー&ウォッシャー
13	ST	7.5 A	始動系、EFI システム
14	H/LP LO RH	10 A	ヘッドランプロービーム (右側)
15	H/LP LO LH	10 A	ヘッドランプロービーム (左側)、ヘッドランプレベルリングシステム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
16	H/LP HI RH	10 A	ヘッドランプハイビーム (右側)
17	H/LP HI LH	10 A	ヘッドランプハイビーム (左側)、メーターインジケータ
18	ACC	7.5 A	ドアミラー、時計、パワーアンテナ、オーディオ、アクセサリソケット
19	CIG	15 A	シガレットライター
20	ST-S	5 A	EFI システム
21	DEFOG	20 A	リヤウィンドウデフォグ、EFI システム
22	STOP	30 A	制動灯、ハイマウントストップランプ、EFI システム
23	OBD2	7.5 A	ダイアグノーシス
24	STOP	15 A	制動灯、ハイマウントストップランプ、EFI システム
25	EFI-NO.2	10 A	EFI システム
26	TAIL	10 A	尾灯、車幅灯、番号灯、EFI システム
27	PANEL	10 A	メーター照明、オーディオ、スイッチ照明

 知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→ P. 194)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

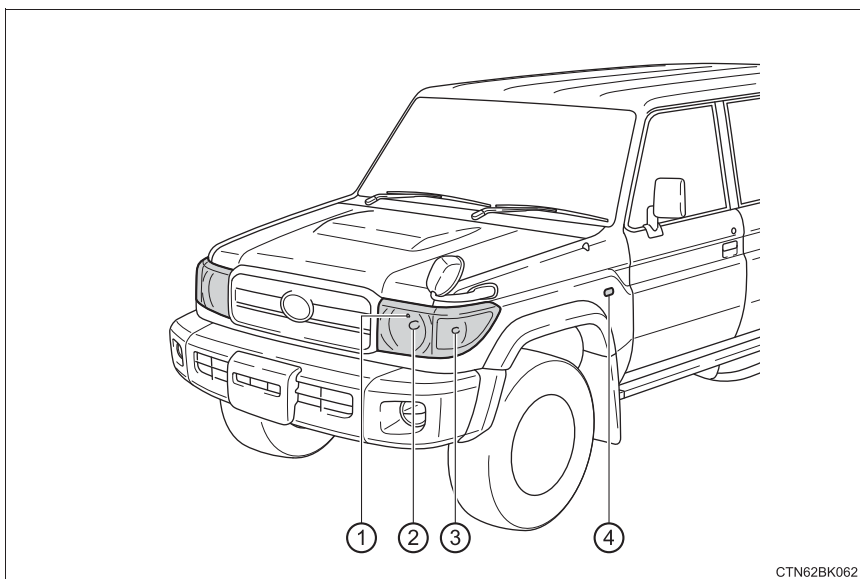
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 256）

バルブ位置

■ フロント



① 車幅灯

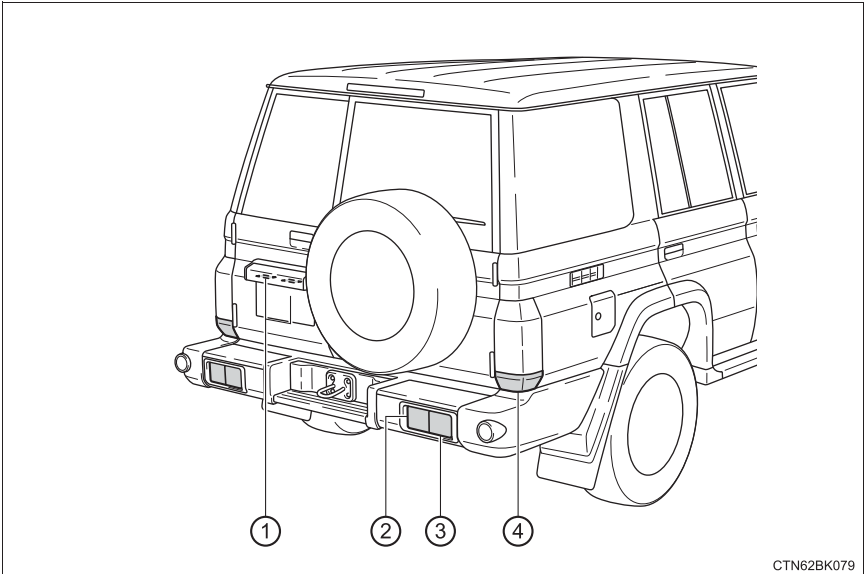
② ヘッドランプ

③ フロント方向指示灯／非常点滅灯

④ サイド方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ

▶ バン



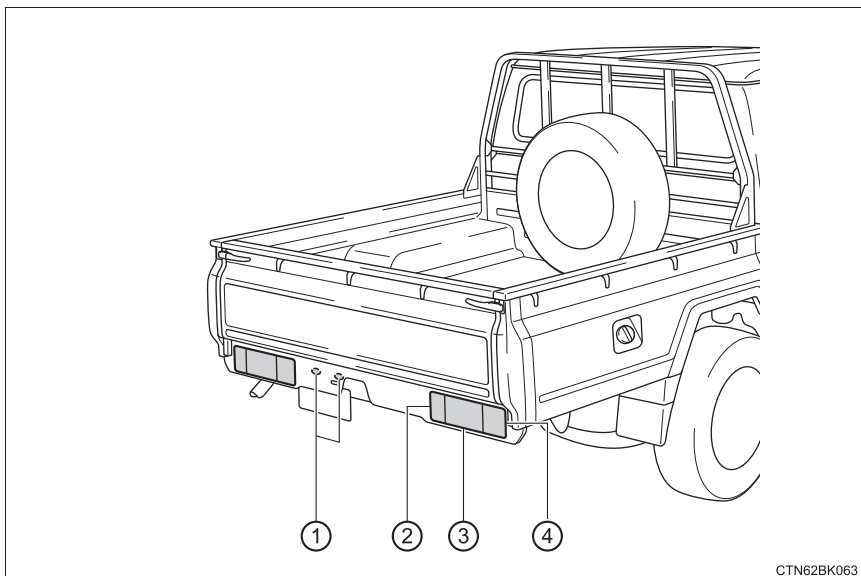
① 番号灯

② 制動灯／尾灯

③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

④ 後退灯

▶ トラック



① 番号灯

② 後退灯

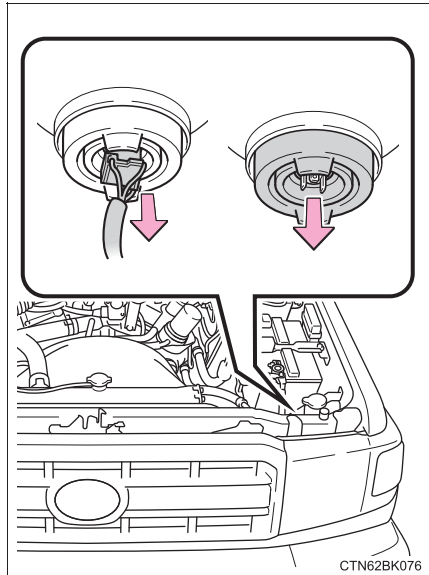
③ 制動灯／尾灯

④ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

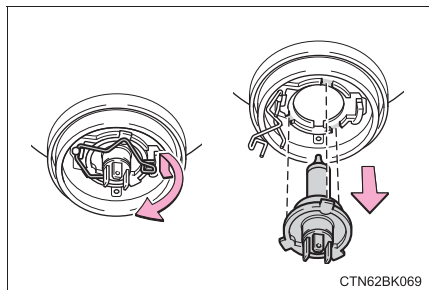
電球交換のしかた

■ ヘッドランプ

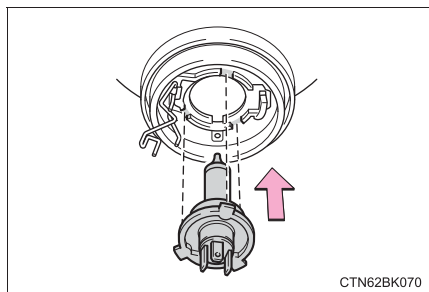
- 1 コネクターをはずし、ゴムカバーをはずす



- 2 止め金をはずし、電球を取りはずす

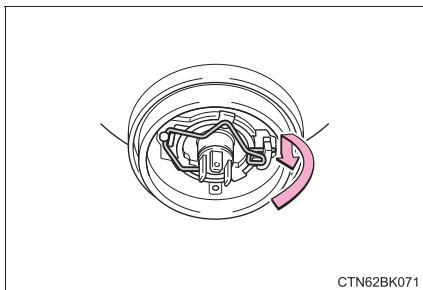


- 3 電球を交換し取り付ける
取り付け部と電球のツメ（3か所）を合わせて挿し込みます。

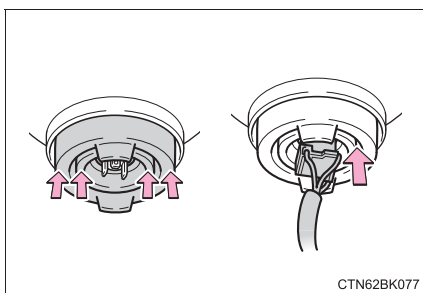


4 止め金で電球を固定する

電球を軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

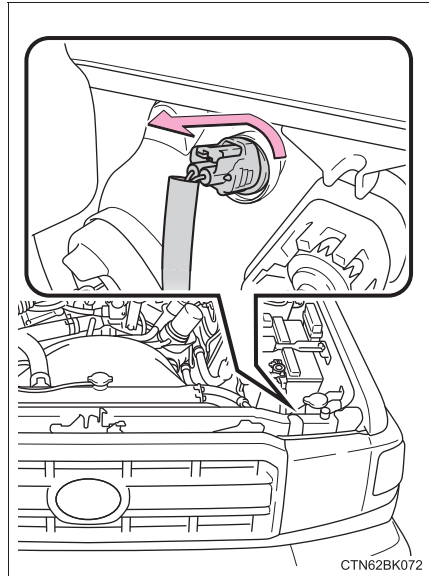
**5** ゴムカバーとコネクタを取り付ける

ゴムカバーを押し込んで、確実にゴムカバーを取り付けた後、コネクタを取り付けてください。

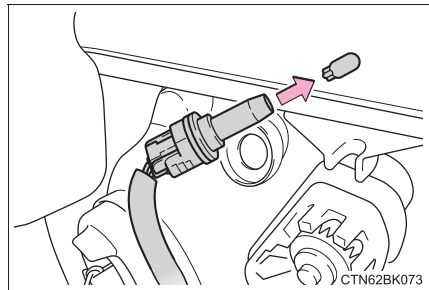


■ 車幅灯

- 1 ソケットを取りはずす



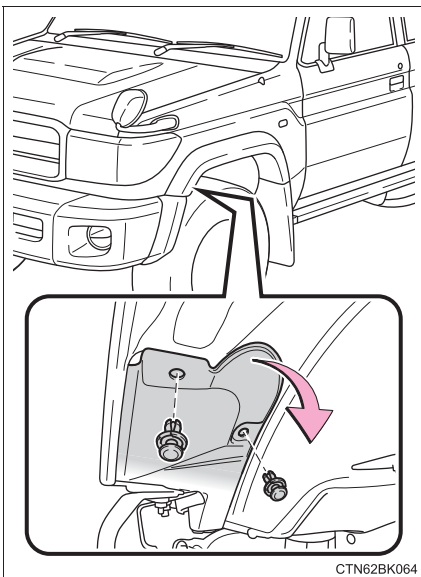
- 2 電球を取りはずす



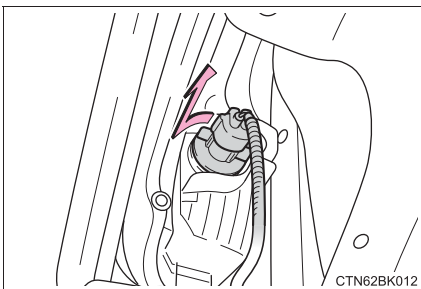
- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

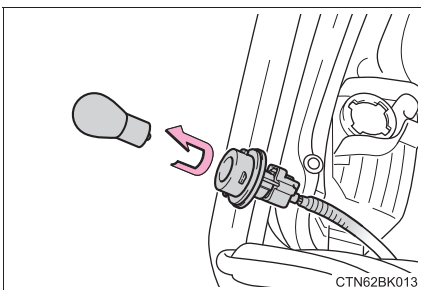
- 1 クリップ（2か所）を外して、フェンダーライナーをめくる
クリップをはずすときはマイナスドライバーを使用してください。
クリップの脱着方法（→ P. 208）



- 2 ソケットを取りはずす

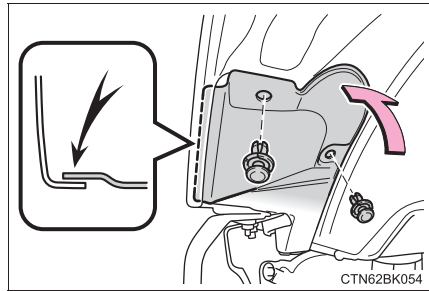


- 3 電球を取りはずす



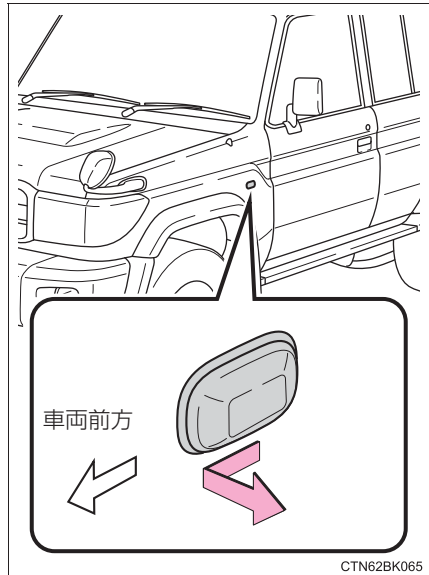
- 4 バルブを取り付けるときは、取りはずしたときの逆の手順で取り付ける

- 5 クリップ (2か所) にてフェンダーライナーを取りつける
 フェンダーライナーをフェンダーの内側に収めて取りつけてください。
 クリップの脱着方法 (→ P. 208)

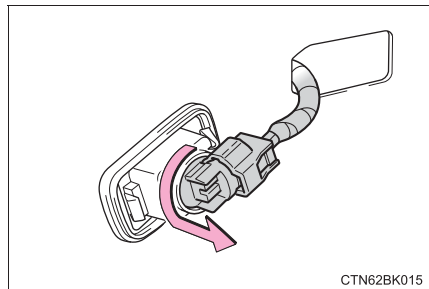


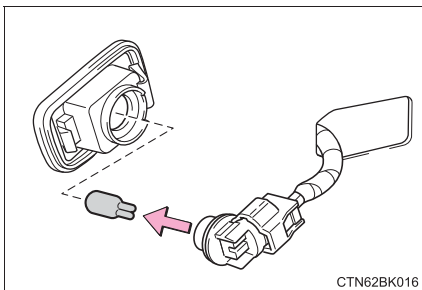
■ サイド方向指示灯／非常点滅灯

- 1 ランプ本体を前に押しつけて取りはずす

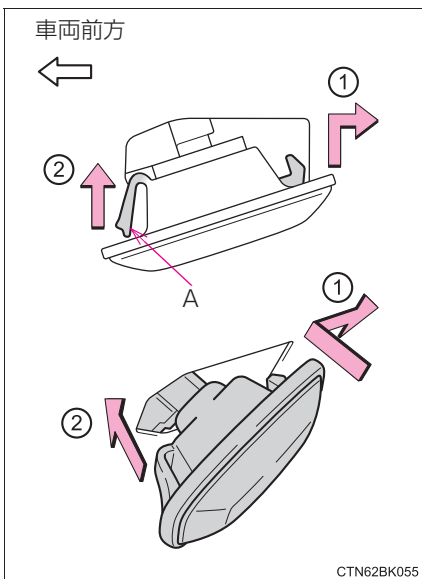


- 2 ソケットを取りはずす



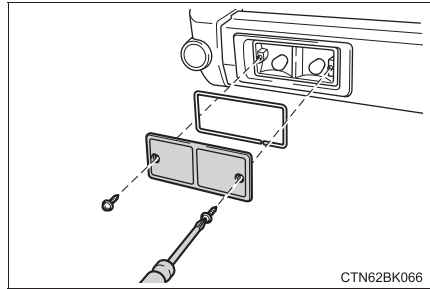
3 電球を取りはずす**4** バルブを取り付けるときは、取りはずしたときの逆の手順で取り付ける

- 5** ランプ本体のバネ部分 A が車両の前方側となるようランプの向きに注意して、先に後方側からランプ本体を取りつける。



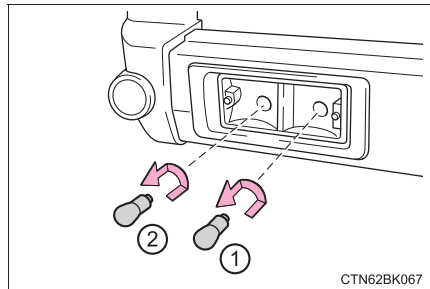
■ 制動灯／尾灯、リヤ方向指示灯／非常点滅灯（バン）

- 1** ネジ（2本）をはずしてランプのレンズ部分を取りはずす



- 2** 電球を取りはずす

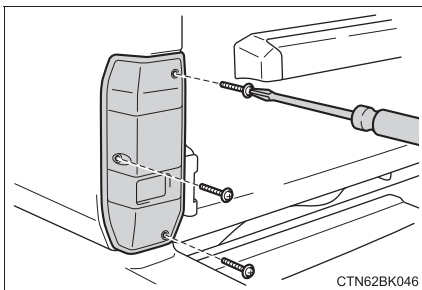
- ① 制動灯／尾灯
② リヤ方向指示灯／非常点滅灯



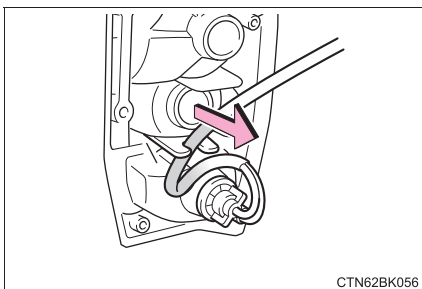
- 3** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯 (バン)

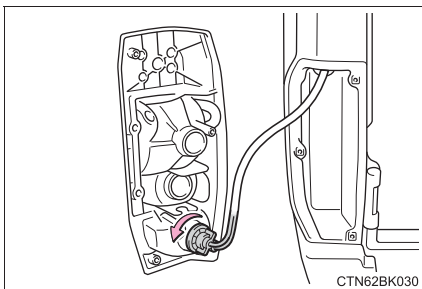
- 1 ネジ (3本) をはずしてランプ
本体をはずす



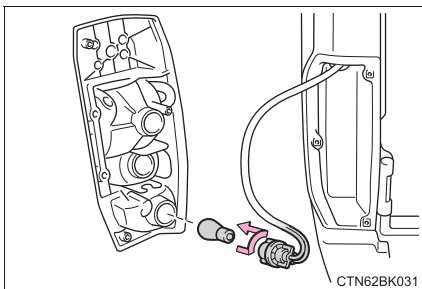
- 2 ランプのハーネスを、ランプ裏
側にあるツメからはずす



- 3 ソケットを取りはずす



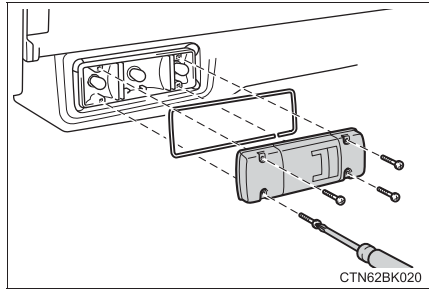
- 4 電球を取りはずす



- 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

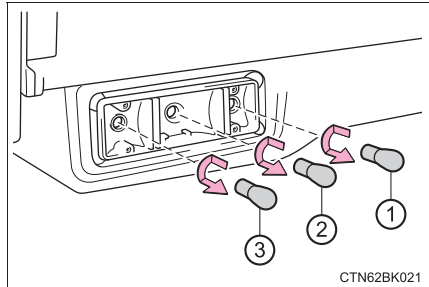
■ 制動灯／尾灯、後退灯、リヤ方向指示灯／非常点滅灯（トラック）

- 1 ネジ（4本）をはずしてランプのレンズ部分を取りはずす



- 2 電球を取りはずす

- ① 後退灯
- ② 制動灯／尾灯
- ③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

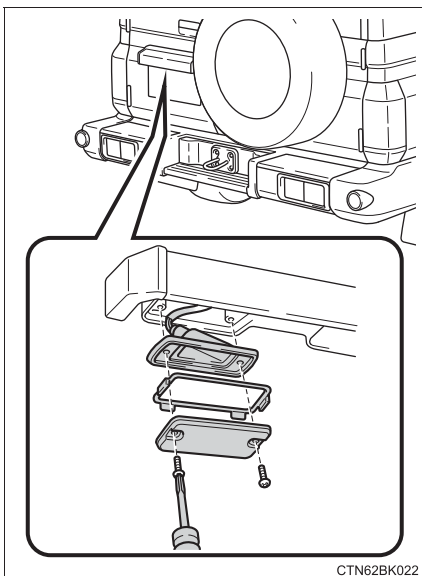


- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

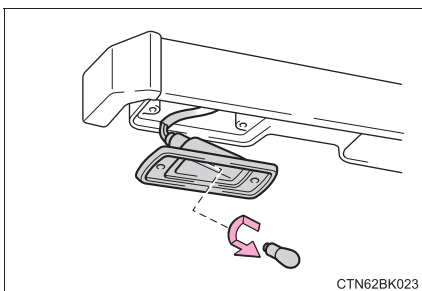
■ 番号灯

▶ バン

- 1 ネジ（2本）をはずしてランプのレンズ部分を取りはずす



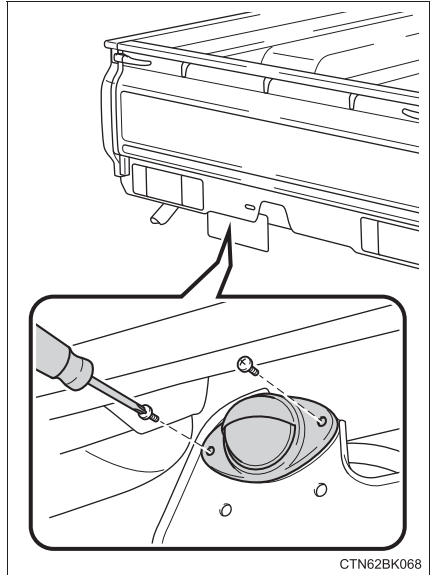
- 2 電球を取りはずす



- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

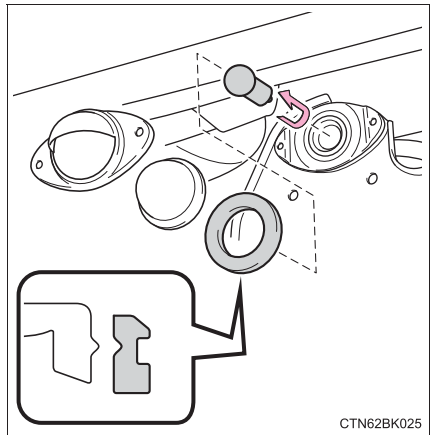
▶ トラック

- 1 ネジ（2本）をはずしてランプのレンズ部分を取りはずす



- 2 電球を取りはずす

取り付けるときは、ゴムパッキンの凹側が車体側となるよう向きに注意してください。



- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ ハイマウントストップランプを交換するには

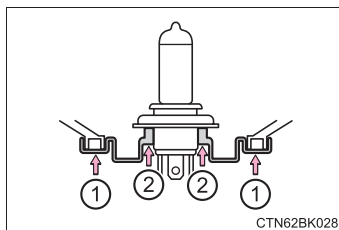
ハイマウントストップランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

知識

■ヘッドランプのゴムカバーを取り付けるときは

確実にはめ込まれていることを確認してください。

- ① ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む
- ② ゴムカバー内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む



■フロント方向指示灯／非常点滅灯を交換するとき

フェンダーライナーの固定クリップをはずしてから交換します。

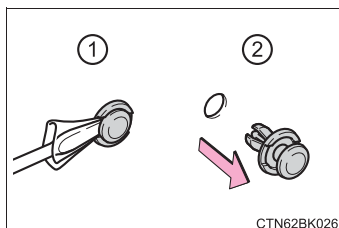
交換後は必ずフェンダーライナーをクリップで固定して、しっかりと取り付けてください。

●クリップの取りはずし方

- ① マイナスドライバーを使用してクリップの中心部分を引き出す

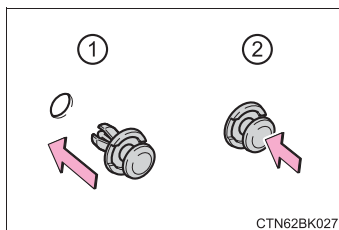
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

- ② クリップを引き抜く



●クリップの取り付け方

- ① クリップを差し込む
- ② クリップの中心を押す



■ハイマウントストップランプを交換するには

ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

警告

■電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	212
非常点滅灯 (ハザードランプ)	213
発炎筒	214
車両を緊急停止するには	216

7-2. 緊急時の対処法

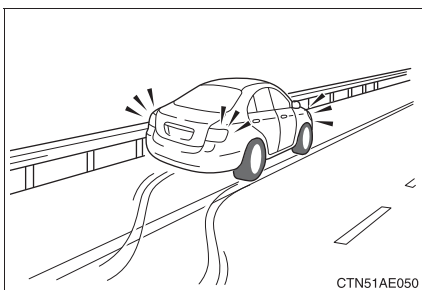
けん引について.....	217
フューエルポンプ シャットオフシステム	223
警告灯がついたときは	224
パンクしたときは.....	226
エンジンが かからないときは	242
バッテリーが あがったときは	243
オーバーヒート したときは.....	246
スタックしたときは	249

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

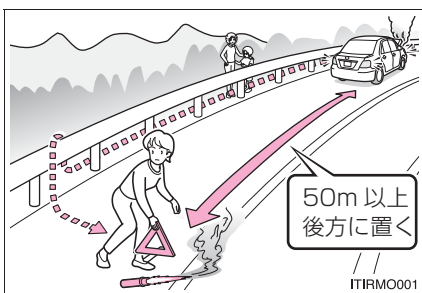
非常点滅灯（→ P. 213）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

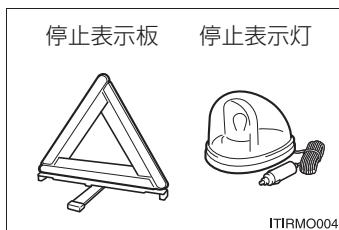
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 214）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

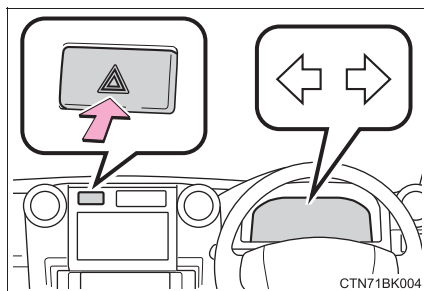


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示器が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



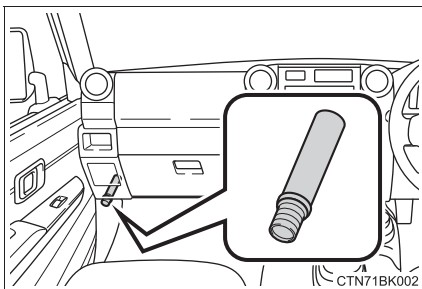
■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

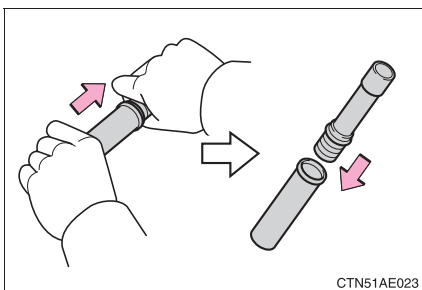
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
 (トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
 発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

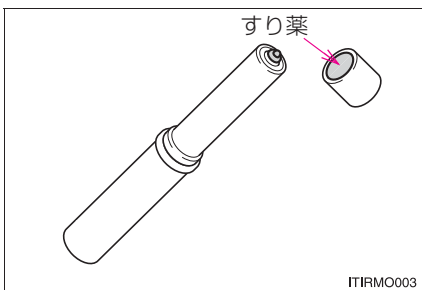
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
 必ず車外で使用してください。
 着火させる際は、筒先を顔や体に向けて
 しないでください。



知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でのお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 **警告****■ 発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

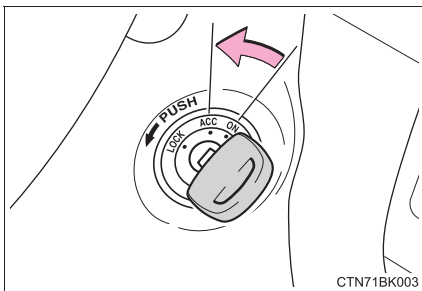
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 エンジンを停止する
▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する



CTN71BK003

- 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

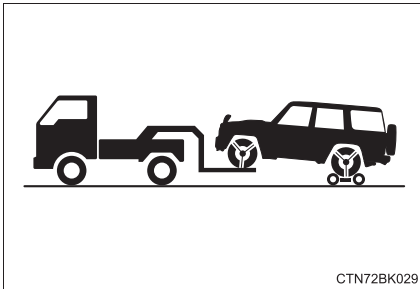
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

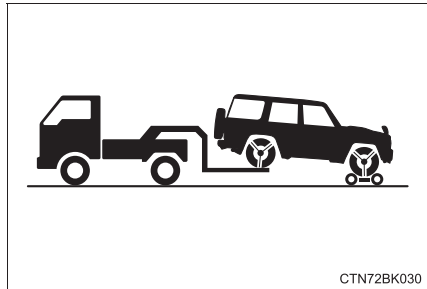
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

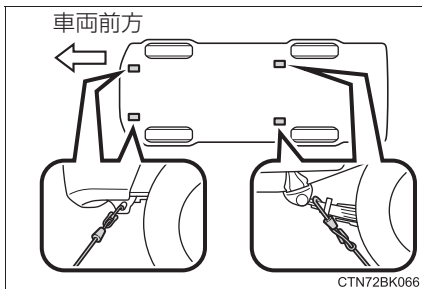
▶ うしろ向きにけん引するときは



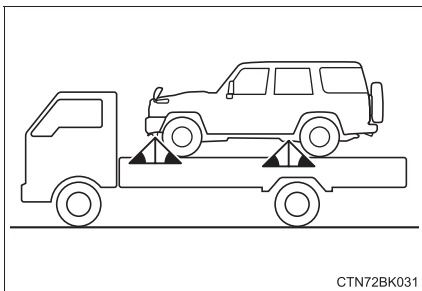
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送されているときは、図の場所にフックを取り付ける

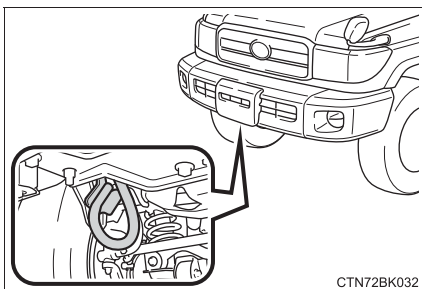


鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する

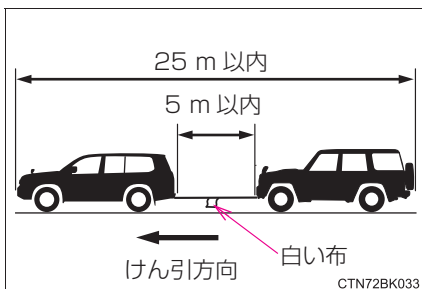


けん引されるときは

- 1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける
前進方向でけん引してください。



- 2 ロープの中央に白い布を付ける
布の大きさ：
0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm) 以上



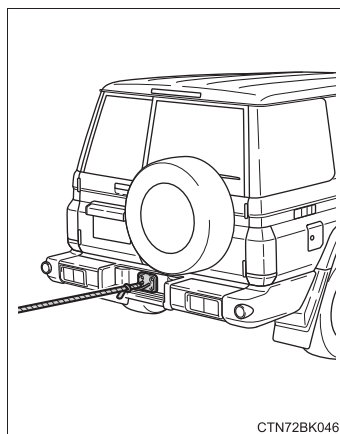
- 3 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける
エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ON”にしてください。
- 4 トランスファーレバーがH2の位置にあることを確認する
4WD作動表示灯が消灯していることを確認してください。
- 5 左右のハブが“AUTO”の位置にあることを確認する（→P. 119）
4WD走行時と反対方向に車両を1mほど移動させ、ハブをフリー状態にします。
- 6 けん引される車両のシフトレバーをNにしてから、パーキングブレーキを解除する
けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

 知識

■ 他車をけん引する

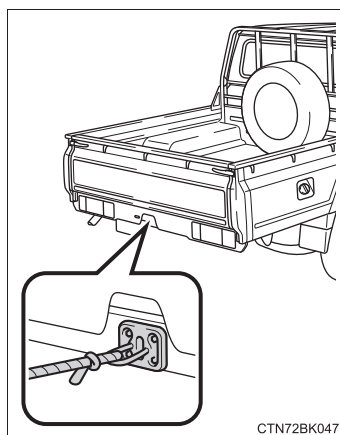
▶ バン

リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。



▶トラック

リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。

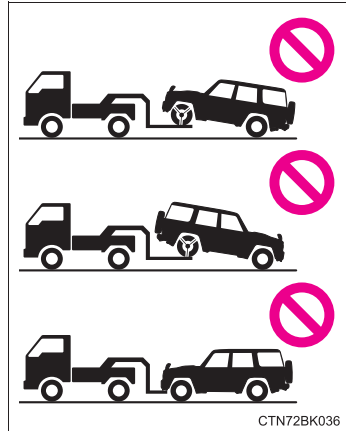


■ けん引フックの使用目的

フロント側のけん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

警告**■車両を運搬するとき**

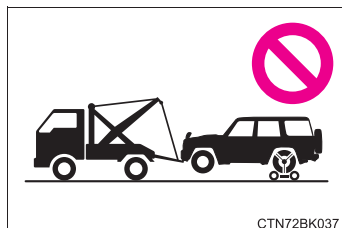
- 4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。

**■けん引中の運転について**

- ロープによるけん引を行うときは、けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 駆動系部品の損傷を防ぐために

- ロープでけん引されるときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度は 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にする
- 2 エンジンを再始動する

注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。



地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯／表示灯	警告灯名／表示灯名・警告内容・対処方法
	<p>ブレーキ警告灯（警告ブザー※¹）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 <p>パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。</p> <p>解除後、消灯すれば正常です。</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。</p>
	<p>充電警告灯</p> <p>充電系統の異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。</p>
	<p>エンジン警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>SRS エアバッグ警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SRS エアバッグシステムの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>ABS 警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ABS の異常 <p>デフロック作動時にも点灯します。デフロックスイッチを OFF にして消灯すれば正常です。</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>半ドア警告灯</p> <p>いずれかのドア、またはバックドアが確実に閉まっていない</p> <p>→ 全ドア・バックドアを閉める</p>

警告灯／表示灯	警告灯名／表示灯名・警告内容・対処方法
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 17 L 以下になった → 燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※²） 運転席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

- ※¹ **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
- ※² **運転席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間鳴り、さらにブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されています。パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。(タイヤについての詳しい説明は、P. 174 を参照してください)



警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

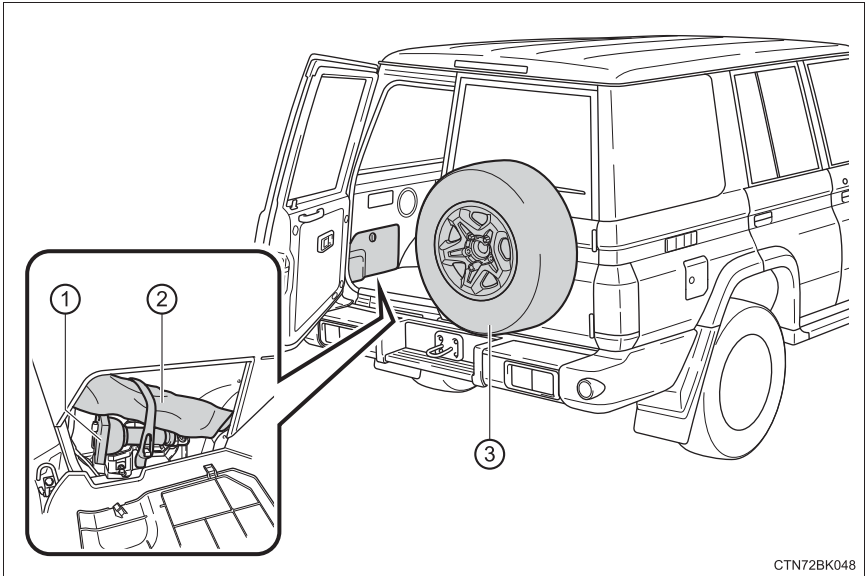
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを R に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→ P. 213)

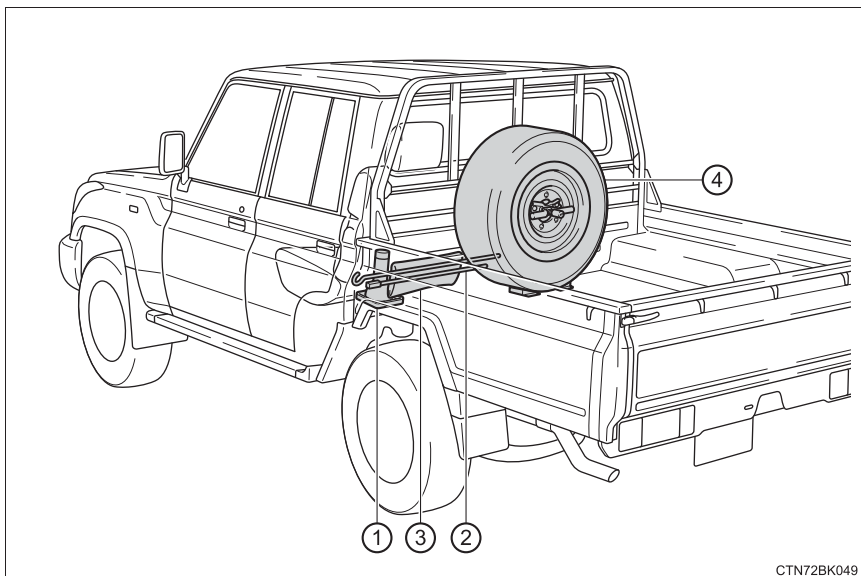
工具・ジャッキ・スペアタイヤの位置

▶ バン



- ① ジャッキ
- ② 工具袋
- ③ スペアタイヤ

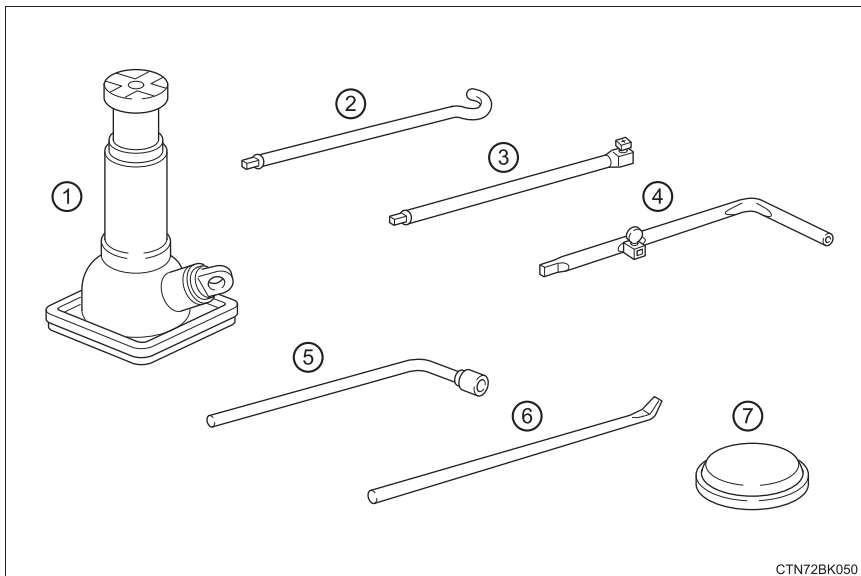
▶ トラック



CTN72BK049

- ① ジャッキ
- ② ジャッキハンドルバー/ジャッキ
ハンドル延長バー
- ③ 工具袋
- ④ スペアタイヤ

■ 搭載工具



- ① ジャッキ
 - ② ジャッキハンドルバー
 - ③ ジャッキハンドル延長バー*
 - ④ ジャッキハンドル
 - ⑤ ホイールナットレンチ
 - ⑥ ホイールキャップレンチ★
 - ⑦ ホイールキャップリプレーサ★
- * バン：2本
トラック：1本

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

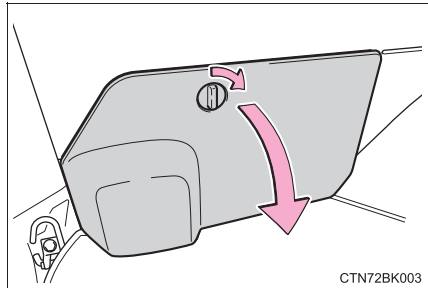
■ ジャッキハンドルを使用するときは

ジャッキハンドルが不意に分解しないように、ジャッキハンドルを組み付けたあと、ネジ部を確実に締め付けてください。

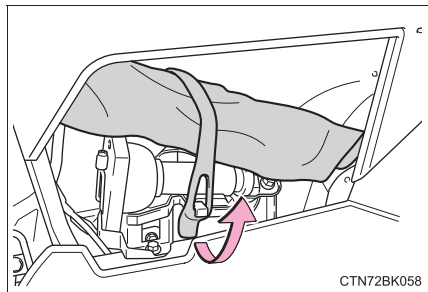
ジャッキおよび工具袋の取り出し方

▶ バン

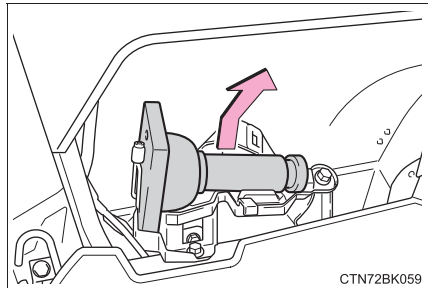
- 1 フタを取りはずす



- 2 固定バンドをはずして工具袋を取り出す

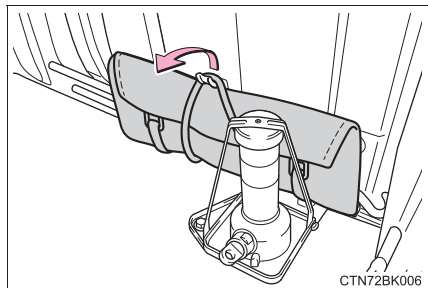


- 3 ジャッキを取りはずす

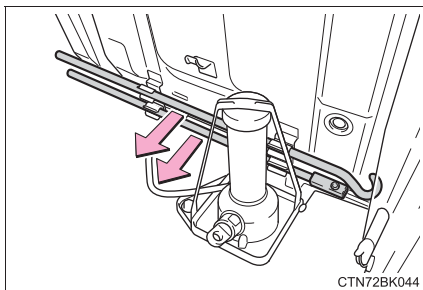


▶ トラック

- 1 リヤシートを折りたたむ (→ P. 71)
- 2 固定バンドをはずして工具袋を取り出す

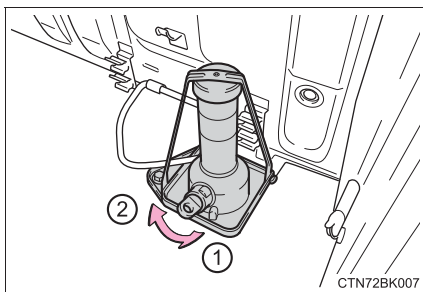


- 3 ジャッキハンドルバーおよびジャッキハンドル延長バーを取りはずす



- 4 ジャッキをゆるめて取りはずす

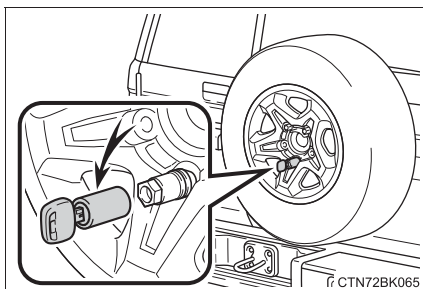
- ① ゆるむ
- ② 締まる



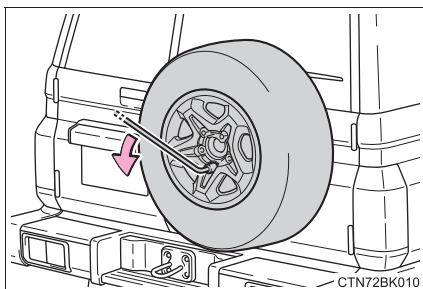
スペアタイヤの取り出し方

▶ バン

- 1 キーをナットカバーに差し込んではずす

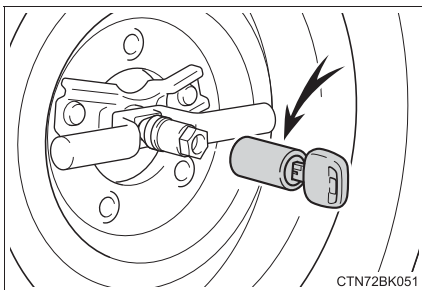


- 2 ホイールナットレンチでナット(3個)をはずしてスペアタイヤを取りはずす

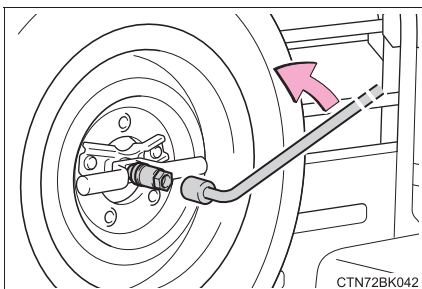


▶ トラック

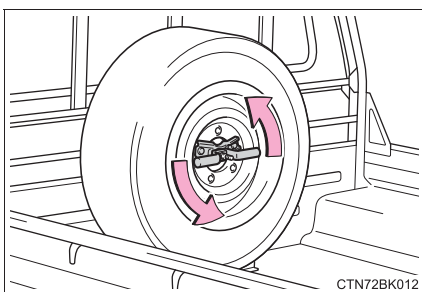
- 1 キーをナットカバーに差し込んではずす



- 2 ホイールナットレンチでナット（1個）をはずす



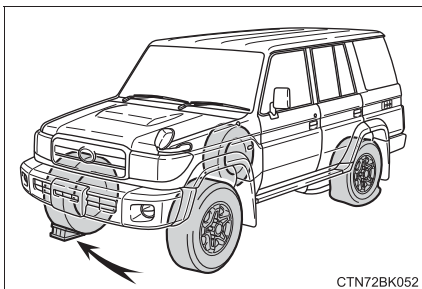
- 3 ハンドルを左に回して固定ブラケットとハンドルをはずし、スペアタイヤを取りはずす



パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。



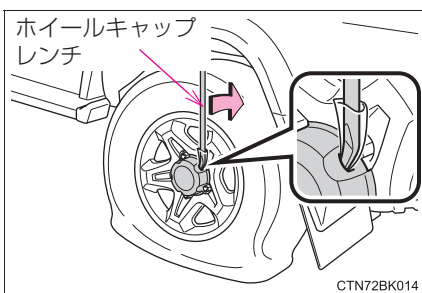
CTN72BK052

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 センターオーナメント装着車：センターオーナメントをはずす

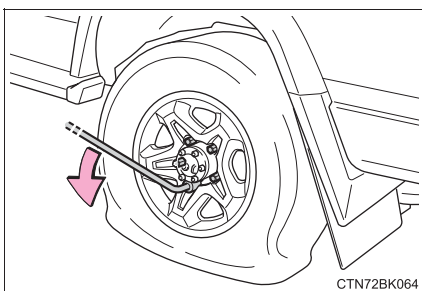
ホイールキャップレンチの先端を図のように挿し込んで、センターオーナメントをはずします。

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。



CTN72BK014

3 ナットを少し(約1回転)ゆるめる



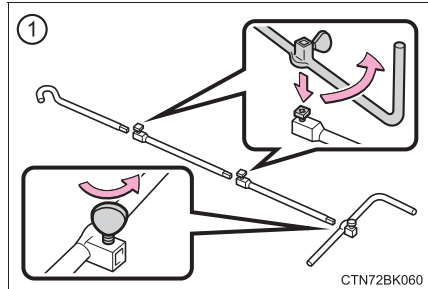
CTN72BK064

4 ジャッキハンドルを組み付ける

ジャッキハンドル・ジャッキハンドル延長バー・ジャッキハンドルバーを取り出し（→P. 229）、図のように組み付けます。

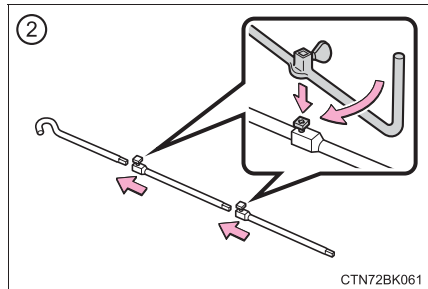
トラックはジャッキハンドル延長バーが 1 本となりボルトも 1 本となりますが、組み付け方法は同じです。

- ① ボルト（2本）・ネジ部（1ヶ所）をジャッキハンドルを使用してゆるめる

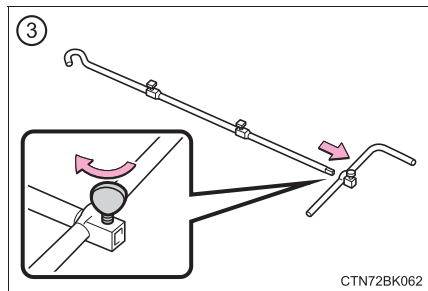


- ② ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルバーを組み付け、ボルト（2本）を締め付ける

ボルトがしっかりと固定されていることを確認します。



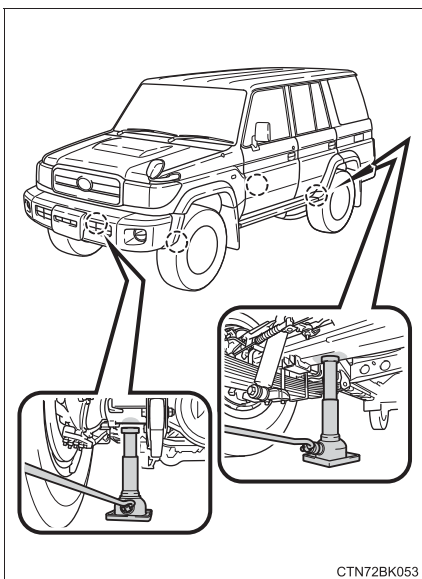
- ③ ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルを組み付け、ネジ部（1ヶ所）を締め付ける
ネジ部がしっかりと固定されていることを確認します。



- 5 組み付けたジャッキハンドルをジャッキ穴部に挿し込みジャッキセット位置にジャッキをかける

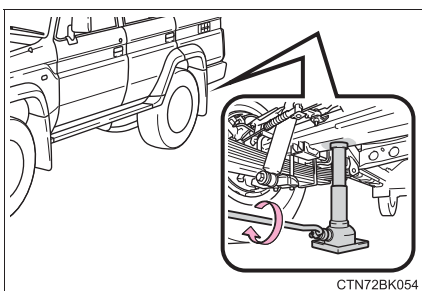
ジャッキセット位置：

フロント	フロントアクスルハウジング下
リヤ	リヤアクスルハウジング下



CTN72BK053

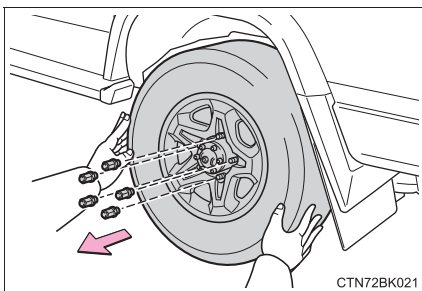
- 6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



CTN72BK054

- 7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にして置きます。



CTN72BK021

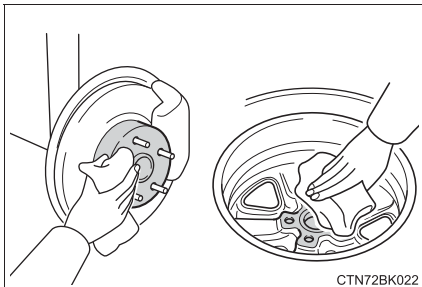
 **警告****■ タイヤ交換について**

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
 - ・ センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
 - ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに下記の力でナットを締める
アルミホイール装着車：131N・m (1340kgf・cm)
スチールホイール装着車：209N・m (2130kgf・cm)
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
(→ P. 176)

タイヤの取り付け

- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る

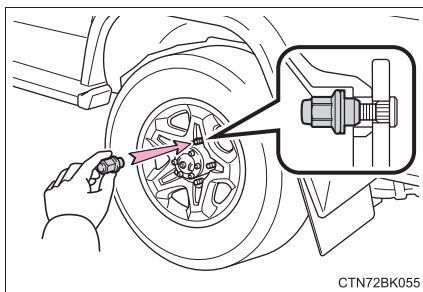
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



CTN72BK022

- 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

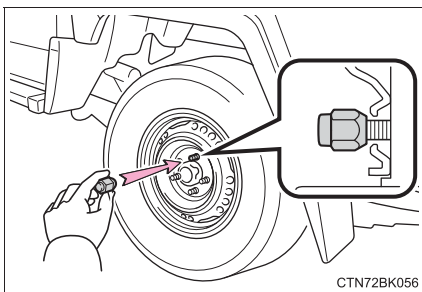
▶ アルミホイール装着車



CTN72BK055

ナットの座金がホイールにあたるまでまわします。

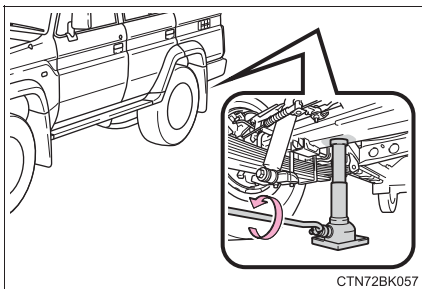
▶ スチールホイール装着車



CTN72BK056

ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。

- 3 車体を下げる



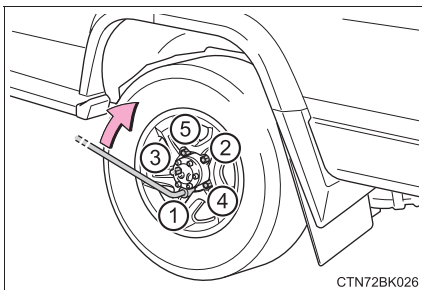
CTN72BK057

- 4 図の番号順でナットを2、3度
しっかり締め付ける

締め付けトルク：

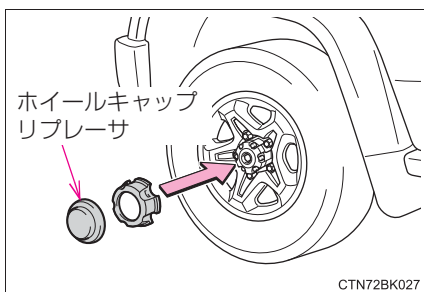
アルミホイール装着車：131N・m
(1340kgf・cm)

スチールホイール装着車：209N・m
(2130kgf・cm)

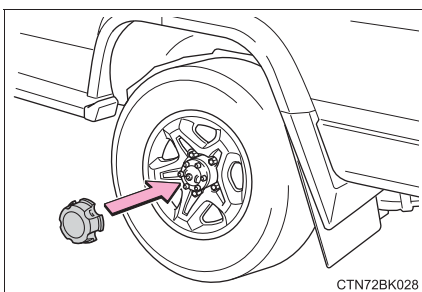


- 5 センターオーナメント装着車：センターオーナメントを取り付ける
フロントホイールの場合はホイールキャップリプレースを使用してください

▶ フロント



▶ リヤ



- 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する (→ P. 240)

パンクしたタイヤ・ジャッキ・工具の収納

▶ バン

- 1 タイヤをバックドア背面に取り付ける
- 2 ナットを回してタイヤを固定する
必要に応じナットカバーを取り付け再度施錠をしてください
- 3 工具・ジャッキを収納する

▶ トラック

- 1 タイヤを固定ブラケットと共に取り付ける
- 2 ハンドルを回してタイヤを固定する
必要に応じナットおよびナットカバーを取り付け再度施錠をしてください
- 3 工具・ジャッキを収納する



知識

■ スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。(→ P. 256)

 **警告****■ 工具・ジャッキを使用したあとは**

走行前に必ず、指定の場所に確実に収納してください。車室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具類が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■パンクしたタイヤを格納するときは**

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 99）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 99）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 46）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 243）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

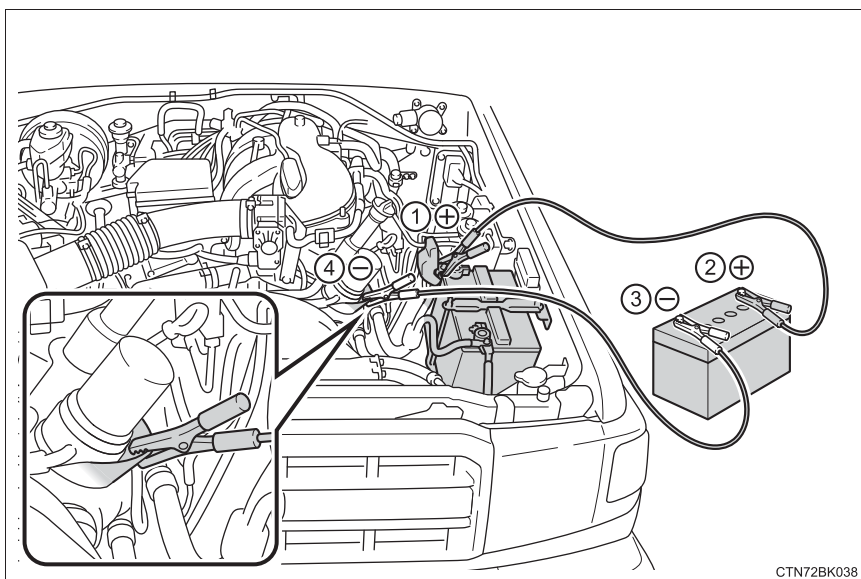
- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 243）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 ボンネットを開ける（→P. 178）
- 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ
 - ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ



- 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車のバッテリーを充電する

- 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、自車のエンジンをかける
- 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリー + 端子のカバーをもとにもどしてください。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

 **警告****■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です
ので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部
品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必
ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車
体に付着しないようにする
- 必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の
水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてて
おく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察
を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

 **注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに
巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

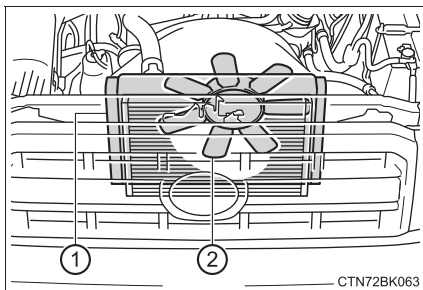
- メーター内の水温計の針（→ P. 51）がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

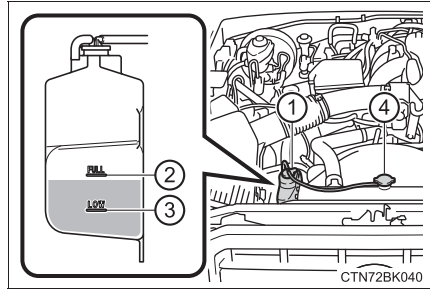
- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



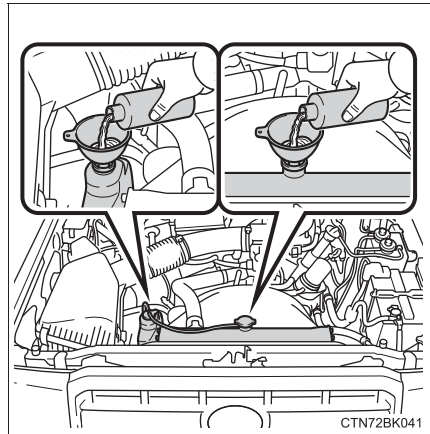
- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

- ① リザーバータンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）
- ④ ラジエーターキャップ



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 エンジンを始動し、ラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する
- ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

 **警告****■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために**

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→ P. 178）の注意事項も併せてお読みください。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 **注意****■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを N にして、エンジンを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーを 1 速または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

■ 脱出しにくいとき

脱出しにくいときは、次の機能を使用すると脱出が容易になる場合があります。スタックの状況に合わせて参考にしてください。

- ・ 4WD システム (→ P. 118)
- ・ デフロック★ (→ P. 124)
- ・ ウインチ★ (→ P. 126)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ 脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ

(指定燃料・
オイル量など)252

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	130

エンジンオイル

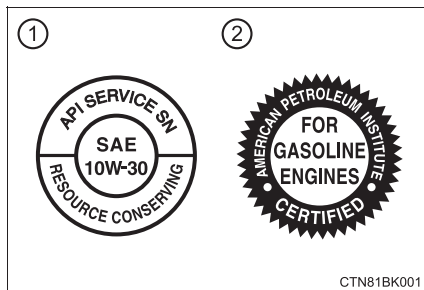
指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルと オイルフィルター 交換
トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキャッスルモーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	5.1	5.4

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

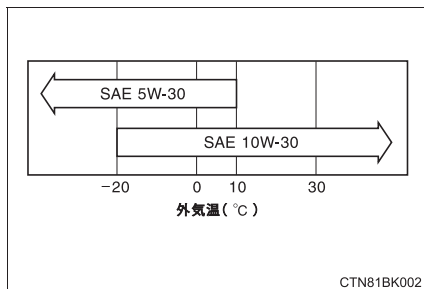
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。
 なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について (例として 10W-30 で説明します) :

- ・ 10W-30 の 10W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 10W-30 の 30 は、高温時の粘度特性を示しています。
 粘度の高い (数値が大きい) オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% -12℃ 濃度 50% -35℃	11.8

マニュアルトランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ (API GL-3 SAE 75W-90)	2.9

ディファレンシャル

指定銘柄 (推奨粘度)	項目	容量 [L] (参考値)	
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	フロント	2.85	
	リヤ	ノーマル	2.4
		デフロック 付き	2.3

トランスファー

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ (API GL-3 SAE 75W-90)	1.5

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正パワーステアリング フルード	1.3

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※ ¹	136

※¹ エンジン停止時かつ負圧なしの状態にて 300N (30kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
引きしろ 操作力 200N (20kgf) のときのノッチ数 ※ ²	7 ~ 9

※² ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

クラッチ

■ クラッチフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	5 ~ 15
プッシュロッドの遊び	1 ~ 5
ペダル切れ残り代※	25 以上

※ クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)	フロント	3.0
	リヤ★	1.5

タイヤ・ホイール

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)		
			積載状態	前輪	後輪
バン	265/70R16 112S	16 × 7JJ	空車	240 (2.40)	240 (2.40)
			積車	240 (2.40)	240 (2.40)
トラック	7.50R16LT 114/112R	16 × 5.50F	空車	250 (2.50)	300 (3.00)
			積車	250 (2.50)	475 (4.75)

電球 (バルブ)

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドランプ	60/55
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	車幅灯	5
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	21/5
	ハイマウントストップランプ★	LED
	後退灯	21
	番号灯	
バン	5	
トラック	10	
車内	フロントルームランプ	10
	リヤルームランプ★	10

車両仕様

型式	車両形状	エンジン	駆動方式
GRJ76K	バン	1GR-FE (4.0L ガソリン)	4WD (4 輪駆動)
GRJ79K	トラック		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは （症状別さくいん）.....	260
車から音が鳴ったときは （音さくいん）.....	263
アルファベット順さくいん.....	264
五十音順さくいん.....	265

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーまたはワイヤレスリモコンをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはワイヤレスリモコンを作ることができます。（→ P. 57）
- キーまたはワイヤレスリモコンをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 58）



施錠・解錠できない

- ワイヤレスリモコンの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 185）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 61）

故障かな？と思ったら**エンジンがかからない**

- クラッチペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチをまわしていますか？（→ P. 99）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 100）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 243）

**エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった**

- 盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます。（→ P. 100）

**パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない**

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 81）

**警告音が鳴りだした**

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 263）をご確認ください。

**警告灯が表示されたとき**

- 警告灯が表示されたときは、P. 224 をご確認ください。

トラブルが発生した**タイヤがパンクした**

- 車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 226）

**立ち往生した**

- めかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 249）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	エンジンスイッチにキーが挿してある	P. 100
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 108

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	パーキングブレーキが解除されていない	P. 224
	運転席のシートベルトを着用していない	P. 225

アルファベット順さくいん

2WD

(2 ホイールドライブ) 118

4WD

(4 ホイールドライブ) 118

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 116, 224

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション) 253

LED

(ライトエミッティングダイオード) 209

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 30, 224

五十音順さくいん

あ

アースポイント	
(バッテリーあがりの処置).....	243
アウターミラー (ドアミラー)	
操作	78
アクセサリコネクタ	141
アンチロックブレーキシステム	
(ABS)	116

い

イグニッションスイッチ	
(エンジンスイッチ)	99
位置交換	
(タイヤローテーション)	174
イベントデータレコーダー	
(EDR)	8
イモビライザーシステム	46
インジケーター	
表示灯	50
インナーミラー	77

う

ウインカー (方向指示灯)	
電球 (バルブ) の交換	194
方向指示レバー	104
ワット数	256
ウインチ	126
ウインドウ	
ウォッシャー	109, 111
パワーウインドウ	81
リヤウインドウ	
デフォッガー	151
ウインドウロックスイッチ	81
ウォーニングランプ	
(警告灯)	224
ウォッシャー	
液の補給	183
スイッチ	109, 111
タンク容量	256
冬の前の準備・点検	145
動けなくなったときは	
(スタック)	249
運転	
運転を補助する装置	116
寒冷時の運転	145
正しい運転姿勢	24
手順	88

え

エアコン・デフォッガー	150
エアバッグ	
SRS エアバッグ警告灯	224
作動条件	33
配置	30
エンジン	
エンジンイモビライザー	
システム	46
エンジン回転計	
(タコメーター)	51
エンジンがかからない	
(エンジンが始動	
できない)	242
エンジン警告灯	224
エンジンスイッチ	99
エンジンの始動方法	99
オーバーヒート	246
ボンネット	178
エンジンオイル	
冬の前の準備・点検	145
メンテナンスデータ	252
エンジンスイッチ	99
エンジンフード (ボンネット)	
開け方	178
エンジンルーム	
エンジンルームから蒸気が	
出ている	246

お

オーバーヒート	246
オープナー	
ボンネット	178
オイル (エンジンオイル)	252
お子さまを乗せるとき	
ウインドウロックスイッチ	81
お子さまの安全のために	36
子供専用シート	37
シートベルトの着用	27
チャイルドシートの	
取り付け	43
チャイルドプロテクター	61
オドメーター	
機能	51
表示の切りかえ・	
リセットボタン	52

か

カーペット	
洗浄	172
フロアマットの取り付け方	22
外気温度表示	164
外装の電球 (バルブ)	
交換要領	194
ワット数	256
回転計 (タコメーター)	51
型式	257
ガラスの曇り取り (リヤウインドウ デフォッガー)	151
冠水路走行	96
寒冷時の運転	145

き

キー	
キーナンバープレート	56
キーの構成	56
キーレスエントリー	56
ワイヤレスリモコン	56
キーレスエントリー	
ワイヤレスドアロック	59
給油	
給油のしかた	112
メンテナンスデータ	252
緊急時の対処	
エンジンが始動できない	242
オーバーヒートした	246
警告灯がついた	224
けん引	217
故障したときは	212
車両を緊急停止する	216
スタックした	249
発炎筒	214
バッテリーがあがった	243
パンクした	226

く

空気圧 (タイヤ)	
メンテナンスデータ	256
区間距離計	
(トリップメーター)	
機能	51
切りかえ・	
リセットボタン	52
曇り取り	
リヤウインドウ	
デフォッガー	151
クラクション (ホーン)	75
クリアランスランプ (車幅灯)	
スイッチ	106
電球 (バルブ) の交換	194
クリップ	
フロアマット	22
グローブボックス	158

け

警音器 (ホーン)	75
計器類 (メーター)	
照度調整	52
メーター	51
警告灯	
ABS	224
SRS エアバッグ	224
エンジン	224
シートベルト非着用	225
充電	224
燃料残量	225
パーキングブレーキ	224
半ドア	224
ブレーキ	224
警告ブザー	
シートベルト非着用	225
パーキングブレーキ	
未解除走行時	224
ランプ消し忘れ	108
けん引	
けん引のしかた	217
フック	217

こ

交換	
ワイヤレスリモコンの電池.....	185
電球（バルブ）.....	194
ヒューズ.....	187
工具（ツール）.....	227
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換.....	194
ワット数.....	256
子供専用シート	
選択方法.....	37
取り付け方.....	43
コンソールボックス.....	159

さ

サイド方向指示灯	
電球（バルブ）の交換.....	194
方向指示レバー.....	104
ワット数.....	256
サイドミラー（ドアミラー）	
操作.....	78
サンバイザー.....	162

し

シート	
子供専用シート.....	37
正しい運転姿勢.....	24
手入れ.....	172
フロントシート.....	70
ヘッドレスト.....	73
リヤシート.....	71
シートベルト	
お子さまの着用.....	27
緊急時シートベルト固定機構.....	27
シートベルト非着用警告灯.....	225
正しく着用するには.....	26
着け方・はずし方.....	26
手入れ.....	172
妊娠中の方の着用.....	28
シートベルト非着用警告灯.....	225
室内灯ルームランプ.....	155
始動のしかた.....	99
シフトレバー	
操作.....	102
締め付けトルク（ホイール）.....	239
ジャッキ	
車載ジャッキ.....	227
ジャッキハンドル.....	227
車幅灯	
電球（バルブ）の交換.....	194
ランプスイッチ.....	106
車両型式.....	257
車両仕様（スペック）.....	252
車両データの記録.....	7
車両を緊急停止するには.....	216
ジュニアシート.....	38
仕様（車両仕様）.....	252

す

水温計	51
スイッチ	
イグニッション	99
ウインドウロック	81
ウォッシャー	109
エンジンスイッチ	99
デフロック	124
ドアミラー	78
ドアロック	60
パーキングブレーキ	105
パワーアンテナ	143
パワーウインドウ	81
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	213
方向指示レバー	104
ホーン (警音器)	75
ランプ	106
リヤウインドウ	
デフォグガー	151
ワイパー	109, 111
スタック	249
ステアリングホイール (ハンドル)	
位置調整	75
ステアリングロック	
解除するには	100
ストップランプ (制動灯)	
電球 (バルブ) の交換	194
スノータイヤ (冬用タイヤ)	145
スピードメーター	51
スペアタイヤ (応急用タイヤ)	
空気圧	256
スペック (車両仕様)	252
スモールランプ (車幅灯)	
電球 (バルブ) の交換	207
ランプスイッチ	106
スライド式リヤガラス	85

せ

清掃	
アルミホイール	170
エアコンフィルター	180
外装	170
シートベルト	172
内装	172
制動灯	
電球 (バルブ) の交換	194
積算距離計 (オドメーター)	
機能	51
表示の切りかえ	
リセットボタン	52
洗車	170
前照灯 (ヘッドランプ)	
電球 (バルブ) の交換	194
ランプスイッチ	106

そ

速度計 (スピードメーター)	51
----------------------	----

た

ターンシグナルランプ (方向指示灯)	
電球 (バルブ) の交換.....	194
方向指示レバー	104
ワット数.....	256
タイヤ	
空気圧.....	256
締め付けトルク	239
点検	174
パンクしたときは	226
ホイールサイズ.....	256
ローテーション	
(位置交換)	174
タイヤが空まわりする	
(スタックした)	249
タイヤチェーン.....	145
タコメーター (回転計)	51

ち

チェーン (タイヤチェーン).....	145
チャイルドシート	
シートベルトでの固定	43
選択方法	37
チャイルドプロテクター.....	61
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	
操作	105
パーキングブレーキ警告灯	224
未解除走行時警告ブザー	224
メンテナンスデータ	255

つ

ツール (工具).....	227
---------------	-----

て

ディファレンシャル	254
手入れ	
アルミホイール	170
エアコンフィルター	180
外装	170
シートベルト	172
内装	172
デッキフック	161
テールランプ (尾灯)	
電球 (バルブ) の交換	194
ランプスイッチ	106
デフロック	124
デフォッガー	
(リヤウインドウ	
デフォッガー)	151
点検基準値	
(メンテナンスデータ)	252
電池交換 (キー)	185

と

ドア	
チャイルドプロテクター	61
ドアガラス	81
ドアロックスイッチ	62
半ドア警告灯	224
ロックボタン	60
ワイヤレスリモコン	56
ドアミラー	
操作	78
盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム	46
時計	164
トランスファーレバー	118
トランスミッション	
操作	102
メンテナンスデータ	254
トリップメーター	
機能	51
切りかえ・リセットボタン	52

な

内装	
収納装備	157
手入れ	172

に

荷物	
積むときの注意	97
荷物固定用フック	161

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)	249
---------------------------	-----

ね

燃料	
給油	112
種類	252
燃料残量警告灯	225
容量	252
燃料計	51

は

パーキングブレーキ	
操作	105
ブレーキ警告灯	224
未解除走行時警告ブザー	224
メンテナンスデータ	255
排気ガス	45
ハイビーム (ヘッドライト)	
電球 (バルブ) の交換	194
ランプスイッチ	106
ワット数	256
ハザードランプ (非常点滅灯)	
スイッチ	213
電球 (バルブ) の交換	194
ワット数	256
発炎筒	214
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	194
ワット数	256
バックドア	
ドアロックスイッチ	62
半ドア警告灯	224
ワイヤレスリモコン	59
バッテリーがあがった	243

バルブ (電球)

- 交換要領 (外装のバルブ)..... 194
- ワット数..... 256
- パワーアンテナ..... 143
- パワーウィンドウ
 - ウィンドウロックスイッチ..... 81
 - 操作..... 81
- パンクした
 - パンクしたときは..... 226
- 番号灯 (ライセンスプレートランプ)
 - 電球 (バルブ) の交換..... 194
 - ランプスイッチ..... 106
- ハンドル (ステアリングホイール)
 - 位置調整..... 75

ひ**ヒーター**

- エアコン・デフォグガー..... 150
- リヤヒーター..... 154
- 非常点滅灯 (ハザードランプ)
 - スイッチ..... 213
 - 電球 (バルブ) の交換..... 194
 - ワット数..... 256
- 尾灯 (テールランプ)
 - 電球 (バルブ) の交換..... 194
 - ランプスイッチ..... 106
- ヒューズ..... 187
- 日よけ (サンバイザー)..... 162

ふ

ブースターケーブルの つなぎ方	243
ブザー	
シートベルト非着用警告	225
パーキングブレーキ未解除 走行時警告	224
ランプ消し忘れ警告ブザー	108
フック	
けん引フック	217
荷物固定用フック	161
フロアマット固定フック	22
フューエルメーター（燃料計）	51
フューエルリッド（給油口）	
給油のしかた	112
冬の前の準備（寒冷時の運転） ...	145
冬用タイヤ	145

ブレーキ

パーキングブレーキ	105
メンテナンスデータ	255
ブレーキ付近からキーキー音が 聞こえる	92
ブレーキフルード	255
フロアマット	22
フロントシート	
正しい運転姿勢	24
調整	70
手入れ	172
ヘッドレスト	73
フロントデフロック	124
フロント方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	194
方向指示レバー	104
ワット数	256

へ

ヘッドランプ	
電球（バルブ）の交換.....	194
ランプスイッチ.....	106
ヘッドレスト.....	73
ベビーシート.....	38

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）.....	226
メンテナンスデータ.....	256
ホーン（警音器）.....	75
補助確認装置.....	80
方向指示灯	
電球（バルブ）の交換.....	194
方向指示レバー.....	104
ワット数.....	256
バッテリーがあがった.....	243
保証.....	9
ボンネット.....	178

ま

マニュアル	
トランスミッション.....	102

み

ミラー	
インナーミラー.....	77
ドアミラー.....	78
補助確認装置.....	80

め

メーター（計器類）	
警告灯.....	224
照度調整.....	52
表示灯.....	50
メーター.....	51
メンテナンスデータ.....	252

ゆ

雪道ですべて動けない （スタックした）.....	249
油脂類.....	252

ら

ライセンスプレートライト (番号灯)	
電球 (バルブ) の交換.....	194
ランプスイッチ	106
ラジエーター	
オーバーヒート	246
メンテナンスデータ	254
ランプ	
室内灯.....	155
手動光軸調整ダイヤル.....	107
電球 (バルブ) の交換.....	194
非常点滅灯	
(ハザードランプ).....	213
ヘッドランプ (前照灯).....	106
方向指示灯 (ターンシグナル	
ランプ/ウインカー).....	104
ワット数.....	256

り

リヤウインドウデフォッガー	
スイッチ	151
リヤシート	71
リヤデフロック.....	124
リヤ方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換.....	194
方向指示レバー	104
ワット数.....	256
リヤワイパー	111

る

ルームミラー	
(インナーミラー).....	77
ルームランプ (室内灯).....	156

れ

冷却水	
水温計	51
冬の前の準備	145
メンテナンスデータ	254
冷却装置 (ラジエーター)	
オーバーヒート.....	246
メンテナンスデータ	254
レバー	
シフト	102
トランスファー.....	118
方向指示	104
ボンネット解除.....	178

ろ

ロック

ウインドウロック	81
チャイルドプロテクター	61
ドア	59
ワイヤレスリモコン	56

わ

ワイパー & ウォッシャー

間欠時間調整式ワイパー	109
-------------------	-----

ワイパーブレード (寒冷地用) ...	146
---------------------	-----

ワイヤレスリモコン

作動の合図	59
操作	56
電池の交換	185

ワックス	170
------------	-----

ワット数	256
------------	-----

ガソリンスタンドでの情報 (バン)

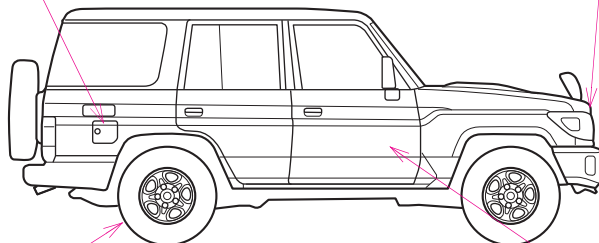
給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。

給油口

P. 112

ボンネットフック

P. 178



CTNPIBK007

タイヤ空気圧

P. 256

ボンネット解除レバー

P. 178

燃料の容量 (参考値)	130L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク) P. 252
タイヤが冷えているときの空気圧	265/70R16 112S 240kPa (2.40kg/cm ²)
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 : 5.1L オイルとフィルター交換時 : 5.4L
エンジンオイルの種類	トヨタキャッスルモーターオイル ・ SN 5W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN10W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30)

ガソリンスタンドでの情報 (トラック)

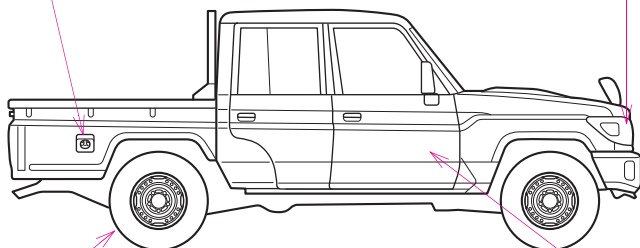
給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

給油口

P. 112

ボンネットフック

P. 178



CTNPIBK008

タイヤ空気圧

P. 256

ボンネット解除レバー

P. 178

燃料の容量 (参考値)	130L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク) P. 252
タイヤが冷えているときの空気圧	7.50R16LT 114/112R ・ 空車時 前輪 : 250kPa (2.50kg/cm ²) 後輪 : 300kPa (3.00kg/cm ²) ・ 積車時 前輪 : 250kPa (2.50kg/cm ²) 後輪 : 475kPa (4.75kg/cm ²)
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 : 5.1L オイルとフィルター交換時 : 5.4L
エンジンオイルの種類	トヨタキヤッスルモーターオイル ・ SN 5W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN10W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450 - 8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp/>にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>



M 60G51
01999-60G51
0C-2015年3月2日
2014年8月1日 初版
2015年3月9日 2版
ランドクルーザー70